

- 1) イマミコール 1.0
右臀筋内注射料, 1週1回
- 2) 青酸酸化汞 1.0
アコイン(又ハ硝酸「アリピン」) 0.05
硼酸 0.3
蒸餾水 10.0
右混和, 1 珄宛, 隔日臀筋内注射
- 3) ザリチール酸汞 1.0
流動パラフィン 10.0
右混和, 1週1回, 1.0 珄宛, 或ハ1週2回 0.5 珄宛臀筋内注射
- 4) アズロール 5.0
5% 鹽酸コカイン水 100.0
右混和, 0.5-1.0 珄宛, 隔日注射
- 5) エネゾール 1.0-2.0
右毎日又ハ隔日臀筋内注射, 5-8日ノ間隔ヲ以テ漸次増加シ且間隔ヲ短縮スベシ.

1) Imamicol	1.0
2) Hydrargyri oxycyanati	1.0
Acoini (Alypini nitric.)	0.05
Acid. borici	0.3
Aq. dest.	10.0
3) Hydrargyri salicylici	1.0
Paraffini liquidi	10.0
4) Asurol	5.0
5) Enesoi	1.0-2.0
S. Zur intramuculären Injektion.	

- 1) ノヴズロール
右1週2回1珄宛, 10-20回注射ヲ1巡トス.
沃度療法 (Jodtherapie) 本來沃度療法ハ第三期徽毒ニ有效ナルモノナリ. 本症ニ於テハ缺クベカラザルモノニシテ, 水銀劑ヲ與フル際合併療法トシテ用フルハ勿論, 之ヲ中止シタル後モ久時連用セシムベシ.
沃度劑ハ多クハ沃度加里又ハ沃度「ナトリウム」ノ内服トシテ用ヒラレ, 漸次ニ其分量ヲ増加スルヲ可トス. 時ニ筋肉内注射, 靜脈内注射問題トナル. 然レドモ靜脈内注射療法ノ如キハ實際的ナラザルノミナラズ, 之ヲ強行スル利益毫モナシ.
- 2) 沃度加里(又ハ「ナトリウム」) 1.0-3.0
重曹 2.0
苦丁 1.0
單舎 7.0
水 100.0
右1日量, 3回分服
- 3) 沃度アルヅッチット錠 3-12個
右1日量, 3回分服
- 4) サヨヂン錠 3-4個
右1日量服, 3回分
- 5) ヨヂピン(10%)
右1日3回, 1茶匙宛
- 6) ヨヂピン(25%) 5.0-10.0 珄
右臀筋内注射料, 1週1-2回, 10回注射ニ至リテ暫時中止シ, 一定時ノ後反覆ス
- 1) Novasuroli 1.0-3.0
S. Zur intramusalären Injektion.

- ① ヨードピン 10 錠
右臀筋内注射料, 10% ノモノハ 2-3 日目 = 1 回,
25% ノモノハ 1 週 1 回
- ② 沃度 1.5
沃度加里 5.0
蒸留水 100.0
右爲溶解殺菌静脈内注射料, 15-20 錠宛
- ③ 5% 沃度加里液 2.0 錠
右爲静脈注射料, 毎日 1 回
- ④ 10% 沃度ナトリウム液 5-20 錠
右爲静脈内注射料, 1 週 2-3 回

サルヴァルサン療法 (Salvarsantherapie) 本療法ハ「メタ」黴毒ノ場合ヨリモ問題トナル事多シ。其治療作用ハ水銀劑, 沃度劑ニ優越スト思考スルコト能ハザレドモ, 急救ノ場合ニハ是ニヨリテ速效ヲ求メザルベカラザル場合アリ。斯ル場合ニモ種々ノ副作用ヲ顧慮シ且適應症ヲ考量シタル後, 先ヅ少量ヨリ細心ノ注意ノモトニ使用シ且常ニ沃度劑及水銀劑トノ併用ヲ忘ルベカラズ。

病竈廣汎ナル場合, 軟化竈廣大ナル系統的疾患ニハ禁忌トス。腦脊髄膜性竈ニ護膜腫性ノモノニ限リ注意シテ用フベシト唱フル人アリ。反之血管ヲ侵セル場合及病竈延髄ニ近クシテ速效ヲ期スベク, 然モ水銀及沃度劑ノ無効ナル場合ニハ使用シテ可ナリ。斯ル場合ニ於テモ 2-3 週間ノ塗擦療法ヲ試ミタル後, 之ニ併用シテ「サルヴァルサン」ヲ試用スベシ。然レドモ水銀及沃度劑ノ無効ナル場合ニハ「サルヴァルサン」ニ反應セザル事モ亦比較的多數ナルヨリシテ, 熱心ナル「サルヴァルサン」黨アルニ拘ハラズ, 是ノミニ任セオク

コト能ハズトノ趨勢ヲ馴致スルニ至レルナリ。極端論者ハ水銀劑塗擦竈ニ沃度劑ヲ以テスル療法ニ反應セザル時ニ, 始メテ「サルヴァルサン」ヲ使用スベシトイフ。最モ水銀及沃度劑ノ奏效セザル時ニ「サルヴァルサン」ノ治效アル事モ亦存在スルガ故ニ, 要ハ場合ノ選擇ニアリト云フベシ。常ニ「チオサルヴァルサン」ノ静脈内注射ヲ行フ。其用量ハ患者ノ性, 年齢, 榮養状態等ニ關聯シテ決定セラルベキモノナリトス。近時 0.45-0.6 瓦等ノ比較的大量ヲ使用シテ不愉快作用ナシト稱スル者アレドモ先ヅ 0.15-0.3 ヨリ始メ, 1-3 週ノ間隔ヲ以テシ, 爾後 2-3 回反覆注射ヲ試ムベシ。

一般療法 (Allgemeine Behandlung) 黴毒ニ對スル特殊療法ノ傍ラ, 一般療法トシテ體力ノ向上ヲ企圖スベシ。

其他麻痺, 疼痛, 痙攣等ニ對シテ對症的療法ノ必要アルヤ論ナシ。一般ニ治療ノ有效ナル場合ニ於テモ, 相當期間ハ醫師ノ監視ヲ要スベク, 症候逆轉ノ兆アラバ再ビ治療ヲ開始スベシ。

脊髓癆 Tabes dorsalis, Rückenmarksschwindsucht.

脊髓癆アルモ一般ニ長日月ニ互リテ病勢ノ進行ヲ來スコトナク又格別ナル障碍ヲ隨伴スルコトナクンバ, 一般的全身強壯療法ヲ主トシ, 同時ニ神経系統ノ強壯ヲ圖リテ以テ爾後ノ経過ニ良好ナル影響ヲ與フルコトヲ眼目トスベク, 末期ニ於テハ驅黴療法ヲ強行スベキモノニアラズ。殊ニ榮養不良ナルモノニアリテハ先ヅ安靜ト善良ナル食餌トニヨリテ, 其恢復ヲ計リ, 然ル後ニ驅黴療法ヲ行フベシ。一般

ニ驅黴療法ハ黴毒ノ既往症ヲ有シ、然モ其治療不完全ナリシ者ニハ熱心ニ行フベキモノナリトス。

驅黴療法 (Antilueticische Kur) 脊髓癆ニ對シ驅黴療法ガ果シテ有效ナルヤ否ヤニ關シテハ今日未ダ確定セル結果ヲ得ルニ至ラズト雖モ、偉大ナル效果ヲ期待スル事能ハズトナスヲ妥當トスベシ。「サルヴァルサン」ノ發見當時ハ之ニヨリテ全治ヲ期待シタレドモ、其後ノ經驗ニ徴スレバ、水銀劑、殊ニ從來ノ水銀軟膏塗擦療法ハ閑却スベカラザルモノナルヲ見ル。何レニシテモ先ヅ水銀療法ヲ試ミ、次テ少量ノ「サルヴァルサン」ヲ試ルハ不可ナシ。

「サルヴァルサン」(Salvarsan) 運動失調ノ急劇ナル進行、榮養障礙アル場合ニ應用シテ、却テ效アル事アリトイフモ、斯ル場合ニハ特ニ少量ヨリ用ヒ始ムルヲ可トシ且常ニ心臓及大動脈系ニ於ケル黴毒性疾患ノ有無ニ甚大ナル注意ヲ拂フヲ要ス。又神經再發ノ危險ヲモ顧慮セザルベカラズ。スウィフト・エリス氏法、「サルヴァルサン」腰椎内注射療法等モ試ミラレザルニアラズト雖モ、其效果ハ疑ハシ(痲痺性癡呆參照)

水銀療法 (Quecksilberbehandlung) 視神經萎縮、運動失調ノ急劇ナル進行、著シキ榮養障礙アル時ニハ之ヲ行ハズ。水銀療法ハ主トシテ塗擦療法トシテ之ヲ行フ(驅黴療法參照)
沃度療法 (Jodtherapie) ハ常ニ行ハル、殊ニ水銀療法施行ノ際ニハ、之ヲ併用スルヲ規則トス。内服ヲ主トスレドモ時ニ沃度劑ノ皮下又ハ筋肉内注射ヲ行フコトアリ。

- 1 ヨヂピン(25%液) 10 ㄄
右1回筋肉内注射料, 1週1-2回
- 2 サヨヂン(25%液) 10 ㄄
右1回注射料, 1週1-2回

一般的藥劑療法 (Allgemeine Arzneitherapie) 從來應用セラレタルモノ少ナカラズ。硝酸銀、麥角、鹽化金、鹽化「アルミニウム」、磷又ハ「レチチン」劑等用ヒラレタレドモ其ノ效果ハ疑ハシ。

新陳代謝機能亢進竝ニ榮養増進ノ目的ニハ痲痺性癡呆ノ場合ニ述ブルガ如ク、「ツベルクリン」又ハ「ヌクレイン」酸注射ヲ行フコトアリ。砒素劑モ亦一般狀態、榮養亢進ヲ企圖シテ應用ス、多クハ内服トシテ持重スルモ、時ニ注射方法ニヨル、殊ニ惡液質症狀ノ顯著ナルモノニ用フ。

- 1 カゴチール酸曹達液 1.0
鹽酸ココイン 0.1
流動石炭酸 3滴
蒸留水 50.0

右爲皮下注射料, 1日1回, $\frac{1}{4}$ ㄄ヨリ始メ漸増シテ1.0 ㄄, 或ハ其以上ニ至ル

- 2 エチゾール 1.0 ㄄
右毎日又ハ隔日, 臀筋内又ハ皮下ニ應用ス。
- 3 レチチン 0.5
オリーブ油加 10.0

右爲注射料, 2日毎ニ1-2 ㄄宛皮下注射(疼痛烈シ。内服ヲ推賞スル人アリ)

電氣療法 (Elektrotherapie) 脊髓ニ上行性ニ平流電氣ヲ應用ス。電導子ノ大サハ20-50-70平方糎トシ、電流ノ強サハ3-5-8「ミリアンペア」トシテ1日1回約10分、2-3月間持續ス。

- 3) Lecithin 0.5
Ol. Oliv. ad. 10.0
D.S. Jeden 2 Tag 1-2 ccm. einspritzen.

此他對症的ニモ電氣療法ヲ行フ。

温泉療法 (Badekur) 時ニ一定ノ效果アリ。特ニ驅癩療法施行後試ミテ可ナル事アリ。之ニ按摩療法ヲ併合スレバ更ニ妙ナリ。但浴泉ノ温度高キハ不可ナリ、且入浴ノ度ヲ過シテ疲勞ヲ感ズルガ如キ程度ニ至ルハ避クベキ事ナリトス。食鹽、炭酸含有泉ヲ可トス。

對症療法 (Symptomatische Behandlung).

電擊痛 (Lanzinierende Schmerzen) ニ向テハ先ヅ鎮痛劑、或ハ之ニ臭素劑、催眠劑ヲ伍シテ内服セシメテ效果ヲアゲ得ル事多クレドモ、長期ニ亙ル經過中ニハ「モルヒ子」劑ヲ缺カ事能ハザル場合少ナカラズ。然レドモコハ最後手段トシテ、然モ稀ニ應用スベキモノナル事ヲ忘ルベカラズ。

一般ニ「サリチール」酸製劑ニハ速效アリ且之ニ依テ消失シタルガ如ク思ハル、場合ナキニアラズト雖モ、電擊痛自己ハ自然ニモ或期間ハ消失スル事アルモノナル事ヲ忘ルベカラズ。「サルチール」酸製劑ニハ同時ニ不快ナル發汗作用アリト雖モ、知覺性刺戟症狀ニ向テハ一定ノ效果アルモノナリトス。但其效果ハ人ト場合トニヨリテ一定スルモノニアラザルガ故ニ、時トシテ同作用ヲ有スル藥劑ノ併用ニヨリテ其目的ヲ達シウル事ナキニアラズ。

鎮痛劑ヲ處スルノ傍ラ、局處塗布劑トシテ「クロロフォルム」油、樟腦油、「ザリット・オリーブ」油等ノ塗布ヲ行フ事モ亦好影響ヲ與フル事アリ。其他溫浴、平流電氣(陽極)療法等ニモ一定ノ效果アル事アリ。

麻醉劑ハ最後手段トシテ用フベク、決シテ濫用スベキモノニアラズ。

① 撒曹 1.0
蒸餾水 10.0

右爲皮下注射料, 1.0 珄

② テトロドトキシシ 0.5-1.0

右 1 回皮下注射料

③ テトロドトキシシ 0.5-1.0

1% 鹽酸コカイン液 1.0-2.0

右 1 回皮下注射料

テトロドトキシシ: 一過性口圍舌尖知覺異常, 頭部充血, 頭痛。

④ 鹽酸モルヒ子 0.1

蒸餾水 10.0

右爲皮下注射料, 1/2-2.0 珄

⑤ 磷酸コデイン 0.2

蒸餾水 10.0

右爲皮下注射料, 1/2-2.0 珄

⑥ ギオニン 0.1

蒸餾水 10.0

右爲皮下注射料, 1/2-1.0 珄

⑦ 鹽酸モルヒ子 0.2

硫酸アトロピン 0.005

蒸餾水 10.0

右爲皮下注射料, 1.0-1.5 珄

⑧ 亞硝酸曹達 0.1-0.5

蒸餾水 10.0

右爲皮下注射料, 1.0-1.5 珄, 漸次增量ス。此場合心臓ニ向テ多大ノ注意ヲ要ス。

「エチゾール」注射効果アル事アリ。

時ニ脊髓硬膜外麻酔又ハ腰椎麻酔ノ必要アル事アリ。然レドモコハ極メテ重症ノ者ニ時トシテ試ミラレタル事アリトイフニ過ギズ。

非観血的の脊髓及神経展伸法時ニ有效ナル事アリ。此目的ニホスツァー氏法ヲ行フ。コレ特ニ神経根附近ニ癒著等ノアル場合ニ有效ナル方法ナリ。癒著乃至癱瘓軟化ノ目的ニ次方ヲ用フル事アリ。

1 撒曹	2.0
チオジナミン	1.0
グリツェリン	15 滴
蒸留水	10.0

右混和、溶解、1.0 珄筋肉注射、毎回又ハ隔日施行ス。「フィプロリジン」モ亦同様ノ目的ニ使用セラル。時ニ注射回数 40 回ニ及ブ、メンデル氏ハ「フィプロリジン」ノ注腸ニヨリテ效果ヲ收メタリ。

脊髓癆性發症 (Crises tabétiques) 佛蘭西學派ハ發症、電撃痛、知覺異常興奮ニ向テ、0.1% 「コカイン」溶液 (0.002-0.003) ヲ蜘蛛膜下腔又ハ脊髓硬膜外ニ注入スル事ヲ推賞ス。シェレツセル・ランゲ氏法ニヨル神經周圍注射法モ一般ニハ使用セラレズ。ヒルシュ氏ハ次方ヲ應用シテ發症、帶狀痛、電撃痛ニ效果ヲ見タリ。内臟發症ニハ 1.0% 溶液トシテ 1 日 1 回 1.0 珄宛、10 日間連続注射シ、次ニ 1 週間休ミ、更ニ 2.0 珄宛 1 週間連続注射ヲ施行シテ 5 日間休止シ、更ニ三度ビ 1 日間 3.0 珄宛 3 ヲ注射スル事ヲ推賞スル人アリ。

1 青酸酸化汞	1.0
アコイン	4.0
蒸留水	100.0

右爲注射料、1.0-2.0 珄、皮下又ハ筋肉内注射

胃發症 (Crises gastriques, Gastrische Krise) 發症中最モ多キモノニシテ、種々ノ内服藥試ミラル、モ、結局麻酔劑ニヨラザルベカラザル事多シ。此際嘔吐ヲ伴フガ故ニ坐藥又ハ注射トシテ用フルヲ可トス。

2 丹寧酸オレキシシ	0.3
重曹	3.0

右 1 日量、3 回分服

3 アチステジン	0.2-0.5
----------	---------

右頓服料

4 鹽酸コカイン	0.1
水	10.0

右爲滴劑、1 回 15-20 滴宛、氷水ニテ服用

5 磷酸コテイン	0.05
萹若越幾斯	0.03
カカオ脂	2.0

右爲肛門坐藥 1 個、1 日 2-3 個

6 鹽酸モルヒ子	0.2
硫酸アトロピン	0.005
蒸留水	10.0

右爲皮下注射料、 $\frac{1}{2}$ -1.0 珄宛

7 硝酸ストリキニー子	0.01
蒸留水	10.0

右爲皮下注射料、1.0-3.0 珄宛

- 1 1% 鹽化アドレナリン 4-6 滴
水 20

右注腸料

- 2 抱水クロラール 2.0-4.0
護膜漿 50.0

右注腸料

- 3 クローレトン 0.3

右入膠囊, 1日3回

- 4 亞硝酸曹達 0.05-0.1
アラビヤ護膜漿 50.0

右注腸料

- 5 コリフィン 15.0

右1日3回, 5-8滴宛, 糖水ニテ服用

- 6 クロロフォルム 2.0
水 100.0

右混和, 嘔氣ニ際シ, 1茶匙宛服用

發作甚シキ時ニハ滋養灌腸ノ要アリ。發作ナキ時ニハ榮養増進ヲ第一トスベシ。

0.5%「ノヴォカイン」溶液 60-100 兪 (或ハ之ニ1% 鹽化「アドレナリン」5滴ヲ加フ)ヲ脊筋内(第6-10胸髓神經ノ出ル處)注射ヲ行フ。

甚シキ場合ニハフォルスラル氏手術(Foersters'che Operation)ヲ施スモ可ナラン。即胸椎第6-10ニテ其後根ヲ截斷ス。然レドモ本手術ハ全ク無危險ナルモノニアラズ。

- 5) Coryfini 15.0
D.S. 3 mal tägl. 5-8 Tropfen auf Zuckerwasser.
6) Chloroformii 2.0
Aq. 100.0
D.S. Bei Brechneigung I Teelöffel.

腸發症(Darmkrise)ハ胃發症ニ準ジテ治療スベシ。排便灌腸俾效ヲ奏スル事アリ。「ウザラ」坐藥ノ效ヲ説ク人アリ。

膀胱發症(Blasenkrise)及肛門發症(Analkrise)ニハ0.1% 鹽酸「コカイン」液 20-60 兪ノ脊髓硬膜外注射俾效アリ。莨菪劑,「モルヒネ」,「コカイン」等ノ坐藥ヲ與フ。

喉頭發症(Larynxkrise)ニハ1.0% 鹽酸「コカイン」液塗布, 嚥下運動ヲ行ハシム。

帶狀痛(Gürtelschmerzen)ニハシユライヒ又ハランゲ氏法ニヨリテ肋間腔ニ皮下注射ヲ行フ(神經痛參照)

視神經萎縮(Opticusatrophie)之ニ向テハ殆ンド施スベキ術ナシ, 時ニ「ストリキニーチ」ノ注射療法ヲ行フ事アルモ, 結局失明スル場合多シ。其經過ハ大凡4ケ年トセラル、モ, 必ズシモ然ルニアラズ。其他失明ト共ニ他ノ症候ノ進行停止スル事ナキニアラズ, 以テ慰撫シ得ンカ。

失調症(Ataxie)フレンケル・ハイデン氏練習療法(Frenkel-Heiden'sche Übungstherapie)ヲ行フモ, 其目的ヲ達スル迄ニハ患者及醫師ノ大ナル辛抱ヲ要ス。成功ヲ急ギテ過勞ニ陥ラシムルガ如キハ愚ノ骨頂ナリ, 宜シク注意スベシ。

膀胱障礙(Blasenstörung)實地上最モ重要ナリ。排尿障礙アル者ニハ常ニ蓄積シ過ギザル間ニ排尿セシムル事ヲ忘ルベカラズ。尿閉起レバ1日2-3回導尿ス。此際膀胱加答兒ヲ起サル様甚大ノ注意ヲ拂フベシ, 或ハ豫防的ニ「ウロトロピン」ヲ與フル人アリ。既ニ膀胱加答兒ヲ發セバ之ヲ治療ス。膀胱洗滌料トシテハ2% 硼酸水, 0.1% 硝酸銀液或ハ次方ヲ用フ。膀胱障礙ニ向テ麥角劑ヲ用フル事アレドモ其效果ハ疑ハシ。

■ 青酸酸化汞	1.0
蒸餾水	5000.0

右膀胱洗滌料

陰萎 (Impotenz) 「ヨヒムピン」, 「スベルミン」, 「テトロドトキシシン」等ヲ應用スルモ效ナシ。

腦出血 Apoplexia (Haemorrhagia) cerebri, Hirnblutung.

豫防 (Prophylaxe) トシテ酒精濫用, 心身過勞ヲ禁シ, 便秘整調ヲ計ルベシ。既ニ運動性, 知覺性乃至感覺性前驅症ヲ發スル場合ニ於テハ血壓亢進ヲ來ス因子, 卽烈シキ咳嗽, 急劇ニ寒冷ニ曝露スル事, 暴飲暴食, 精神感動, 上圍時ノ過激ナル腹壓等ヲ避クベシ。

發作 (Anfall) 時ニハ寛潤ナル寢衣ヲ著ケ, 頭部及上半身ヲ高クシテ, 仰臥セシメ頭部ニ冰嚢ヲ貼ス。醋水又ハ食鹽水ヲ以テ排便灌腸ヲ行フ。榮養佳良ナル人ニシテ脈搏充實, 顔面潮紅シ, 頸動脈搏動顯著ナル場合ニ於テハ瀉血ニヨリテ 200-300 珄ノ血液ヲ除去スル事アリ。反之脈搏弱小, 顔面蒼白ノ者ニハ「カンフル」, 「エーテル」注射ヲ行フ。

■ 2 カンフル	1.0
エーテル	2.0
オリーブ油	8.0

右皮下注射料

■ 3 ザリチール酸ナトリウムカフェイン	
グリツェリン	
蒸餾水	各 5.0

右皮下注射料, 1 日 1-3 珄

腓腸部, 足蹠, 胸部ニ芥子泥ヲ貼シ或ハ脚湯ヲ行フ。吐物氣ノ管内迷入ヲ豫防スル様注意スベシ。

尿閉ニ對シテハ排尿法ヲ行フモ, 導尿管ノ消毒ヲ嚴重ニスベシ。

食餌ハ昏睡ノ間ハ經口的ニ與ヘズ。滋養灌腸等ハ發作後第 2 乃至第 3 日ヨリ施行シテ可ナリ。醒覺後ハ流動食ヲ與フルモ, 其以前ニ於テ嚥下困難ノ有無ヲ注意スベシ。

褥瘡豫防モ一ノ重要事ナリ。是等諸種ノ治療ヲ行フニ際シ劇シキ體動ヲ與ヘザル様留意スベシ。

後療法 (Nachbehandlung) トシテ發作後第 3 週目ヨリ沃度加里ノ内服ヲ處ス。其他不安, 不眠, 頭痛, 便秘等アレバ適宜ニ向テ藥劑ヲ投與スベシ。一般ニ發作後 5-6 週間ヲ經過スレバ痲痺セル筋肉ニ向テ感電電氣療法, 按摩療法ヲ試ム, 強直防止ノタメニハ操練法ヲ行フ。

發作ノ再發ヲ豫防スル爲ニハ上述豫防ノ部ニ述ベタル條項ヲ嚴守スベシ。

一般ニ輕度ノ場合ニハ發病後 2-3 週ニシテ離牀ヲ許シ, 重症ノモノニアリテハ 6-8 週ニシテ之ヲ許可スルヲ原則トス。

腦腫瘍 Tumor cerebri, Hirntumor.

腫瘍發生部位及其性質ニヨリテ時ニ外科的除去可能ナリ。然ラザルモ姑息的穿顱術ヲ行フ事ハ自覺的症候緩和ニ效アルモ, 內科的ニハ何等施スベキ事ナシ。但神經纖維腫ノ場合ニアリテモ沃度劑ノ内服, 水銀軟膏塗布ニ依テ一時症候緩解ヲ見ル事アリ。徵毒性ニシテ腫瘍狀症候ヲ呈スルモノハ驅微療法ニテ治癒シ得ル事アルヤ論ナシ。

化膿性腦膜炎 Meningitis purulenta.

原發化膿竈ヲ徹底的ニ治療スル以外、腦膜炎ニ對シテハ對症的處置ヲ行フニ過ギズ。内服ニ「ウロトロピン」ヲ處スル事アレドモ其效果ハ疑ハシ。

腰椎穿刺ハ對症的療法トシテノミナラズ、毒物排泄ニ資ス。腰椎穿刺ハ1-數日ノ間隔ヲ以テ行ナヒ、腦脊髄液ノ清澄トナル迄施行スルヲ理想トス。或ハ腰椎穿刺後、藥劑ノ直接作用ヲ企圖シテ、種々ノ藥劑「コルラルゴール」、¹「エレクトラルゴール」(6.0)、青酸酸化水銀、昇汞ヲ注入セル報告等アレドモ、之等ニハ甚大ノ注意ヲ要ス。

腦脊髄液ニ於ケル細菌所見ニ準ジテ肺炎雙球菌血清又ハ連鎖球菌血清ノ注入ヲ試ムル事ハ意味アリ。即病症ニ應ジ1-3-5日間ノ間隔ヲ以テ腰椎穿刺ヲ施行シ、毎回20-30 ㄞ等適當ノ腦脊髄液ヲ排除シタル後10-20 ㄞノ血清ヲ注入ス。肺炎雙球菌證明セラレタル場合ニハ鹽酸「オプトピン」ヲ用フル事アリ、即1%水溶液トナシ、其3-5 ㄞヲ注入ス。

結核性腦膜炎 Meningitis tuberculosa.

對症療法ヲ施スニ過ギズ。

腦壓迫症狀烈シキ時ニハ腰椎穿刺ヲ行ナヒタル後、蜘蛛膜下腔ニ「ツベルクリン」0.001ヲ注入シ、術後反應ナケレバ、次ニ少シク増量シ、反覆注入スル事ニヨリテ效果ヲ見タル人アリ。

痲痺性癡呆 Dementia paralytica, Progressive Paralyse.

疾病ノ時期及症狀ノ如何ニヨリテハ家庭療法モ亦可能ナレドモ、入院加療ノ優レルニ若カズ。最モ本症ハ各種療法ニ反應スル事少ナキ疾病ナレドモ、先ヅ一般療法ニ注意シ、生活ヲ規則的ナラシメ、常ニ安靜ト榮養トヲ保持セシムベシ。本症ノ治療方針ニ三アリ。1. 驅黴療法 2. 新陳代謝機能ノ亢進及身體抵抗力増加 3. 對症療法コレナリトス。

驅黴療法 (Antiluetische Kur) 奏效多クハ掛々シカラザレドモ、試ムベキ方法タルベキ事ハ、本症ノ本態ニ徴シテ明カナリ。殊ニ疾病ノ新鮮ナル場合及既往ニ於ケル黴毒ノ治療不充分ナリシモノニアリテハ、熱心ナル驅黴療法ヲ行ナヘバ、多少症狀良好トナリウルコトアルノミナラズ、時トシテハ爾後ノ経過ヲシテ一時停頓性タラシメ得ル事アリ。然シテ水銀劑及沃度劑トノ併合療法最モ多ク行ハレ、水銀劑塗擦、沃度劑内服最モ賞用セラルベキコト、腦脊髄黴毒ノ場合ニ同シ。

水銀及沃度劑療法 (Behandlung mit Quecksilber u. Jod.) ニ就テハ腦脊髄黴毒ニ於ケル該治療方法ヲ參照スベシ。

「サルヴァルサン」療法 (Salvarsanbehandlung) ハ種々ノ形式ニ於テ行ハル、モ、其效果ハ何レモ未ダ一般ニ承認セラレ、ニ至ラザルノミナラズ、本療法ニハ時ニ忌ムベキ副作用ヲ來ス事アリ。

靜脈内注射 (Intravenöse Injektion) 神經再發等ノ不快症狀ハ寧ロ過小ナル「サルヴァルサン」ノ使用ニヨリテ惹起セラレ、コトアルガ故ニ、寧ロ充分ナル量ヲ使用スベシト説ク人ナキニアラズト雖モ、一般ニハ「チオサルヴァルサン」

0.15-0.3 ヲ初回使用量トナシ、間歇時ヲ 6-8 日間トシ、各個ノ場合ニ應ジテ漸次ニ増量ス。「サルヴァルサン」ノ總量ハ多キモ 4.0-5.0 瓦以上ニ至ラザル様ニシテ第 1 回療法ヲ了ル。第 2 回治療ハ第 1 回終了後 1-2 月ヲ經過シタル後ニ行フヲ可トス。此間諸他ノ驅敵療法ヲ合併スルハ毫モ差支ナシ。

スウィフト・エリス氏法 (Swift-Ellis'sche Methode) 操作ハ凡テ無菌的ニ行ヒ且慎重ナル注意ノ下ニナスベキ事ハ腰椎穿刺其者ノ立場ヨリスルモ明ナル所ナリトス。

先ヅ患者ニ相當量ノ「サルヴァルサン」靜脈内注射ヲ施行セル後 1 時間ヲヘテ、約 40 兊ノ血液ヲ採取シ、遠心器ヲ介シテ血清ヲ分離シ、翌日此中ヨリ 12 兊ノ血清ヲ取り、更ニ之ニ 18 兊ノ生理的食鹽水ヲ混ズ。即血清ヲ 2 對 3 ノ割合ニ稀釋シタル後、之ヲ 56°Cニ 30 分間加温ス。コレニテ腦脊髄膜腔内ニ注入セラレ得ルナリ。

實施方法ハ先ヅ型ノ如ク腰椎穿刺ヲ行ナヒテ 20-30 兊ノ腦脊髄液ヲ排出シタル後、上記血清 20-30 兊ヲ注射針ヲ介シテ極メテ徐々ニ蜘蛛膜下腔ヘ送入ス。注入後 1 兩日間ハ靜臥スルヲ可トス。注入頻度ハ 2-3 週ニ 1 回注入スルヲ通則トスレドモ、コハ素ヨリ各個ノ場合ニ應ジテ或ハ短縮シ、或ハ延長スベシ。操作上ノ諸點ニ關シテモ多少ノ變法アリ。

脊椎内注射 (Intraspinal Injektion) 本法ハスウィフト・エリス氏法ニ比シテ簡單ナルノミナラズ、注入スベキ「サルヴァルサン」ノ量ヲ正確ナラシメ得ベシト雖モ、重篤ナル副作用ヲ伴フ事多シ。

ゲン子リヒ氏ハ「子オサルヴァルサン」0.15 瓦ヲ 300 兊ノ生理的食鹽水ニ溶解シ、其 4-6 兊ヲ注入ス。此際注射管ニ

侵入シ來ル腦脊髄液ニヨリテ約 3-4 倍ニ稀釋セラル、モノトス。或ハ「子オサルヴァルサン」ヲ腦脊髄液ニ溶解スル事ヲ推賞スル者アリ。第 1 回注射量ハ 0.04 瓦以上ヲ使用スベカラズ。2-3 週間ノ間隔ヲ以テ、腦脊髄液正常ニ復スル迄反覆スベシトイフモ、此目的ヲ達シウルヤハ疑ハシ

硬膜腔内竝ニ腦腔内注射 (Intraduralraum- sowie Intracerebralinjektion) 「サルヴァルサン」ヲ腦硬膜腔又ハ腦腔内ニ應用セル者アレドモ、素ヨリ一般的ニ行ハレズ。

新陳代謝機能亢進 (Erhöhung des Stoffwechsels) 此目的ニ向テハ種々ノ理學的療法ノ外、種々ノ方法試ミラルレドモ、之ニ大ナル期待ヲ求ムルコト能ハザル場合多シ。然シテ次ニ述ブルガ如キ諸方法ハ何レモ初期ニ試ミラルベキモノニシテ、之ヲ單獨ニ行フヨリモ、「サルヴァルサン」療法ト「ヌクレイン」酸曹達注射、「ヌクレイン」酸曹達注射ト水銀劑療法及沃度劑療法トイフガ如クニ結合シテ、交互ニ施行セバ多少ノ效果ヲ認メシムル事ナキニシモアラズ。

「ツベルクリン」注射 (Tuberkulin-Injektion) ワグネル氏ノ主唱セル所ニシテ、先ヅ結核症合併ノ有無ヲ見タル後、舊「ツベルクリン」0.01 瓦ヨリ始ムルヲ常トセリ。結核ノ疑アル者ニハ始メ 0.001 ヲ用ヒ、發熱甚シキ場合ニハ本治療ヲ中止スルカ或ハ極メテ少量ヲ用フ。「ツベルクリン」ノ用量及間隔等ハ一ニ患者ノ體力、局處反應、發熱等ノ如何ニヨリテ決定セラルベキモノナリト雖モ、次回ノ注射ハ體温平常ニ復シテ後行フベク、局處反應ハ大抵 1-2 日ニシテ消失スルガ故ニ、普通 2-3 日ノ間隔ヲ以テ注射シ、注射回数 7-15-20 回ニシテ、1 回量大凡 0.5-1.0 ニ至ル、本法ハサキニ水銀劑及沃度劑療法ヲ行ヒタル者ニ併用スレバ效果大ナリトイフ。

實施ニ際シテハ先ヅ舊「ツベルクリン」, 10000 倍溶液ヲ作り, 其 0.5-1.0 瓦ヲ皮下ニ注射シテ觀察スベシ。前回ノ注射ニテ體溫 37°C 以下ナル時ニハ, 次回ニハ前回ノ 1.5-2.0 倍量ヲ用フ。37-37.5°C ナレバ 1.5 倍トシ, 37.5-38°C ナレバ 1 $\frac{1}{4}$ 倍トシ, 38°C 以上ナル時ハ前回ト同量ヲ用フ。然シテ體溫上昇ハ 38°C 位ヲ限度トスベシ。注射ヲ反覆スルニ隨ヒ, 「ツベルクリン」ニ對スル過敏性ハ漸次消失スルガ故ニ, 同量ノ 3 回反覆注射ノ如キハ稀有ナリ。1 回量 0.5-1.0 ニ達セザルニ 39°C 以上ニ發熱スル事 5-6 回ニ及ババ注射ヲ中止スベシ。最モ普通ノ場合ニ於テハ 1 回量 0.1-0.3 瓦ニテ充分ナル反應ヲ來スヲ常トス。

第 1 回注射療法ヲ終リタル後, 更ニ若干ノ間隔ヲ以テ第 2 回, 第 3 回注射療法ヲ試ムルハ不可ナシ。

「ヌクレイン」注射 (Injektion des Nucleins) ドナート・フィッセル氏ノ創ムル所ニシテ, 普通局處反應少ナキ「ヌクレイン」曹達 (Natrium nucleicum) ヲ用フルモ, 多少局處反應アリ。時ニ注射部位壞疽ニ陥ルコトアリ。生理的食鹽水ニテ 1.0-10% 溶液ヲ作りテ, 先ヅ其 0.5-1.0 瓦ヲ皮下ニ注射シ, 漸次注射液ノ濃度及用量ヲ増加シ, 1 回量 1.0 瓦乃至其以上ニ及ブ。體溫上昇ハ 38.5°C ヲ限度トスベク, 3-5 日ノ間隔ヲ以テ反覆注射スベシ。ドナート氏ハ「サルヴァルサン」療法ト併用シタリ, 即「サルヴァルサン」0.3 ヲ注射シ, 5-7 日ヲヘテ 0.4-0.6, 身體強大ナルモノニハ 0.75 ヲ用フ。女子及虛弱ナル人ニアリテハ最大量ヲ 0.6 瓦トナセリ。「サルヴァルサン」ヲ注射セザル日ニハ, 2 日目毎ニ「エチゾール」ヲ臀筋内ニ注射セリ。或ハ「エチゾール」ヲ 20-30 回注射シタル後ニ「子オサルヴァルサン」注射ヲ試ミタルモアリ。

葡萄狀菌「ワクチン」(Staphylokokkenvaccin) 本注射ノ目的モ亦前二者ニ同シ。寒天斜面上ニ於ケル 24 時間培養基ニ食鹽水ヲ混シ, 60°C ニテ 60-90 分間殺菌シタルモノ、菌含有量ヲ決定シタル後ニ適量ヲ用フ。

連鎖球菌血清 (Streptokokkenserum) 連鎖球菌血清ヲ使用シタル場合モアリ。

リングル氏液靜脈内注射 (Intravenöse Injektion der Ringer'schen Lösung) 1 回量 500-1000 瓦ヲ注入シテ效果ヲ見タル人アリ。1-2 週ヲ隔テ、反覆注射ヲ行フ。

對症療法 (Symptomatische Behandlung) 前驅期ニ於ケル神經衰弱様症狀ニハ臭素劑ヲ内服セシメ又ハ入浴療法乃至水治的温包 (32°C ニテ 30 分) ヲ行フ。

興奮状態, 不安ニハ「モルヒ子」(0.01) 及「ヒオシチン」(0.0006) ノ合併劑ノ注射著效アリ。持續浴マタ有效ナリ。不眠ノ甚シキモノニハ結局「モルヒ子」注射ノ外ナシ。

痲痺狂發作ニ際シテハ安臥セシメ, 便通ヲ整調シ, 抱水「クロラール」注腸 (2.0-4.0) 偉效アルコトアリ。抱水「アミレン」(Amylenum hydratum) 0.5-1.0 瓦, 「パラアルデヒド」(Paraldehyd) 2.0-3.0 瓦ノ注腸效アリ。

拒食症ニ向テハ人工的榮養ヲ施スノ外ナキモ, 消息子榮養法ハ避クルヲ可トス。時ニ生理的食鹽水ノ皮下注射又ハ點滴灌腸ヲ行フ。

膀胱障碍アリテ尿閉ヲ來セル者ニハ嚴重消毒ノモトニ導尿管ヲ介シテ導尿ス。反之失禁アルモノニハ少量ノ硝酸「ストリキニー子」ヲ處ス。褥瘡發生ヲ防止スルコトモ重要ナリ, 一旦發生セバ治癒シ難シ。

早發性癡呆 Dementia praecox.

興奮状態ニアリテ公衆ニ對シ危険アルモノ、自殺ノ恐アルモノハ入院加療スベシ。然ラザル者ハ自宅療法ヲ施スモ可ナリ。興奮状態ニアルモノニハ安臥、持續浴等ノ外鎮靜、催眠劑ノ必要アリ。精神遲鈍ニ陥レルモノニアリテハ榮養ニ留意スルコトヲ第一義トナス。

生理的食鹽水ノ靜脈内乃至皮下注射ニ效ヲ認ムル人アリ。1回量ヲ500-1000 兪トシ、1-2 週間ノ間隔ヲ經テ行フ。ツンム氏ハ25% 硫酸「マグネシウム」溶液各10 兪ヲ1日2回皮下ニ注射シテ一定ノ效果ヲ見タリトイフ。

腦震盪 Comotio cerebri, Gehirnerschütterung.

直接間接ニ劇動ヲ受クルガ爲ナルガ故ニ、創傷ノ有無ヲ檢シ、若シアラバ其局處ニ注意シ、上半身ヲ少シク高クシテ仰臥セシメ、頭部ニ冰嚢ヲ貼ス。斯シテ體温、呼吸、心力ニ注意シツ、經過ヲ觀察スベシ。心力衰弱アラバ10%「カンフルオリーブ」油、「エーテル」(1.0)、硫酸「アトロピン」(0.0003)、硝酸「ストリキニーチ」(0.003)ノ皮下注射ヲ行フ。又必要ニ應ジテハ生理的食鹽水1立ニ鹽化「アドレナリン」7-8 滴ヲ加ヘタルモノノ皮下又ハ靜脈内注射問題トナル事アリ。

時ニ外科的手術ノ必要アルベキ事ハ論ヲ俟タズ。

腦貧血 Anaemia cerebri, Hirnanämie.

急性症ニアリテハ水平位ヲ取ラシメ、頭部ヲ低下シ、胸部及胴體ニ温濕布ヲ施シ、或ハ胸部ニ芥子泥ヲ貼シ又ハ人工呼吸ヲ行フ。時ニ醋酸、「エーテル」又ハ「アムモニヤ」ヲ嗅ガシメ或ハ羽毛ヲ以テ鼻粘膜ヲ刺戟ス。腦溢血ノ危険ナシト思惟セラル、時ニハ四肢ヲ緊縛シテ血液ヲ腦ヘ導クモ可ナリ。強心劑トシテハ「カンフル」、「カフェイン」劑ヲ與フ。貧血ニ際シ腦貧血發作頻發スル場合ニハ貧血ノ治療ニ任ズル傍ラ急激ナル體位ノ變換ヲ避ケ且酒精飲料或ハ咖啡、茶等ノ投與ニヨリテ、コレヲ防止スル事ヲ得レドモ、大出血ニ因スル場合ニハ生理的食鹽水ノ注射、輸血等ヲ必要トス。

多發性腦脊髓硬化症 Sclerosis cerebrospinalis multiplex, Multiple Sklerose.

身心ノ過方ヲ避ケシムベク、殊ニ初期ニ於テハ安臥靜養セシムルヲ可トス。且全身榮養状態ノ向上ニ勉ムベク、亞砒酸劑等ヲ處スルハ可ナリ。

沃度劑ノ内服ハ常ニ愛用セラル、例ナレドモ、此外硝酸銀、麥角劑、「フィプロリジン」等用ヒラル。

1 亞砒酸 0.003

還元鐵 0.3

鹽規 0.3

右1日量、爲丸、3回分服

2 硝酸銀 0.5

右爲100丸、1日3回、食後1-2丸宛

- ① エルゴチン 3.0
右爲 50 丸, 1 日 3 回, 食後 1 丸宛
- ② フ、プロリジン 1.0 珎
右 1 回皮下注射料, 隔日 1 回

先天性及後天性腦水腫 Hydrocephalus congenitalis et acquisitus.

先天性腦水腫 (H. congenitalis) = 對シテ腰椎穿刺ノ效ヲ推奨セルハクインケ氏ニ始マル。ポーケース氏ハ 4-12 ヶ月或ハ其レ以上ノ期間ニ互リ, 常ニ 4-8 週ノ間隔ヲ以テ腰椎穿刺ヲ行ナヒ, 毎回 30-40 珎ノ腦脊髄液ヲ排出シテ效ヲ見タリ。其他ノ人々ノ治療成績ヲ見ルモ, 要スルニ比較的長キ間隔(3-4 週)ヲ以テ腰椎穿刺ヲ施行シ, 少量ノ腦脊髄液(10-25-40 珎)ヲ排出ス。此際腦脊髄液ヲ吸引シテ排出セシムル事ハ絶對ニ之ヲ避ケベク且排出ノ際ハ内壓ニ留意シ, 餘リニ急速ナル降下ヲ避ケ且下降度モ亦一定度以下ナラザルヲ可トス。腦室ト脊髄腔トノ間ニ交通障礙アル時ニハ腰椎穿刺ノ效ナキハ勿論ナリ。

後天性腦水腫 (H. acquisitus) = 向テモ腰椎穿刺ハ對症的乃至治療的效果アレドモ, 一般ニ漿液性腦膜炎 (Meningitis serosa) ノ慢性型ニシテ, 殊ニ失明乃至生命ノ危險アル者ニ應用ス。此際ニハ内壓ニ留意シツ、1 回ニ多量ノ腦脊髄液ヲ排出スルヲ可トス。クインケ氏ハ 1 分間ニ 1-2 珎宛滴出セシムルヲ可トシ, 初壓高キ時ニハ終壓ヲ 300 珎以下ニ降下セシメザルヲ可トスト説ケリ。腰椎穿刺ニ次テ腦膜出血ヲ來シ, 死ノ轉歸ヲトレル事ヲ報告セルモノアリ。然ラザルモ術後多少ノ副作用ハ稀有ナラザル事ニシテ, 此豫防ニハ術後骨盤高位ヲトラシムベシ。

頭蓋穿刺時ニ試ミラル, 腰椎穿刺ノ效陰性ナル時ニハ殊ニ之ヲ試ムベシ。

癲癇 Epilepsie, Fallsucht.

ジャクソン氏癲癇或ハ其他ノ場合ニ見ラル、事アルガ如キ症候的ニ出現スル發作ニアリテハ, 其源因ヲ政治スル事第一義ナリ。

眞正癲癇 (Genuine Epilepsie) ニアリテハ先ヅ一般療法ニ留意シテ心身ノ過勞ヲ避ケ, 酒精, 香料, 強烈ナル咖啡及茶等ヲ禁ズルハ勿論, 其他ノ者ニアリテモ刺戟性食餌ハナルタケ是ヲ避クルヲ可トス。過食殊ニ肉類ノ過食ハ不可ナルモ, 水分ノ供給ハ多キヲ宜シトス且是ニヨリ便通ノ整調ヲ計リ得バ更ニ妙ナリ。職業トシテハ成ルベク外界ノ交渉少ナキ, 發作ニ際シテモ生命ノ危險ヲ伴フ事少ナキ性質ノ職業ヲ選擇セシムベシ。

藥劑療法トシテ常ニ使用セラレ且有效ナルハ臭素劑ニシテ, 始メ 1 日量 3 瓦ヨリ始メテ 1 日量 5-6-8 瓦ニ至リ, 次テ遞減スル等, 單ニ臭素劑ノミニテモ, 適當ニ之ヲ用フレバ發作ヲ防止シ得ベシ, 時ニ續草劑等ヲ配伍ス。臭素劑ハ其 5-6 瓦ヲ久時連用スル事ヲウレドモ, 時ニハ少量ナルニモ不拘, 臭素中毒症 (Bromismus) ヲ起スコトアリ。臭素鹽類ハ多クハ水溶液トシテ毎食後及就寢前ニ與ル事ヲ普通トスレドモ, 時ニハ牛乳又ハ薄キ茶ニ混ジテ與フル事アリ。一般ニ臭素劑ノ適用ニ際シ食物中ノ食鹽量ヲ減ズレバ著明ノ效果ヲ收メ得ル事アリ。

臭素中毒症: 角膜反射消失, 言語障礙, 咽頭反射消失, 震顫, 精神鈍麻ヲ主トス。

1 臭素加里	3.0-5.0
重曹	3.0
苦丁	1.5
單舎	8.0
水	100-120-150

右 1 日量, 3-4-5 回分服

2 エルレンマイヤー氏方 (Erlenmeyer'sche Mischung)

臭素ナトリウム	
臭素加里	各 20.0
臭素アムモニウム	10.0
水ヲ加ヘテ	300.0

右 1 日數回, 1 酒盞宛

3 臭素加里	3.0
抱水クロラール	1.0
苦丁	1.0
單舎	5.0
水	100.0

右 1 日量, 3 回分服

4 臭素ナトリウム	2.5
水製大黃丁幾	7.0
續草丁幾	1.0
單舎	7.0
水	100.0

右 1 日量, 3 回分服

臭素中毒ヲ豫防スル目的ノモトニ有機性臭素化合物ヲ用フルモ, 其效力ハ無機性化合物ニ及バズ, 故ニ上記ノ無機性化合物ニ對シテ特異質ヲ有スル場合ニ試用スベキモノナリトス。又臭素劑ニ因スル發疹ハ「カルチウム」劑ノ併用ニ

ヨリテ幾分緩和セラル、コトアリ。此目的ヲ以テ製出セラレタル藥劑アリ。尤モ「カルチウム」劑其者ニモ神經系統ノ興奮性ヲ減ズル働キアルモノニシテ, 注射ノ様式ニヨリテ之ヲ應用スル者ナキニラズト雖モ, 大體ニ於テ内服ニヨリテ其效ヲ收メウル事多シ。

1 臭剝	3.0
乳酸カルシウム	1.5
苦丁	1.0
單舎	7.0
水	100.0

右 1 日量, 3 回分服

2 臭剝	4.0
グリツェリン磷酸カルチウム	5.0
苦丁	1.0
水	120.0

右 1 日量, 4 回分服 (毎食後及就寢前)

1) Kalii bromati	3.0
Calc. lact.	1.5
T. amarae	1.0
S. s.	7.0
Aq.	100.0
S. Auf 3 mal tägl.	

2) Kalii bromati	4.0
Calc. glycerinophosphoric.	5.0
T. amarae	1.0
Aq.	120.0
S. Auf 4 mal tägl.	

1) ブロムラール	1.2
グリツェリン 磷酸カルチウム	7.0
健末	0.3

右 1 日量, 3 回分服

2) 臭素カルチウム	2.0
苦丁	1.0
水	100.0

右 1 日量, 3 回分服

3) ヲグチル氏方 (Wagner)	
臭素カルチウム	5.0
鹽化カルチウム	0.5
クロールカルチウム	3.0
蒸餾水	500.0

右混和殺菌, 皮下注入

4) シェルコー氏方 (Charcot)	
2% クロールカルチウム溶液	5-20 珄
或ハ 2% 臭素カルチウム溶液	5-7 珄

右脊椎管内注入料, 4-5 日目 = 1 回注入

本方法ニヨレバ臭素剤内服ノ效ナキ者或ハ重症者ニアリテモ精神状態大ニ緩和セラレ發作數ヲ減ジト云フ。副作用トシテ 38-39°C ノ發熱ヲ來ス事アルモ 30 時間以上繼續スル事

1) Bromurali	1.2
Calc. glycerinophosphor.	7.0
Pulv. Gentian.	0.3
S. Auf 3 mal tägl.	
2) Calc. bromati	2.0
T. amarae	1.0
Aq.	100.0
S. Auf 3 mal tägl.	

ナシ。催眠乃至昏睡ヲ來ス事アルモ 6-10 時間ニテ醒覺ス。或ハ時ニ下肢ニ腱反射消失, 麻痺状態ヲ來ス事アルモ 5-20 時間ニテ消失ストイフ。注射ニ兼テ臭素剤ノ内服ヲ處スレバ更ニ可ナリ。

臭素剤ト阿片剤トノ併用ヲ推賞スル人アリ。即先ヅ阿片量 1 日 0.1 ヲ與ヘ, 漸次増量 6 週間後 0.25-0.35 ニ至ラシメ (フレヒシグ氏法ニテハ 1.0), 突然之ヲ廢シテ爾後數ヶ月間臭素剤ヲ連用セシム。阿片剤ハ丸藥トシテ用フルヲ最適トナセドモ, 時ニ他ノ形式ニ於テ, 或ハ他ノ「モルヒ子」劑ヲ用フル事ナキニアラズ。尤モ「モルヒ子」劑伍用ノ效果ハ疑ハシ。

1) 臭素加里	3.0
磷酸コティン	0.05-0.1
苦丁	1.0
單舎	7.0
水	100.0

右 1 日量, 3 回分服

臭素剤ハ上記ノ外使用セラル、モノ數多アリ。臭素補充劑モ亦少ナカラサレド、補充劑ノ效ハ頗ル疑ハシ。

	1 回量
アダリシ (Adalin, Bromdiäthylazethylharnstoff)	0.15-0.3
アダモン (Adamon, Dibromdihydrozimsäureborneolester)	0.5
プロマリシ (Bromalin, Hexamethylen-tetraminbromäthyl)	0.5-1.0
プロマイゴン (Bromeigon, Bromeiweisspråparat)	1.0-2.0

ブロームグリヂン (Bromglidine, Brom- eiweisspräparat)	1-2 錠
ブロミピン (Brompin, Bromfett)	5-15 錠
ブromoコル (Bromocoll, Dibromtannin- leimverbindng)	0.5-1.0
エPILEプチコン (Epilepticon)	0.3-0.5
臭素加里	93.6
酸化鐵	2.7
含窒素有機物	3.7
	} %
エPILEプトール (Epileptol, Acidum ami- dofornicum conduratum)	15-30 滴
エピサン (Episan)	1 錠
ルミナール (Luminal, Phenyläthylbarbi- tursäure)	0.1-0.15
サブロミン (Sabromin, Calcium dibrom- behenicum)	0.5
イクイブロミン (Equibromin, 邦製サブ ロモン)	0.5
セドブロール (Sedobrol)	1 錠
臭素ナトリウム	60
食鹽加脂肪及植物或幾斯	5
	} %
漸次増量シテ 1日 5錠マテ、温湯ニ溶解シテ用フレ バ「スープ」ノ如シ。食鹽減食療法ノトキニ用フレバ 妙ナリ	
ヴェロナール (Veronal, Diäthylmalonyl- harnstoff)	0.2-0.3
ウレヤブロミン (Ureabromin, Bromcal- cium-harnstoff)	1.0-2.0

ツェプロマール (Zebromal, Dibromziimt- säureäthylester)	1 錠
續草丁幾 (Tinctura Valerianae)	20-30 滴
ウァリドール (Validol, Mentholum valerianicum)	10-15 滴
エーテル性續草丁幾 (Tinctura Valerianae aetherea)	20-30 滴

發作前驅症出現ノ時ニ次方ヲ處シテ抑止シウル事アリ。

① 亞硝酸アミール	2.0
クロロフォルム	3.0
右混和, 2-3 滴ヲ「ハンケチ」ニ滴下シテ吸入セシム	
② ニトログリツェリン	0.2
蕃椒丁幾	2.5
純酒精	
薄荷水	各 12.0

右混和, 2-5 滴宛服用

ミュンヒ氏癲癇藥ハ亞硫酸「ナトリウム・フォルムアルデヒ
ード」ニシテ、其 10 錠ヲ「アムプルレ」入リトシテ發賣ス。
毎日 1 個宛靜脈内ニ注入スレバ 1 週間位ニシテ發作消散ス
トイフ。本劑ハ血中ニテ硫化「ナトリウム」ト「フォルムアル
デヒード」ニ分解スルモ無害ナリトイフ。

佛國ニテハ礬砂ヲ用ヒ、1日 3回 0.05 ヨリ、漸増シテ 2.0
ニ至ル。其ノ效果ハ疑ハシキモ、時ニ次方ヲ試ルハ可ナリ。

③ 臭素加里	3.0
臭素ナトリウム	1.5
礬砂	1.0
苦丁	1.0
單舍	5.0
水	120.0

右 1 日量, 4 回分服

癲癇發作頻發狀態 (Status epilepticus)

次ノ藥劑ヲ適當量ノ温水或ハ他ノ溶媒ニ混シテ注腸ヲ試ム

抱水クロラール 3.0-4.0

抱水クロラール及ストロフンツス丁幾
前者 3.0-4.0, 後 1.0

プロボナール (Proponal, Dipropylmalonyl-
harnstoff) 0.3-0.4

ドルミオール (Dormiol, Dimethyläthyl-
karbinolchlorid) 2.0-3.0

抱水アミレン (Amylenum hydratum) 3.0-4.0

注腸療法奏效セザル時ニハ「クロロフォルム」吸入ヲ行ハシムレバ偉效アリ。時ニ次ノ方法ヲ推賞スル人アリ。

腰椎穿刺ニヨリテ毎回 20-30 兪ノ腦脊髄液ヲ排出ス。2-3 回施行シテ奏效ス。

靜脈穿刺ニヨリテ 50-150 兪ノ血液ヲ排出シ、同時ニ 100-500 兪ノリングル氏液ヲ皮下又ハ靜脈内ニ注入ス。

「モルヒネ」皮下注射ハ奏效顯著ナラズ。

「ヒオシチン」皮下注射ノ奏效ヲ力説スル者アリ。臭素水素酸「スコボラミン」ハ「アムブルレ」中 0.0006 瓦入リトシテ發賣セラル、1 回量 0.0005, 1 日量 0.0015 ヲ用フ。

癲癇性變調狀態 (Epileptische Verstimmung) ニ於ケル不安ニハ靜臥ヲ命ジ、阿片劑ヲ處ス。癲癇性迷朦狀態 (Epilept. Dämmerzustände) ニ在ル者ハ公共安全ノタメニ入院加療法ヲ要ス。

癲癇性精神薄弱 (Epilept. Schwachsinn) ハ程度ニ應ジテ社會衛生的ニ處置スベシ。

振顫麻痺 Paralysis agitans,
Schüttellähmung.

心身ノ過勞ヲ避ケ、溫浴、電氣、按摩、操練療法等ヲ應用ス。時ニ出現スル事アル神經痛様疼痛ニ向テハ對神經痛藥ヲ與フルモ、「サリチール」酸製劑ハ避クルヲ可トス。コレ患者ハ既ニ多汗症ニ罹リ居ル事アルモノナレバナリ。

藥劑トシテハ臭素劑、亞砒酸劑、「アトロピン劑」ハ常ニ應用セラル、所ナリ。更ニ試ミラル、ハ次ノ療法ナリトス。

「スコボラミン」療法 (Scopolaminbehandlung) スチーフレル

氏ハ比較的若年ノ者ニ來リ且神經痛様疼痛ヲ伴ヒシモノニ、初メ臭素水素酸「スコボラミン」ノ 0.0003-0.0004 瓦ヲ

3 日目毎ニ皮下注射ヲ行ヒシニ、震顫及強直ニ一定ノ效果アルヲ見タリ。0.0005 以上ニハ耐エズ。故ニ注射ヲ 1 週 2

回トシ且注射ヲ施行セザル日ニハ 1 日 3 回毎日 1 錠宛ノ「パントボン」ヲ處シタルニ疼痛モ去レリ。爾後 1 週 2 回

「パントボンスコボラミン」ノ各 1.0 兪ヲ皮下ニ注射シ、非注射日ニハ「パントボン」ノ 0.3 ヲ與ヘタルニ、2 筒目後ニ

ハ大ニ輕快シ、注射量ヲ減ジ、4 筒目以後ニハ「パントボン」0.01, 「スコボラミン」0.003 瓦ニテ充分ナルニ至レリトイフ。

余ノ經驗ニヨレバ本療法モ亦一時的効果ニ過ギザルモノ、如シ、震顫ニ對シテハ著效ナシ。

臭素水素酸スコボラミン副作用：眩暈、嘔心、嘔吐、枯渴感。

高度ノ震顫ニ對シテ「ヒヨスチン」又ハ硫酸「ツボイジン」(Duboisinum sulfuricum) ノ内服又ハ注射ヲ推賞スル人アリ。

1 臭素水素酸スコホラミン	0.001
蒸留水	10.0

右爲注射料

2 硫酸ツポイジン	0.001
蒸留水	10.0

右爲注射料

始メ2-4 珄ヲ隔日注射シ、次テ2 珄ヲ毎日注射ス。夜間四肢震顫シテ不安ナル者ニハ「モルヒ子」0.005-0.02 ヲ與フ。

3 臭素水素酸スコホラミン	0.0002-0.0005
右1 日量、爲丸、3 回分服	

4 硫酸ツポイジン	0.0002-0.0005
右1 日量、爲丸、3 回分服	

5 硫酸アトロピン	0.0015
右1 日量、爲丸、3 回分服	

6 ソラニン	0.1
右1 日量、爲丸、3 回分服	

7 ソラニン	0.1
ヒヨス越幾斯	0.006

右1 日量、爲丸、3 回分服

1) Scopolam. hydrobrom.	0.001
Aq. destillatae	10.0
S. Zur subkutanen Injektion.	
2) Duboisini sulfurici	0.001
Aq. destillatae	10.0
S. Zur subkutanen Injektion.	
6) Solanini	0.1
M.f. pil. S. Auf 3 mal tägl.	
7) Solanini	0.1
Ext. Hyoscyami	0.006
M.f. pil. S. Auf 3 mal tägl.	

「テトロドトキシシ」療法 (Tetrodotoxin) 毎日又ハ隔日 1.0 珄宛皮下ニ注射ス。蓄積、中毒、習慣性、過敏症等ヲ來ス事ナクシテ震顫、筋抵抗漸次輕快ストイフモ一時的奏效ニ過ギザルモノナルベシ。

「ヌクレイン」酸曹達療法 (Natrium nucleicum) 皮下又ハ靜脈内ニ注入ス。

1 ヌクレイン酸曹達	0.5
生理的食鹽水	5.0

右混和、爲皮下注射料

0.5-1.0 珄ヨリ始メ、隔日ニ注射シ、毎回 0.5 珄宛ヲ増加ス。之ニヨリテ 38°C 前後ノ發熱ヲ求ム。此方法ニテ反應セザル時ニハ靜脈内注射ヲ行フ。

2 ヌクレイン酸曹達	0.5
生理的食鹽水	10.0

右混和、爲靜脈内注射料

1/5 珄 (0.01) ヲヨリ始メ、漸次增量シテ 0.1 瓦ニ至ル。3 日毎ニ 1 回注射シ、5 回ノ注射ヲ行ナヒタル後ニハ 5-10 日間休ミ、更ニ注射ヲ反覆ス。時ニ 0.2-0.4 瓦ニ增量スル必要アル事アリ。

注射液ハ其都度新シク作りタルモノヲ用フルヲ最良トス。石炭酸ヲ加フルモ腐敗シ易シ。

靜脈内注射ニアリテハ注射後 20-45 分ヲ經テ惡感、時トシテ戰慄ヲ來シ、更ニ 15-35 分ヲ經テ 38-39.5°C ノ發熱アルモ、之ニ伴フ苦痛ハ 1-3 時間ニシテ消失ス。

偏頭痛 Hemicranie, Migräne.

原因ノ徴スベキモノアラバ、之ニ向テ治療ヲナスハ勿論ナレドモ、一般ニハ強壯劑ヲ處シ、便通ヲ整調シ、電氣療法ヲ行フ。

前驅症候トシテ眼華閃發等ノアル場合ニハ亞硝酸「アミール」(Amylium nitrosum)ヲ處シテ頓挫シウル事アリ。「カフェイン」(Coffeinum),「アンチピリン」(Antipyrinum),「ミグレニン」(Migranin),「アンモニヤ」瓦斯(Ammoniak)等モ亦此目的ニ使用セラル。

1 亞硝酸アミール 2滴

右嗅込料

2 ニトログリツェリン 0.0001-0.0003

右頓服料,錠劑1粒ハ0.0006ヲ有ス。或ハ1%酒精溶液トシテ1回1滴,1日10滴迄使用シ得。

3 亞硝酸ナトリウム 0.05-0.1

右頓服料

4 カフェイン 0.1

アンチピリン 0.25

フェナセチン 0.25

右頓服料

5 ミグレニン 0.5-1.0

右頓服料

6 アンチピリン 0.5

アンチチルブイン 0.5

右頓服料

7 硫酸キニー子 0.5-1.0

乳糖 0.5

右頓服料,1-2包

8 安息香酸「ナトリウムカフェイン」 0.2-0.5

右頓服料

此他

	1回量
アンチフェブリン (Antifebrin, Acetanilid)	0.1-0.3
アスピリン (Aspirin)	0.5-1.0
ラクトフェニン (Lactophenin, Laktylphenetidin)	0.5
ピラミドン (Pyramidon, Dimethylamido-antipyrin)	0.2-0.4
フェナセチン (Phenacetin, Parazetphenetidin)	0.3-0.5
ザリピリン (Salipyrin, Antipyrinum salicylicum)	0.5-1.0
エキサルギン (Exalgin, Methylazetanilid)	0.2-0.5
トリゲミン (Trigemin, Dimethylamido-antipyrin-Butylchlorhydrat)	0.3-0.5

臭素劑モ亦缺ク事能ハズ

1 臭素加里 3.0

纈草丁幾 1.0

單舎 7.0

水 100.0

右1日量,3回分服

2 臭素加里

臭素ナトリウム

臭素アンモニウム 各10.0

水 300.0

右混和,第1週ニハ1日3食匙宛,第2週ニハ4食匙宛,第3週ニハ5食匙宛服用

3 重曹 3.0

撒曹 2.0

薄荷水 7.0

水 100.0

右1日量,3回分服

時ニ局處塗布劑ヲ用フ。

① 薄荷腦	1.0
酒精	50.0

右局處塗布料

時ニ「ペプトン」(Pepton)ヲ用フル人アリ。即生理的食鹽水ニテ「ウイッテ・ペプトン」ノ1%溶液ヲ作り、其0.3㄄ヨリ注射シ始メ、0.1㄄増加シ、1週2回ノ割合ニ注射シ、10回以上15回ニ及ブ。コレ英國ニ於ケル喘息ノ「ペプトン」注射療法ヨリ來レルモノナルベシ。

小舞蹈病 Chorea minor, Veitstanz.

急性ノモノニアリテハ家族乃至其周邊ヨリ隔離シ、絶對的安靜ヲ命ズ。此際牀及其邊ニ於ケル器物ニヨリテノ負傷、牀上ヨリノ轉落防止ニ注意スベシ。榮養状態ヲ良好ニ止マラシメザルベカラザルガ故ニ、食養療法ニハ相當ノ注意ヲ拂フベク、大不安又ハ顔面乃至舌筋痙攣ノタメニ食物ノ攝取制限セラル、時ニハ流動食ヲ處シ或ハ消息子榮養法、滋養灌腸法ノ必要アルコトナキニアラズト雖モ、食物ヲ口中ヘ運ブコトハ多少辛捧強ク試マシムベキ要アルコトアリ。斯ル際睡眠劑ヲ與ヘテ多少眠氣ヲ催サシメテ飲食セシムルハ妙ナリ。藥劑トシテ亞砒酸劑殊ニフォーレル氏水特效アリ。初メ1日3回3滴ヨリ始メテ、徐々ニ1日3回5滴ニ至リ、再ビ遞減スルガ如キ方法ヲ取ル。

① フォーレル水	30-50
水	100

右混和1日3回10㄄宛

② フォーレル水	5.0
薄荷水	20.0

右混和1日3回4滴宛ヨリ始メテ1日3回10滴宛ニ至ル

① 亞砒酸	0.003-0.005
-------	-------------

右1日量、爲丸、3回分服

初期ニ「アンチピリン」(1.0-1.5)ヲ處スル事ニハ利益アル事多シ。殊ニ比較的頻繁ニ見ラル、關節障礙ニ向テハ「ザリチール」酸製劑ノ適用重要ニシテ、爲ニ全経過ニ好影響ヲ及ボス事アリ。心臟監視モ亦輕視スル事能ハザルモノニシテ、時ニ心内膜炎ヲ來ス事アリ。

不安、不眠ニ向テハ臭素劑、催眠劑ヲ缺ク事能ハズ。殊ニ本症ニアリテハ充分ナル睡眠ヲ得セシムル事重要ナルガ故ニ、之ニ向テ努力スベシ(不眠参照)。

本症ニアリテハ藥劑ノ内服不可能ナル場合モ亦少ナカラザルガ故ニ、抱水「クロラール」、抱水「アミレオン」ノ注腸問題トナル事少ナカラズ。「ブローム」水素酸「スコボラミン」注射モ往々ニシテ問題トナル。

② 臭素加里	3.0
抱水クロラール	1.0
苦丁	1.0
單舎	5.0
水	100.0

右1日量、3回分服

③ 臭素加里	3.0
フォーレル水	5-10滴
苦丁	1.5
單舎	7.0
水	100.0

右1日量、3回分服

■ エラルソン錠 3個

右1日量, 3回分服

近時硫酸「マグネシウム」(Magnesium sulfuricum)ノ效ヲ説ク人アリ。皮下注射トシテ25%硫酸「マグネシウム」溶液ノ各10 ㊦ヲ1日2回皮下注射シテ效ヲ見タル人アリ。

脊髄蜘蛛膜下注射ハ腰椎穿刺ニヨリテ10 ㊦ノ脳脊髄液ヲ排除シタル後, 10%硫酸「マグネシウム」溶液1.0 ㊦ヲ注入ス。或ハ25%硫酸「マグネシウム」溶液ヲ體重1 ㊦ニ就キ1.0 ㊦ノ割合ニ注入シテ效ヲ見タル人アリ。大體1-7回ノ注射ニテ奏效スト。單ニ腰椎穿刺ノミノ功ヲ説ク人モアリ。慢性症ニアリテハ適宜温浴ヲトラシムルハ不可ナシ, 或ハ初期ニ温濕纏包ヲ試ムル事アリト雖モ, 重症ノ者ニハ用ヒザルヲ可トス。コレ安靜療法ノ必要ヲ凌駕スル丈ノ效ナケレバナリ。

慢性症ニ「サルヴェルサン」ヲ應用シテ效ヲ見タル人アリ。定型的舞蹈病ハ數週ニシテ多クハ治癒スレドモ, 症狀退散後久時ニ互リテ監視スルヲ要ス。コレ本症ハ再發シ易キモノナレバナリ。

妊娠性舞蹈病(Chorea gravidarum)ハ臭素劑及鎮靜劑ニ反應スル事顯著ナラズ。數週間經過ヲ觀察シテ漸次不良ノ状態ヲ示ス時, 或ハ然ラザルモ始メヨリ重篤ナルモノニ於テハ, 速カニ妊娠中絶ノ方針ニ出ズベシ。

「チック」(Tic, Maladie des Tics) 小舞蹈病ニ準ジテ治療ヲ行フ。

夜尿症 Enuresis nocturna,
Bettnässen.

成人ニ及ビテハ自然ニ治癒スル者多シ, 然シ, 原因ヲ討究シテ對策ヲ講ズル事肝要ナレドモ, 神經性ノモノニハ一般強壯療法ヲ試ムルト同時ニ暗示療法ヲ主眼トシテ種々ノ療法試ミラル。勿論飲食ニ注意シ, 生活上ノ惡習慣ヲ去リ, 睡眠時ノ體位及被衾等ニモ一定ノ注意ヲ要ス。攝護腺按摩, 電氣療法, 内服藥等モ暗示的ニ有效ニ作用スベシ。隨テ諸種ノ方法ヲ交互ニ行フヲ可トス。

■ 臭素加里	1.5-3.0
ホミカ丁幾	1.5
單舎	8.0
水	100.0

右1日量, 3回分服

■ 臭素加里	0.5-1.0
アンチピリン	0.5
芳香丁幾	15滴
單舎	5.0
水	50.0

右頓服料, 就寢前

1) Kalii bromati	1.5-3.0
T. Vomicae	1.5
S. s.	8.0
Aq.	100.0
D.S. Auf 3 α tägl. z. n.	
2) K. bromati	0.5-1.0
Antipyrini	0.5
T. aromaticae.	gtt XV.
S. s.	5.0
Aq.	50.0
D.S. Auf 1 α vor dem Schlafengehen.	

- 1 萇岩越幾斯 0.005-0.01
還元鐵 0.1
白糖 0.5
右爲1包, 1日3回, 1包宛
- 2 麥角越幾斯 0.3
單舍 8.0
水 100.0
右1日量, 3回分服
- 3 エルゴチン 1.0
覆盆子舍利別 5.0
水 100.0
右1日量, 3回分服
- 4 沃度鐵舍利別 8.0-10.0
水 100-0
右1日量, 3回分服
- 5 萇岩越幾斯 0.02
硝酸ストリキニーチ 0.002
右爲1丸, 就寢時頓服
- 6 硝酸ストリキニーチ 0.003-0.005
右爲肛門坐藥1個, 毎夕1個挿入
- 7 硝酸ストリキニーチ 0.01-0.02
蒸溜水 10.0
右爲殺菌注射料, $\frac{1}{4}$ -1 兎薦骨部皮下注射
- 8 20% アンチピリン溶液 0.5-1.0 兎
右1回皮下注射料, 毎日又ハ隔日注射シテ3-10回ニ及ブ
- 9 腦下垂體製劑 0.5-1.0 兎
右1回皮下注射料, 5-10回ニ及ブ

- 1 テトロドトキシソ 0.6-1.0 兎
右1回皮下注射料, 毎日又ハ隔日, 漸次増量シテ1.0 兎或ハ其以上ニ及ブ
- 2 カイエ氏法—會陰縫合ノ左右1種ノ部位ニ於テ生理的食鹽水ノ80-100 兎或ハ其以上ヲ皮下ニ注射ス, 小兒ニハ20-80 兎ヲ用フ
- 3 カテラン氏硬膜外注射法 (Cathelin'sche Epidurale Injektion)—0.6-1.0% 食鹽水 10-50 兎ヲ薦骨裂孔ヲ通シテ脊髄硬膜外ニ注入ス。
注意: 藥用量ハ大人ヲ標準トセリ, 小兒ニ向テハ相當減量ノ要アリ。

トムセン氏病 Thomsen'sche Krankheit, Myotonia congenita.

對症的治療ヲ行フ。
臭素劑, 亞砒酸劑等ヲ試ムルモ, 偉效ノ認ムベキモノ少ナシ。抱水「クロラール」ニハ一程度ノ效果アリ, 内服又ハ注射トシテ用フ。
リッゲル氏液注射ヲ施行シテ效果ヲ得タル人アリ。
其他「テタニー」ヲ参照スベシ。

痙攣性斜頸 Torticollis spastica.

眞因ハ不明ナリ, 誘因ヲ除去スル外, 全身強壯療法ヲ行ナフノ傍ラ, 身神ノ安靜ヲ企圖ス。
藥劑トシテハ砒素劑, 鐵劑, 臭素劑ヲ試ム。時ニ「モルヒ子」, 阿片ヲ必要トスル事アリ。理學的療法中, 水治療法ハ試ムベキモノナリトス。電氣療法ニハ一定ノ效果アリ。陽

極ヲ副神經ニ、陰極ヲ筋肉ニ當テ、平流電氣ヲ通電ス。時ニ局處感電電氣ヲ應用ス。按摩術、矯正帶ニモ一程度ノ效果アル事アリ。

何レニシテモ治療困難ナル事多ク、最後手段トシテ外科的治療ヲ行フ。

筋性進行性筋萎縮症 Dystrophia musculorum progressiva.

コレニ三種ヲ區別ス

1. 偽肥大型 Pseudohypertrophische Form
2. 幼年型 Infantile Form
3. 青年型 Juvenile Form

尙移行型ヲ呈スルモノアル事ヲ忘ルベカラズ、何レニシテモ治療ハ唯單ニ對症的ナルノミ。

次ノ二疾病モ類症鑑別上ニハ興味アレドモ、治療上ニハ單ニ對症的手段アルノミ。

神經性筋肉萎縮 Neurotische Muskelatrophie.

脊髄性進行性筋肉萎縮 Spinale progressive Muskelatrophie.

神經痛 Neuralgien.

一般療法 (Allgemeine Behandlung) 神經痛ニ際シテハ先ヅ第一ニ、其獨立の疾患ナリヤ、或ハ他ニ根本的疾患アリテ發スル一症候ナリヤ否ヤヲ檢索スルヲ要ス。例之「マラリヤ」、梅毒、糖尿病、貧血等ニ併發スルモノニアリテハ、局處療法ヨリモ、寧ロ原病ニ對スル治療ニヨリテ (Kausale Therapie) 效果ヲアグル事ヲウベシ。神經痛ハ又屢々精神的ニモ發現スルモノナルコトヲ忘ルベカラズ。勿論是等ノ原

因ト認ムベキ疾患ヲ證明スル事能ハズシテ、特發性獨立の疾患ノ如ク現ハル、場合寧ロ多キ者ナリトス。斯ル場合、殊ニ新鮮ナル者ニ對シテハ先ヅ保存的療法ヲ施スヲ原則トス。即安臥ヲ命ジ、局處ニ溫熱ヲ應用スベシ (時トシテ却テ寒冷應用ニヨリテ爽快ヲ感ズル事アリ)。發汗療法モ亦效果多シ。食餌ハ消化シ易キ物ヲ與ヘ且便通ヲ整調スベシ。對神經痛藥ノ内服、局處塗布劑等ノ應用ヲ試ム。

對神經痛藥 (Antineuralgische Mitteln) 其類非常ニ多シ。

	1 回量
アンチピリン (Antipyrin)	0.5
アスピリン (Aspirin)	0.5-1.0
アンチフェブリン (Antifebrin)	0.2
アリストヒン (Aristochin)	0.5
アポリジン (Apolysin, Mono-zitryl-p-phenetidin)	0.5
アミグドフェニン (Amygdophenin, Mandelsaures Phenetidin)	0.5
アナルゲン (Analgen, Orthoethoxy-aminobenzol-amidochinolin)	0.5
アンチチルヴイン (Antinervin, Peptonisiertes Salicylbromanilid)	0.5
アツェトピリン (Azetopyrin)	0.5
鹽規又ハオイビニン (Chinin od. Euchinin)	0.3
エキサルギン (Exalgin, Methylazetanilid)	0.2
オポピリン (Opopyrin)	0.5
オイピリン (Eupyrin, Vanillinaethylkarbonatphenetidin)	1.0
ザリチール酸曹達 (Natrium salicylicum)	1.0

ザリピリン (Salipyrin, Antipyrinum salicylicum)	0.5
ザロヒニン (Salochinin, Chinin-salicylsäureester)	0.5
ザロフェーン (Salophen, Aethylparaamidosalol)	0.5
ザロコル (Salocoll, Phenocollum salicylicum)	0.5
ヂアスピリン (Diaspirin)	1.0
ヂプロザール (Diplosal)	1.0
トリゲミン (Trigemin, Butipyrin)	0.3
ノヴァスピリン (Novaspirin)	1.0
ピラミドン (Pyramidon, Dimethylamidoantipyrin)	0.1-0.3
ヒドロピリン (Hydropyrin)	1.0
フェナセチン (Phenacetin)	0.5
フェノゾール (Phenosol, Salizylsäureessigsäurephenetidid)	0.5
フェナコヂン錠 (Phenacodin)	½-1 錠
ベンツォザリン (Benzosalin)	1.0
ミグレニン (Migraenin, Antipyrinum coffeinocitricum)	0.5
メルブリン (Melubrin)	1.0
ヨードピリン (Jodopyrin)	0.5
ラクトフェニン (Lactophenin, Lactylphenetidid)	0.3

上記ノ鎮痛劑ハ互ニ併用シ或ハ時ニ臭素劑、纈草劑ト配合シテ大ニ有效ナル事アリ。

局處療法 (Lokale Behandlung) 種々ノモノ應用セラルレドモ效果アル事少ナシ。
局處塗布劑トシテハ

① ザリット	5.0
クロロフォルム	10.0
樟腦油	10.0
② イヒチオール	15.0
クロロフォルム	20.0
オリーブ油	80.0
③ ヴェラトリン	0.5
オリーブ油	50.0
④ 沃度丁幾	8.0
没食子丁幾	12.0
⑤ 蟻酸	4.0
酒精	70.0
蒸餾水	26.0
以上塗布料	
⑥ 荑若越幾斯	1.0
ラノリン	20.0
⑦ 6% 沃度ワゾゲン	
以上塗薬料	
⑧ クロールエチール	
右噴霧器ニ入レ神經走出口ニ噴霧ス	
⑨ エーテル	
右同前	

慢性ノ場合ニハ温浴、電氣浴、電氣療法等ヲ用フ。

上記ノ保存的療法ニヨリテ、效果ヲアグルコト能ハザル時ニハ對症的療法ニ依テ、疼痛緩解ヲ企テザルベカラザル事

アリ。然レドモ此注射療法ハ特發性急性神經痛ノ場合ニアリテモ成ルベク之ヲサケ、藥劑ノ内服及外用寸效ナキ時ニ始メテ行フ原則トス。「モルヒ子」劑ノ如キハ決シテ濫用スベキ物ニアラズ。却テ特殊注射療法ノ優レルニ如カズ。

對症的注射療法 (Symptomatische Injektionstherapie).

1 シュライヒ氏液 (Schleich's Lösung)

	I	II	III
鹽酸コカイン	0.2	0.1	0.01
鹽酸モルヒ子	0.025	0.025	0.005
食鹽	0.2	0.2	0.2
蒸餾水	100	100	100
5% 石炭酸	2 滴	2 滴	2 滴

右混和, 殺菌(保持力短カシ。主シテ第2液ヲ用フ)

1.0 兪皮下注射

2 アンチピリン (Antipyrin)

アンチピリン	5.0
蒸餾水	5.0

右爲注射料, 0.5-1.0 兪皮下注射

3 テトロドトキシシ (Tetrodotoxin)

右 0.5-1.0 兪疼痛部ノ皮下ニ注射ス。要ニ應ジテ反覆ス

4 沃度ナトリウム (Natrium jodatum)

沃度ナトリウム	0.2
蒸餾水	10.0

右爲注射料, 1.0 兪皮下注射

5 鹽酸シノメニン 1.0

右 1 回皮下注射料, 1 日 1-2 回。

諸種ノ麻醉劑 (Narkotica) ヲ應用ス。此場合ニハ特ニ亂用ヲ慎ムベク且諸劑ヲ併用シテ其效力ヲ助長セシメ、習慣性ヲ來シ中毒症ニ陥ラザル様注意スベシ。

1 硫酸アトロピン	0.01
鹽酸モルヒ子	0.1
蒸餾水	10.0
2 硫酸アトロピン	0.01
パントボン	0.2
蒸餾水	10.0
3 デオニン	0.3
蒸餾水	10.0
4 磷酸コデイン	0.1
蒸餾水	10.0
5 鹽酸ヘロイン	0.1
蒸餾水	20.0
6 パントボンスコボラミン	
以上 0.5-1.0 兪	
宛ヲ皮下ニ注射ス	

特殊注射療法 (Spezifische Injektionstherapie)

注射療法ハ最後手段トナスベキモノナルガ故ニ、其應用ヲ見ルハ常ニ慢性症ナリトス。本療法ハ神經痛ノ部位ニヨリテ多少其ノ應用様式ヲ異ニス。坐骨神經痛、三叉神經痛ニ於テハ本療法ノ必要ヲ見ルコト多キモ、爾他ノ神經痛ニアリテハ其ノ應用少ナシ。一般ニ注射療法ノ禁忌ハ發熱時、腎臟炎、血管硬化症、重症糖尿病、「マラリヤ」ヲ伴フ場合ニシテ、神經衰弱、「ヒステリー」ヲ有スルモノニハ注意シテ施行セザレバ慣習性ヲ來ス事多シ。

ランゲ氏法 (Lange's Methode) 少量ノ麻醉劑ヲ含有スル液體ノ大量ヲ神經鞘内又ハ鞘外ニ注射ス。主トシテ坐骨及三叉神經痛ニ應用セラル。

■ ベータオイカイン	0.1
食鹽	0.8
蒸留水	100.0

右重湯煎上ニテ 30 分間加熱シ注射用トナス。
時ニ本液 10 珄ニ 1% 鹽化「アドレナリン」溶液ノ 3 滴ヲ加フ

實施：10 珄入り注射器ニ 8-10 種注射針ヲ附ス。注射用具ノ消毒ニ重曹水ヲ使用スベカラズ。注射部位トシテ一般ニ壓痛點ヲ選ミ、消毒シタル後刺入シ、液ヲ少シ宛壓出シツツ徐々ニ深部ニ入り、神經鞘附近ニ達シタル時強壓ヲ以テ液ヲ注入スベシ。針尖神經ニ達スレバ其分佈領域ニ疼痛ヲ發ス。注射部位ニハ「クロール・エチール」又ハ「エーテル」(目ニ入ラヌ様注意スベシ)ヲ噴霧器ニヨリテ噴霧スルカ或ハ豫メシュライヒ氏液ニテ局處麻醉ヲ行フノ必要アル事アリ。

注射ノ危險及副作用ハ少ナシ。針尖血管中ニ入レルヤ否ヤハ、筒ヲ少シク吸引シテ血液ノ入り來ルヤ否ヤヲ檢スレバヨシ。副作用トシテ發熱スルコトアルモ大ナル意味ナシ。穿孔部ノ感染ハ稀ナリ。穿孔部ニ「ヨードフォルムガーゼ」及絆創膏ヲ貼布スルモノトス。時トシテ注射後 1-2 日間連続スル緊張感ヲ注射部位ニ感ズルコトアリ。冷濕布及「アスピリン」ニテ治ス。第 1 回注射ニテ效ナケレバ 2-3 日間隔ヲ以テ反覆ス。注射量ハ症狀ニ應ジテ加減ス。

ランゲ氏法變法 (Modifikationen) 「コカイン」, 「ノヴァカイン」, 「トロパカイン」, 「オイカイン」, 「ストヴァイン」等

ノ種々ノ溶液 (0.1-1.0%, 普通ハ 0.5%) ノ 25-100 珄ヲ皮下, 皮内, 神經周圍又ハ神經内ニ注入ス。或ハ次方ヲ用フル人アリ。

■ 食鹽	6.0
鹽化カルチウム	0.75
蒸留水	100.0

右混和, 爲注射料

シュレッセル氏法 (Schlösser's Methode) ニモ種々ノ變法アレドモ, 要之注射針ノ尖端ニテ神經ヲ索メ, 60-80% 酒精 1.5-4.0 珄ヲ神經鞘内ニ注射ス。神經變性アル者ニハ禁忌トス。主ニ三叉神經痛ニ用フ。注射液トシテハ種々ノ變法アリ。70% 酒精ニ, 0.5-1.0% 「ストヴァイン」又ハ鹽酸「コカイン」溶液ヲ混ズ (Ostwald), 80% 酒精及 1.0% 「ストヴァイン」液各 2.0 珄ヲ三叉神經ノ末梢ニ注射ス (Fretsch)。

酒精注射ハ 2-3 回ノ注射ニテ奏效スル事多キモ, 必要ニ應ジテハ疼痛ノ消失スル迄毎日續行スルモ可ナリ。最モ再發豫防ニ對シテハ絶對的價値ナケレドモ, 3-5 ヶ月間ハ效力持續ス。酒精注射後ノ神經再生ニハ少ナクモ數ヶ月ヲ要シ且時ニ運動神經麻痺ヲ來ス事アルガ故ニ, 本注射ハ知覺神經ヨリナル者ニ專ラ應用スベキ者ナリトス。

アレキサンダー氏法 (Alexander's Methode) ハ零度ニ冷却セルシュライヒ氏第 2 液 10 珄ヲ, 神經ノ分佈領域, 即知覺, 痛覺共ニ過敏ナル表皮, 皮下組織及神經幹附近ニ注射ス。

シュレージンゲル氏法 (Schlesinger's Methode) ハ零度ニ冷却セル生理的食鹽水ヲ壓痛點ニ於テ, 針尖ガ骨膜ニ達スル位ノ深部組織ニ注入ス。主ニ坐骨神經痛ニ應用ス。針尖ハ神經内乃至其附近ニアル事ヲ必要トセズ。

鹽化「カルチウム」療法 (Chlorcalcium) 鹽化「カルチウム」ハ
神經痛, 筋痛, 炎症性疼痛ニ效アリトシテ, 1.0% 溶液 60-
100 兪ヲ靜脈内ニ注入ス。

① 鹽化カルチウム	1.0
食鹽	0.85
蒸餾水	100.0

右混和, 濾過後, 30 分煮沸消毒シテ注射料トナス
此他殺菌セル酸素又ハ空氣ヲ皮下又ハ神經内ニ注入スル
人アリ

0.5-1.0% 「オスミウム」酸又ハ 1.0% 「カルチウム・オス
ミウム」酸 1-2 滴乃至 1.0 兪ヲ神經周圍組織内ニ注入シテ
永久的麻痺ヲ起サシム。

2-5% 石炭酸水又ハ 2% 鹽酸水 10 兪ヲ神經鞘内ニ注入
シ, 或ハ「エーテル」注射ニヨリテ神經變性ヲ企圖スル者ア
リ。亞砒酸ハ内服藥トシテ, 或ハ時ニ皮下注射トシテ應用セ
ラル。コレ貧血等ノ際ニ於ケル一般強壯療法ニ外ナラズ。

② 亞砒酸カリウム液	0.1
蒸餾水	10.0

右混和殺菌, 1 回 1.0 兪, 1 日 1-2 回皮下注射
蟻酸 (Acidum formicum, Ameisensäure) 及其誘導體ヲ皮下
ニ注射ス。蟻酸ハ 1000-5000 倍溶液トナシ, 其 0.5-2.0 兪
ヲ 3-4-7 日ニ 1 回ノ割合ニテ反覆注射ス。特ニ坐骨神經痛
及腰痛 (Lumbago) ニ效アリ。

坐骨神經痛 Ischias, Ischialgie, Neuralgia ischiadica.

坐骨神經痛ノ際ニハ骨盤内器官又ハ脊髓下部竝ニ馬尾叢ニ
於ケル病變ノ有無ニ注意スベシ。殊ニ兩側性坐骨神經痛ハ
器質的疾患ニ原因スル事多シ。然レドモ病源ノ徴スベキモ
ノナク特發性ニ見ユルモノ亦少ナカラズ。吾人ノ治療ノ目
標トナルハ多クハ之ナリ。

急性症ノモノニアリテハ神經痛ノ一般的療法ノ部ニ於テ述
ベタル所ニ準ジテ先ヅ之ヲ治療スベシ。烈シキ發作ニ向テ
ハ「モルヒ子」, 「パントポン」注射ノ必要ナル事アリ。

① 硫酸アトロピン	0.005
鹽酸モルヒ子	0.5
蒸餾水	5.0
右爲注射料, 1.0 兪皮下	
② 沃度加里	1.0
撒曹	1.5
重曹	2.0
苦丁	1.0
水	100.0

右 1 日量, 3 回分服

③ 鹽酸モルヒ子	0.003
アンチピリン	0.5

右頓服料 (疼痛發作時)

1) 鹽酸ヘロイン	0.01
ヴェロナール	0.75
カカオ脂	2.0

右爲肛門坐薬1個料, 毎夕1個

慢性症或ハ發病後1-2週ヲ經過セル場合ニハ電氣療法(下降性平流電氣)ヲ用フ, 導子ノ大キヲ25平方糎トシ, 陽極ヲ薦骨附近又ハ臀溝ニ, 陰極ヲ膝關又ハ下肢ニ貼布シ, 電流ノ強サヲ8「ミリアムペール」迄トシテ約5分通電ス。始メハ1日1回, 次ニハ1日2回行フ。温熱(温泉, 砂浴, 電氣浴, ノ外局處ニ蒸氣, 「デアテルミー」等ヲ應用ス), 按摩療法ヲ行フ。時ニ發泡膏ヲ神經徑路ニ沿フテ貼布シ效アルコトアリ。

慢性ニシテ爾他ノ療法ニ反應セザル時ニハ注射療法ヲ行フ。

ランゲ氏法ハ局處麻醉藥ノ0.1-1.0% 溶液10-100 ㊦ヲ壓痛點ニ注射ス。普通0.5% 「ペータオイカイン」食鹽水ノ35-60 ㊦ヲ使用ス。1回ノ使用量100 ㊦ニ及ベバ概シテ反應強ク, 劇烈ナル牽引感, 體温上昇ヲ來ス。且時ニ蛋白尿ヲ見ル。

上壓痛點注射ハ神經ガ大坐骨孔ヨリ走出スル點, 即チ腸骨後上棘ト坐骨結節トノ結合線ノ中央部又ハ大臀筋ノ下部ニシテ大轉子及坐骨結節間ノ中間部ヨリ入ル。

1) Heroïn. muriat.	0.01
Veronali	0.75
Butyr. cacao	2.0

M.f. suppositor. S. Abends nach Darmspüllung I Zäpfchen einzuführen.

下壓痛點注射ニハ大腿及膝關ノ後面, 腓骨小骨ノ下部, 内外顆後部ヨリ神經ヲ目標トシテ進入セシム。此場合ニハ多ク30-50 ㊦ノ液體ヲ用フ。

壓痛點ナキ時ニハ大轉子ノ後方約3-4 糎ノ部位ヨリ入ル。患者ヲシテ始メ腹位ニ近キ健側横臥位ヲ取ラシム。注射針入ル事6.7-7.5 糎ニシテ神經ニ當レバ, 該側ノ下肢ニ於テ, 其神經分佈域ニ電撃性一過性疼痛ヲ感ジ, 或ハ時ニ搐搦ヲ來ス。

此他注射材料トシテ使用セラル、者種々アリ。生理的食鹽水(10-30 ㊦)ハ零度ニ冷却セルモノヲ壓痛點ニ於テ骨膜ニ達スル位ノ深サノ部ニ注射ス。或ハ37°Cニ温メタルモノヲ使用スル人アリ。必要ニ應ジ2-3日ノ間隔ヲ以テ反覆スベシ。

或ハ生理的食鹽水100 ㊦ヲ神經自己又ハ神經鞘内ニ注入ス或ハ單ニ坐骨結節ト大轉子トヲ連結スル線ノ中央部ニ150-200 ㊦ヲ注射浸潤セシム。

1) ストヴァイン	0.1-0.2
アドレナリン	10-20 滴
蒸留水	100.0

右 1/2 時煮沸消毒, 5-10 ㊦宛壓痛點ニ注射

2) 撒曹	0.5
ストヴァイン	0.075
蒸留水	10.0

右混和, 半時間煮沸消毒, 毎日2.0 ㊦宛, 3-4回末梢注射ヲ行フ

① ベーダオイカイン	0.1
食鹽	0.8
蒸餾水	100.0

右爲注射料, 5-10 兪ヲ壓痛點ノ筋肉内へ注射ス。

② 1% メチレン青	1-4 兪
------------	-------

右神經鞘内注射料

脊髓硬膜内注射 (Intralumbale Injektion) 一定度ノ麻醉薬ヲ以テ腰椎麻醉ヲ試ム。「コカイン」, 「ストヴァイン」, 「ノヅカイン」, 「トロバココカイン」等ノ溶液ヲ腰椎穿刺ノモトニ 0.002-0.003 ヨリ極量 0.006 迄ヲ注入ス。普通ハ 0.5% 溶液トシテ, 其 10 兪ニ 1% 鹽化「アドレナリン」液 3 滴ヲ加ヘテ用フ。本方法ハ壓痛點ナキ頑症ニシテ, 病源ノ神經根部ニ坐スルモノ及一般ニ頑固ナル下肢神經痛ニ效アルガ如キモ, 副作用トシテ惡心, 嘔吐, 頭痛, 發熱, 腦膜炎様症狀ヲ來ス事アリ。

脊髓硬膜外注射 (Epidurale Injektion) 實施方法ハ前者ニ比シテ更ニ困難ナリ。副作用ハ前者ニ比シテ少ナキモ, 時ニ術後ニ牽引感ヲ來ス事アリ。本方法ニヨレバ頑症モ 2-3 日ノ間歇ヲ以テ 4-5 回反覆スレバ奏效スト云フ。注入ハ徐々ニ行フベク 5 分間ニ 10-20 兪ヲ注入スルガ如キ速度ヲ用フベシ, 一般ニ 50 兪ヲ注入スレバ僅カニ抵抗ヲ感ズルモノニシテ, 此抵抗強クナレバ中止スベク, 然ラザレバ 100 兪迄ヲ注入シテ可ナリ。注射後ハ上體ヲ高クシテ 2-3 日間ハ

1) β -Eucain.	0.1
Natr. chlorati	0.8
Aq. dest.	100.0
D. Sterilis. S. Zur Injektion.	

静臥セシムルヲ可トス。奏效スル場合ニハ 15-30 分ニシテ疼痛消失スルモ, 「ヒステリー」性ノモノニハ效ナキ事多シトセラル。注入料トシテハ種々ノモノ應用セラル。

① 精製重曹	0.25
食鹽	0.5
ノヅカイン	1.0
蒸餾水	100.0

右混和, 消毒, 爲注射料

② 鹽酸 コカイン	1.0
蒸餾水	100.0

右混和, 消毒, 3.0-6.0 兪ヲ用フ

③ ストヴァイン	4.0
蒸餾水	100.0

右混和消毒, 1.0-1.5 兪ヲ用フ

④ 0.8% 食鹽水	5.0
1% ノヅカイン液	4.0

右 1 回注射料

⑤ ノヅカイン	0.15
1% スブラレニン	5 滴

右 1 回注射料

⑥ 0.85 食鹽水	
------------	--

右爲注射料, 5-6-10-20 兪或ハ時ニ 100 兪ヲ用フ

神經展伸法 (Nervendehnung) 非觀血的方法トシテハ兩肢ヲ揃ヘテ展伸セシメ, 足端ニ於テ把持シ, 眞直ナル儘ニテ腰部ヲ軸トシテ漸次頭方ニ向ハシム, 是即ボスツヰ氏法 (Bonuzzi'sches Verfahren) ナリトス。

觀血的展伸法ハ外科的ニ行フ。何レニシテモ展伸法ニハ大ナル效果ナキモノ、如シ。

三叉神経痛 Neuralgia trigemini, Trigeminusneuralgie.

三叉神経痛ニアリテハ先ヅ齒牙, 耳, 鼻腔, 副腔疾患ノ有無ニ留意シ, 其他中毒, 傳染病等ノ關係ヲモ顧慮シタル後治療ノ方針ヲ定ムベシ. 原因ノ徴スベキモノアレバ, コレニ向テ治療ヲ加フベシ. 然ラザル場合ニハ神経痛ノ一般の治療ニ準ジテ保存的ニコレヲ治療シ, 其ノ成否ニヨリテ注射療法等ニ移行スベシ. 近時「カールバウム」社ノ「トリクロールエチーレン」(Trichloräthylen „Kahlbaum") 效アリトセラル, 本劑ハ無色ノ液體ニシテ, 其 10-30 滴ヲ脱脂綿上ニ滴加シ, 吸入料ニ供スルナリ. 1日1回行フテ效アリトイフ.

1) アコニチン	0.1-0.2
クロロフォルム	10.0
右塗布料. (或ハ 0.0001-0.0002 ヲ丸薬トシテ與フ, 1日量 0.0003 ヲ超過セザルヲ可トス)	
2) 撒曹	0.5
臭那	2.5
アコニチン	0.0001
右爲 1 包, 朝夕 1/2-1 包宛	

1) Aconitini (Gehe)	0.1-0.2
Chloroformii	10.0
S. Äußerlich.	
2) Natr. salicylic.	0.5
Natr. bromat.	2.5
Aconitini	0.0001
M.f. pulv. S. Morgens u. abends 1/2-I Pulver.	

1) コルヒクム丁幾

ゲルセミューム丁幾 各 5.0

右混和, 1日3回, 10 滴宛

慢性症ニハ電氣療法效果アリ. 按摩療法ヲ注意深ク行ナヘバ不可ナシ. 保存的療法效ナケレバ注射療法ヲ行フ.

シュレッセル及ヘルテル氏法 (Schlösser u. Härtel) = 2 アリ.

一ハ深部注射ニシテ, 一ハ末梢注射ナリトス. 深部注射即ガッセリー氏神経節ヘノ注射ハ卓效ヲ奏スルモノナレドモ, 其操作ハ極メテ困難ナルト同時ニ危険ヲ伴フ事大ナルガ故ニ實用的ナラズ. 反之末梢注射ハ操作簡單ニシテ, 神経ガ正圓孔又ハ卵圓孔ヨリ出ル部位ニ注射ヲ試ムルモノナリトス. 然モ其效果ハ大ナリ. 深部注射ヲ行ハントスルニハ前夜睡眠劑ヲ與ヘ, 手術前ニ「モルヒチ」ヲ處シ且手術ハ局處麻醉ノモトニ行フ. 注射器ハ 2.0-3.0 兪ノ内容ヲ有スル太サ 0.8 兪, 長サ 10 兪ノ神経節管ヲ用フ. 注射ハ大凡 6.0 兪ノ所ニテ腦底ニ達スルヲ目的トスルモノニシテ, 頭蓋腔内ニ 1.5 兪以上入ルベカラズ. 手術ニハ先ヅ患者ノ頭部ヲ固定シ, 頰部ニ於テ第 2 上臼齒ノ部ニ對シテ注射針ヲ插入シ, 患者ノ口腔内ニ入レタル示指ニ沿ヒ粘膜下ニテ, 下顎枝ト上顎骨トノ間ヲ深ク進ミテ頭蓋底 (下顳顚面) ニ到達ス. 茲ニ於テ指ヲ口腔ヨリ出シ, 針尖ヲ以テ卵圓孔ヲ求メテ刺入ス. 此際患者ハ放散性疼痛又ハ知覺異常ヲ感ズルハ神経管ニ入レル證ナリ. 此時ニ 2.0% 「ノヴォカイン」溶液ノ 2-3 滴ヲ注射スベシ, 斯シテ痛覺ヲ脱失セシメタル後,

1) Tct. Colchici	
Tct. Gelsemii	ää 5.0
M.D.S. 3 mal tägl. 10 Tropfen.	

70-80% 化學的純酒精ノ 0.5-1.0 兪ヲ極メテ徐々ニ注射ス。此時針ヲ僅カニ進退セシメテ、酒精ヲ神經幹ノ各部ニ浸潤セシムレバ更ニ妙ナリ。注射後疼痛ハ直チニ消失スルモ、時ニ眼筋麻痺、顔面神經麻痺ヲ招來スルコトアリ。時ニ角膜ノ潰瘍ヲ來スコトアリ。角膜反射消失ハ數 10 時又ハ 1-2 日間ニテ消失スルモ、時ニ永久的ナルコトアリトイフ。

顳骨弓下 1.0 糎ノ所ニテ下顎截痕ノ間隙ヨリ卵圓孔内ニ注射針ヲ刺入スルコトヲ推賞スル人アリ。即患者ヲシテ口ヲ開カシメ置キ、針ヲ後下方ヨリ内上方ニ強ク進ムル時ニハ容易ニ卵圓孔ニ達スルヲウベク、斯シテガッセリー氏神經節ニ注射ス。卵圓孔口部ニ注射スルニハ顳骨弓下 2.0 糎ノ所ニテ下顎截痕ノ間隙ヲ通シ、頭ノ正中線ニ對シ 45 度ノ角度ニ傾ケテ刺入スベシトイフ。

末梢注射ハ更ニ容易ナリ。サレド其效果相當ナルガ故ニ應用シテ可ナリ。注射材料トシテハ 60-80% 酒精ヲ用ヒ、其 1.5-4.0 兪ヲ注射スルナリ。眼神經(第 1 枝)ニハ前頭骨ノ上頭眼窠孔口、上顎神經痛(第 2 枝)ニハ下眼窠孔口、下顎神經痛(第 3 枝)ニハ顎神經ノ出口部ニ注射ヲ行フ。

末梢注射トシテハ更ニ種々ノ方法アリ。ランゲ氏法ハ 0.5-1.0% 「ペータオイカイン」溶液ノ 20-30 兪ヲ壓痛點即神經各分枝ノ出口部ノ皮下竝ニ骨膜下ニ注射ス。

シュレージンゲル氏法ハ零度ニ冷却セル生理的食鹽水ノ 4.0 兪ヲ壓痛點ニ注射ス。

或ハ次方ヲ用ヒテ效ヲ見タル人アリ

1) 撒曹	0.5
ストヴァイン	0.075
蒸餾水	10.0

右混和、半時間煮沸消毒、毎日 2.0 兪宛、3-4 回末梢注射ヲ行フ

1) ブローム水素酸スコポラミン	0.0025-0.004
デオニン	0.3
鹽酸モルヒ子	0.2
蒸餾水	10.0

右爲注射料、初メハ半筒宛 1 日 1-2 回、後ニハ 2.0 筒迄増量ス

最後手段トシテハ罹患セル神經分枝ノ外科的除去問題トナル。ガッセリー氏神經節除去モ亦時トシテ問題トナル事ナキニシモアラズ。注射療法及外科療法等ヲ肯セザル者ニアリテハ「モルヒ子」劑ヲ缺ク事能ハズ。

一回量

パントポン (Pantopon)	0.01-0.03
ラウドノン (Laudanon)	..
ホロポン (Holoapon)	..
ナルコフィン (Narcophin)	0.015-0.03
モルファサン (Morphosan)	0.05-0.2
トリヴァリン (Trivalin)	1.0 兪皮下注射
バラコジン (Paracodin)	0.01-0.03
オイコジン (Eucodin)	..
コデオナール (Codeonal)	0.17

1) Scopolamin. hydrobrom.	0.0025-0.004
Dionin.	0.3
Morph. muriat.	0.2
Aq. dest.	10.0
M.D.S. 1-2 halbe Spritzen täglich, steigend bis 2 ganze Spritzen täglich.	

上膊神經痛 Neuralgia brachialis, Brachialgie.

保存的療法效ナキ時ニハ注射療法ヲ試ム。

シュレッセル氏法ニテハ0.5-1.0%「ペーオイカイン」溶液ノ20-40 兪ヲ用フ。或ハ2%「ノヴォカイン」ニ「スプラレニン」ヲ加ヘタルモノヲ用ヒ、其20-30 兪ヲ鎖骨ノ中央部ニ於テ鎖骨下動脈ノ直外方ヨリ第1肋間ニ向テ注入シ、膊神經叢ノ麻痺ヲ惹起セシメ得タル人アリ。此際手指ニ出現スル知覺異常ハ神經叢ニ到達セル證左ナリトセラル。

殺菌セル酸素又ハ空氣ノ皮下注射ハ上膊神經叢神經痛ニハ行ハザルヲ可トス。時ニ頸部皮下氣腫又ハ縱隔氣腫ヲ生ズル危險「レバナリト。

肋間神經痛 Neuralgia intercostalis, Intercostal neuralgie.

0.5-1.0% 局處麻醉劑溶液ノ5-25 兪ヲ壓痛點ノ皮下ニ注射ス。多クハ0.5%「ペーオイカイン」液ヲ用フ。

本症ニハ時トシテ帶狀疱疹(Herpes zoster)ヲ伴フ事アリ。神經痛ノ治療ニヨリテ消失スト雖モ、多少局處療法ヲ要スル事アリ。硼酸水、醋酸礬土水ノ濕布ヲ施ス外、次方ヲ用フ。

①	ザリチール酸	0.5-1.0
	滑石	
	澱粉又ハ亞鉛華	各 25.0
②	莨菪越幾斯	2.0
	ワゼリン	15.0

①	鹽酸コカイン	0.3
	アンチピリン	1.5
	ザリチール酸フェニール	1.0
	ワゼリン	20.0
②	硼酸	0.3
	單軟膏	10.0

③ 5%「コカイン」又ハ「アチステジン」軟膏

以上外用

近時ノ研究ニヨレバ疱疹ハ脊髄後根又ハ腦神經ノ知覺神經節ノ侵サル、一種ノ傳染性疾患ナルガ如シ。

神經炎 Neuritiden, Nerven- entzündungen.

外傷、腫瘍及異物ノ壓迫、傳染病(腸窒扶斯、實扶的里亞、癩病、黴毒等)、中毒(鉛、酒精等)、糖尿病、痛風等ニ來ル事アルガ故ニ、是等ノ原因ニ對スル療法ヲ第一トスベシ。急性症ニアリテハ「モルヒネ」劑、「コカイン」等ノ注射必要ナル事アリ。同時ニ「ザリチール」酸劑ヲ與フ。慢性症ニハ溫浴、按摩、電氣ヲ應用シ且練習療法ヲ行フ。「ストリキニー子」ヲ應用スル事多ケレドモ、其效果顯著ナラザル事多シ、寧ロ種々ノ理學的療法ニ效果多シ。

末梢神經麻痺 Peripherische Nervenlähmungen.

療法ハ先ヅ其原因ヲ攻治シ、誘因ヲ遠ザクル事ニアリ。神經創傷ニ基ク者ハ外科的ニ之ヲ縫合スルノ外ナシ。神經ニ加ヘラル、壓ノ爲ニ惹起セラレタル者ニハ其壓除去ニ任

スベシ、假令脊椎「カリエス」ノ場合ニ「キップス」牀、展伸術ヲ利用スルガ如シ。

神経炎性麻痺ニアリテハ感染乃至毒素ニヨルモノナルガ故ニ、其新鮮ナル場合ニ於テハ神経炎ニ準ジ「サリチール」酸等ヲ用ヒテ治療ヲ試ムレバ效アルコトアリ。然ラザル場合ニ於テハ麻痺ノ對症療法ヲ必要トス。即温浴、電氣療法、按摩法等ニヨリテ麻痺筋ヲ刺戟シ、以テ其ノ萎縮ヲ防グ事ヲ勉ムベシ。筋肉萎縮ヲ伴フ弛緩性麻痺ハ病竈末梢ニ位スル場合ニ出現スルノミナラズ。脊髓前角ノ侵サレタル場合ニモ出現スルモノナリトス。麻痺状態長時ニ互リテ存続スル際ニハ攣縮ニヨル畸形ヲ遺存スル危険アルガ故ニ、其防止ニ全力ヲ傾注スルヲ第一義トナスベシ。此爲ニハ早期ニ適當ノ位置ヲトル様副木固定法ヲ實施スルカ或ハ自動的及他動的運動ニヨリテ其防止ニ勉ムベシ。然モ後來整形的手術ヲ必要トスル事少カラズ。弛緩性麻痺ニ向テモ臍移植、神經移植等ノ試ミラザルニアラザルモ其效果ハ疑ハシ。藥劑トシテ沃度加里ノ内服、「ストリキニー子」、麥角等用ヒラル、モ其效果モ亦疑ハシ。

1 沃度加里	1.5
苦丁	1.0
單舎	5.0
水	100.0
右 1 日量, 3 回分服	
2 エルゴチン	0.5
甘草末及羔	適宜
右爲 1 日量, 爲丸, 3 回分服	
3 硝酸ストリキニー子	0.01
右爲 10 丸, 1 日 3 回, 1-2 丸宛	

1 硝酸ストリキニー子	0.05
蒸留水	10.0
右爲皮下注射料, $\frac{1}{5}$ - $\frac{1}{2}$ 坵宛	

顔面神経麻痺 Paralysis nervi facialis, Facialislähmung.

初期ニ「ザリチール」酸劑ヲ處スル外、電氣療法尤モ有效ナリ。電氣療法ハ始メヨリ之ヲ行フ人ト、發病後 7-10 日間ヲ經過シ、電氣變性反應 (Entartungsreaktion) ヲ檢シ、其結果ニ徴シテ之ヲ行フ人トアリ。

顔面神経麻痺ニ於テ變性反應ヲ示サルモノハ 2-3 週間ニシテ治癒スルモ、不完全變性反應ヲ呈スル者ハ 6-12 週ヲ要シ、完全變性反應ヲ有スル場合ニハ 6-12 ヶ月以上治療ヲ繼續スルモ恢復セザルコト往々ナリ。

初期ニ電氣療法ヲ行フ時ニハ平流電氣ヲ應用シ、陽極ヲ顔面神経路ニ沿フテ靜ニ移動セシム、電流ノ強サハ 0.5-3.0 「ミリアンペール」トシテ數分間通電ス。

不完全變性ノ場合ニハ感電電氣療法ヲ行ナヒ、完全變性ノ場合ニハ平流電氣ヲ用ヒ且其陰極ヲ治療ニ應用スベク、2-5 「ミリアンペール」或ハ其以上ノ電流ヲ用ヒテ 5-20 分間通電ス。若シ感傳電氣ニ對シテ反應スルニ至レバ直チニ感傳電氣療法ヲ行フ。感傳電氣ニ對シテ鋭敏ナルモノニハ感傳電氣ヲ治療者ノ手ヲ通ジテ局處ニ應用スルヲ可トス (Faradischer Hand)。何レノ場合ニモ電導子ノ大キサハ 10 平方糎ノモノヲ用フ。導子ハ常ニ温水ヲ以テ充分ニ濕潤セシムベシ。顔面神経麻痺ガ他ノ證明シウベキ器質的疾患ノ併發症トシテ來ル場合ニハ其ノ根源ニ向テ治療ヲ加フベキ事論ヲ

俟タズト雖，斯ル場合ニハ微毒ニヨルモノヲ除クノ外治療ノ有效ニ終ル事少ナシ。

顔面神経痙攣症 Spasmus nervi facialis, Facialiskrampf.

明確ナル原因ノ徴シ得ベキモノアレバ，是ヲ除去スベキコト勿論ナレドモ，本症ニハ解剖的根據ノ不明ナル者多キガ故ニ，臭素劑，砒素劑，「アトロピン」劑等ノ内服，平流電氣療法（陽極ヲ用ヒ，2-3「ミリアムペール」ノ電氣ヲ以テ1日1-2回，10-20分間通電ス）ヲ施シ，或ハ神經伸展法ヲ行フモ確效ナシ。近時「カルチウム」劑ノ内服ヲ推賞スルモノアレドモ其ノ效果ハ疑ハシ。時ニ鹽酸「モルヒチ」，鹽酸「コカイン」ノ注射ヲ行フモ卓效ナシ。酒精注射ハ純「アルコール」ヲ殺菌蒸餾水ヲ以テ稀釋シ70%溶液ヲ作りテ注射スルモノナリトス。此方法モ根治的ノモノニアラズシテ數ヶ月乃至1年後ニハ再發スルコト多シト雖，他方法ニ卓越シ，時ニ1回ノ注射ノミニテ奏效スルコトアリトセラル。一回ノ注射ニテ奏效セザル場合ニハ2-3日乃至數日ノ間隔ヲ以テ反覆スベシ，但本注射ハ少シク困難ト危險トヲ伴フモノナリトス。尤モ術後ニ來ル麻痺ハ3-4月ノ電氣療法ニヨリテ恢復セシムル事ヲ得ベシ。

術式：耳殼ヲ前方ニ壓伏シ且少シク上方ニ牽引シ，乳嘴突起ノ前界ニ於テ，恰モ外聽道ノ下緣ニ當ル點ヨリ僅ニ前方ニ向テ約2糎「プラローツ」針ヲ刺シ込ミ，輕ク針尖ヲ動かセバ，針尖ノ莖狀突起ニ觸ルヲ知ル。顔面神經ハ此突起ノ根部ノ後方ニアタル莖乳孔ヨリ出テ，外方ニ迂曲シテ走ルモノナルガ故ニ，其部ニ注射ヲ試ムレバ可ナリ。針

尖神經幹ニ當レバ烈シク痙攣ヲ起シ且疼痛ヲ訴フルガ故ニ之ヲ認知スルヲ得ベク，此瞬間ニ一舉ニ注入スベシ。此部ニハ耳下腺，外頸動脈，顳顬動脈，後顔面靜脈等混在スルガ故ニ細心ノ注意ヲ要ス。注射ハ始メ70%酒精ノ0.2珩ヲ注入シ，針ヲ其儘ニシテ1-2分間ヲ經過シタル後口笛ヲ吹カシメ，效果ノ認メラレザル時ニハ更ニ0.1-0.2珩ヲ注入シ，更ニ1-2分間觀察スレバ，若シ神經鞘内ニ酒精ノ到達セル場合ニハ痙攣ハ變ジテ麻痺トナル事ニヨリテ認知スル事ヲ得ベシ，斯ル際ニモ猶針尖ヲ其儘ニシテ數分間觀察スル必要アリ。コレ注入セル酒精ガ組織内ヘ瀰蔓，浸潤シ，稀釋セラレテ麻痺消失スル事アルガ故ニ，斯ル際ニハ針ヲ少シク外ニ曳キ出シ且針尖ヲ1-2珩前方ニ刺シ込ミテ酒精ヲ注入シ，全量0.5-0.8珩ニ至ラシムル事アリ。

神經衰弱症 Neurasthenie.

心身ノ過勞ヲ避ケ，便通ヲ整調シ，生活上ノ惡習ヲ去リ，正規的ナル生活ヲ營マシメ，一般榮養療法ヲ施スノ傍ラ，種々ノ理學的（電氣，水治，按摩）療法ヲ試ムレドモ，重要ナルハ精神療法ニシテ，是等ハ單ニ補助方法タルニ過ギズ。即患者ノ訴フル所ノ症狀ニ就キテハ懇切ニ之ヲ診査シ，其意義ニ就テ適確ナル説明ヲ與ヘ，以テ患者不安ヲ去ルニ勉ムベシ。然レドモ徒ニ患者ガ訴フル所ニ順應シテ局處療法ヲ主トスルガ如キハ誤レル治療方針ナリトイフベシ。

藥劑ハ個々ノ症狀ニ向テ之ヲ合理的ニ用フベシ，就中臭素劑ハ到底缺ク事能ハザルモノニシテ，コハ興奮状態ニモ，將タ又輕度ノ沈鬱状態ニモ應用シテ可ナリ。之ニ配スルニ纈草劑ヲ以テスル事往々ナリトス。

臭素剤ヲ應用スル際ニハ一般ニ食鹽ノ攝取量ヲ減ズルヲ可トス。鹽素「イオン」ハ加里トノ親和力強キガ故ニ、臭素ハ速カニ臭素鹽類ヨリ分離セラレ排泄セラル、サレバ臭素剤投與ノ際食鹽量ヲ減ズルコトハ、臭素ノ作用ヲ顯著ニ接續セシムルコト、ナルナリ。

臭素剤ハ屢々慢性中毒 (Bromismus) ヲ來スコトアリ。此際ニハ臭素剤ノ投與ヲ中止シ且食鹽ヲ與フベシ。慢性中毒ヲ避ケンガタメ有機性臭素化合物推賞セラルレドモ、臭素剤トシテノ效果ハ臭素加里、臭素「ナトリウム」等ノ無機性臭素化合物ニ及バザル事遠シ。面皰防止ニ資スルモノトシテ「カルチウム」劑ヲ處スル人アリ。勿論「カルチウム」劑其者ニモ多少中樞神經ノ興奮ヲ減ズル働キアリ。外用トシテ次方ニ用フ。

臭素慢性中毒：角膜反射消失、言語障礙、軟口蓋反射消失、震顫、精神鈍麻(思考力、記憶力ノ減退)、全身倦怠、臭素性面皰、陰萎等

臭素剤ハ胃粘膜ヲ刺戟スルガ故ニ重曹等ノ「アルカリ」劑ヲ配伍シ且空腹時ニハ與ヘザルヲ原則トス。臭素加里ノ粘膜刺戟作用ハ臭素「ナトリウム」ヨリモ強シ。臭素「アムモニウム」ノ其レモ臭素「ナトリウム」ノソレヨリ強シトセラル。此三者ハ臭素剤ノ主要ナルモノニシテ、時ニ配伍シテ使用セラル。

面皰ニ對シ外用トシテ次方ヲ用フル事アリ。

❶ 硫黃華	6.0
カンフル	0.5
亞拉比亞護膜漿	3.0
石灰水	
薔薇水	各 50.0
右外用(夜間) <u>クンメルフェルド水</u>	

❶ 昇汞	0.1
亞拉比亞護膜漿	5.0
グリツェリン	5.0
苦扁桃水	20.0
酒精	25.0
蒸溜水	100.0

右外用(晝間用)

❷ エルレンマイヤー氏合劑

臭素ナトリウム	
臭素加里	各 20
臭素アムモニウム	10
水	300

右爲合劑、1日數回、1酒盞宛

❸ 臭素加里	3.0-5.0
乳酸カルチウム	1.5
苦丁	1.0
單舎	8.0
水	100-120-150

右1日量、3-4-5回分服

❹ 臭素加里	3.0
抱水クロラール	1.0
ホミカ丁幾	1.5
單舎	5.0
水	120.0

右1日量、4回分服(毎食後及就寢前)

❺ 臭素加里	3.0
重曹	2.5
纈草丁幾	1.0

單舎	8.0
水	100.0
右 1 日量, 3 回分服	
■ 臭素ナトリウム	2.5
莨菪越幾斯	0.05
單舎	7.0
水	100.0

右 1 日量, 3 回分服

上記ノ外主要ナル臭素劑ハ次ノ如シ

	1 回量
臭素樟腦 (Monobromkampfer, Camphora monobromata)	0.1-0.2
臭素カルチウム (Bromcalcium)	1.0
プロモコル (Bromocoll, Dibromtannin-leimverbindung)	0.5
プロマリソ (Bromalin, Valerian-Brom-verbinding)	
プロミピン (Bromipin, Verbindung mit Sesamöl)	10% 4-12 錠 33% 1-4 錠
ブロムラール (Bromural)	} 0.3
カルモチン (Calmotin)	
ヒプノチン (Hypnotin)	
プロヴァリン (Brovarin)	
サブロミン (Sabromin, Calcium dibrombehenicum)	0.5
イクイプロミン (Equibromin)	
セドプロール (Sedbrol, Kombination von	

Bromnatrium, Kochsalz mit Fett u. Pflanzenextraktivstoffen)	2.0 (1 錠)
アダモン (Adamon, Dibromdihydrozimtsäureborneolester)	0.5
ウレアプロモン (Ureabromin, Bromcalciumharnstoff)	0.5-10

一般ニ體質性神経衰弱ト見ラルベキモノハ治シ難シ。兎ニ角神経衰弱ニ際シ、体内ノ物質代謝ヲ旺盛ナラシメテ、一定ノ效果ヲ收メントスル企圖ハ、時ニ多少ノ影響アリ。此目的ニ應用セラル、ハ「ヌクレイン」曹達及「ツベルクリン」ノ二ナリトス。何レノ場合ニモ暗示的效果モ亦存スルモノナル事ヲ忘ルベカラズ。

「ヌクレイン」酸曹達 (Natrium nucleicum) 20% 迄ノ溶液ヲ作り、其 0.5-1.0 錠ヲ隔日又ハ毎日皮下ニ注射スルモ、其用量ハ輕キ發熱ヲ伴フヲ限度トスベシ。注射回数ハ 20-30 回ニモ及ブ。溶液ノ腐敗ヲ防グタメニ、時ニ石炭酸ヲ加フ。「ヌクレイン」酸曹達ノ餘リニ濃厚ナルヨリハ、寧ロ稀薄ナルヲ可トス。

■ ヌクレイン酸曹達	1.0
0.5% 石炭酸	2.0
蒸留水	8.0

右爲皮下注射料, 1 回量 0.5 錠ヨリ始メテ漸次増量ス

「ヌクレイン」酸曹達副作用: 悪心, 嘔吐, 眩暈, 頭痛, 速脈, 呼吸困難, 脱力

「ツベルクリン」 (Tuberkulin) 舊「ツベルクリン」ヲ用フ、其用法ニ種々アリ
松原氏ニヨレバ

■ 舊ツベルクリン	1.0
グリツェリン	4.0
蒸留水	5.0

右混和、爲皮下注射料

最初ハ舊「ツベルクリン」0.01 瓦 ($1/10$ 瓦)ヲ注射シ、2日毎ニ反覆シテ、 38°C 内外ニ發熱セシメ、毎回0.02-0.05 瓦 ($2/10$ - $5/10$ 瓦)ヲ增量シテ0.3 瓦 (3 瓦)ニ至ルモ猶發熱輕微ナラバ0.5 瓦ニ至ラシムベシ。此方法ハ結核アルモノニハ注意シテ應用スルヲ要ス。發熱ノ際頭痛烈シキモノハ安臥セシメ、頭部ニ冰嚢ヲ貼シ且傾通ヲ得セシムベシ。

要之一般榮養状態ノ向上ヲ企圖スル事モ亦缺クベカラザル事ニシテ、貧血ノ伴フ者ニ鐵劑、亞砒酸劑ヲ處スル事ノ有益ナルヤ論ナシ。

神經衰弱ニ際シ、種々ノ自覺的症候ニ對シテ適當ナル治療ヲ加フルヤ否ヤハ、疾病ノ全經過ニ對シテ大ナル影響アルガ故ニ、慎重ナル考慮ノモトニコレガ治療ニ任ズベシ。何レノ場合ニモ先ヅ理學的療法乃至内服藥等ニテ治療ヲ試ムベシ。時ニ注射療法等異常ノ方法ニヨリテ顯著ナル效果ヲ見ルコトアレドモ、斯ノ如キ方法ハ本病ノ性質上習慣性ヲ來シ易キガ故ニ可及的最後手段トナス様心掛クルヲ肝要ナリトス。以下其二三ノモノニ就キテ治療法ヲ述ブベシ。

不眠 (Schlaflosigkeit) 不眠ノ治療ニ當リ、直チニ藥劑ヲ以テセントスルコトハ不可ナリ。コレ不眠ハ頑固ナルモノニシテ、藥效ニヨリテ睡眠ヲ得セシメント欲スレバ長期ニ互リテノ使用ヲ要スベク、他方睡眠劑ハ慣習作用ヲ來シ易キガ故ニ變換使用ヲ必要トス。猶循環系ニ對スル作用ヲ顧慮シテ與フベキモノナリトス。故ニ先ヅ一般的治療ノ見地ヨ

リシテ、規則的ナル生活状態ヲ營マシムルヲ肝要トス。例之ハ晚餐ハ定規的ニ、然モ早期ニトラシメ且淡白食餌ヲ選バシメ、爾後睡眠時ニ至ルマテハ諸種ノ強烈刺戟ヲ避ケ、特ニ精神的作業ヲ中止セシムルヲ可トス。而シテ就寢前溫浴ヲ取ラシムルガ如キハ良方法ナリトス。若シ轉地ヲナサントスルモノハ山間ヲ選バシムル方多クノ場合ニ於テ良果ヲ來ス。此際注意スベキハ過激ナル運動ヲナサル事ナリ。過激ナル運動ハ却テ症状ヲ増悪セシムル事多シ。時ニ感電氣療法ノ效果顯著ナル事アリ。

要之、藥劑ヲ處スル前ニ一般衛生的規準ニ隨テ生活ヲ營マシメ、之ニ配スルニ理學的、精神療法ヲ以テスベシ。殊ニ重要ナルハ精神療法ニシテ、病症ニ對スル解説ヲ與ヘ且暗示ニヨリテ偉效ヲ奏スルコトアリ。暗示ニヨリテハ1包ノ白糖、重曹、護膜末、生理的食鹽ノ1筒等モ亦睡眠劑トシテノ效力ヲ發揮スル事稀有ナルモノニアラズ。一旦睡眠劑ヲ與ヘテ佳良ナル睡眠ヲ得セシメタル後ニ斯ル方法ヲ廻ラスハ妙ナリ。

睡眠劑ヲ與フル場合ニ於テモ、直チニ強烈睡眠劑ヲ用フルコトナク、先ヅ最初ニハ緩和ナルモノヲ試ミ、強烈ナルモノハ最終方トシテ保存スルヲ必要トス。サレバ臭素劑ヲ1日4回分服トシテ毎食後及就寢前ニ與フルガ如キハ常ニ試ミラルベキ方法ナリトス。鎮靜劑トシテ纈草丁幾ヲ處スルコトモ亦頗ル妙ナリ。

睡眠劑トシテ應用セラル、物枚舉ニ違アラズ。其間多少ノ優劣ハアランモ、上述ノ要訣ノ下ニ處スベク且藥效ノ時間的關係及其性状ヲ顧慮シテ與フベシ。就眠ノ困難ナル場合ニハ吸收速カニシテ排泄速ナル物ヲ用フベク、睡眠淺キ者ニ向テハ之ニ反スルモノヲ用フベシ。時ニ二種以上ヲ合併

シテ用フレバ其作用ヲ増シ、副作用ヲ減ズル事アリ、其使用方法ハ多クハ内服ナレドモ、時ニ注腸乃至注射ノ方法ヲ要スル場合アリ。

抱水クロラール (Chloralhydrat, Chloralum hydratum) 1.0-2.0

就眠難ニ使用ス。循環器、肺疾患、胃腸加答兒併發スルモノニハ使用セザルヲ可トス。

■ 抱水クロラール	1.0-2.0
單舎	5.0
水	50.0

右頓服料、就寢前半時間

■ 抱水クロラール	2.0-4.0
護謨漿	30.0
阿片丁幾	10 滴
水	50.0

右注腸料

クロラールアミッド (Chloralamid, Chloralum formamidatum) 1.0-2.0-3.0

クロールアミッド：眩暈、頭痛、悪心、嘔吐、迷朦、心臓障碍、糖尿。

■ クロールアミッド	1.0
橙皮舎利別	5.0
水	20.0

右頓服料

■ クロールアミッド	3.0
水	80.0

右注腸料

クロラローゼ (Chloralose, Verbindung v. Chloral u. Glycose) 0.1-0.2

クロラローゼ：眩暈、昏睡、痙攣、心臓障碍

イソプラール (Isopral, Trichlorisopropylalkohol) 0.5-0.75

イソプラール：頭痛、眩暈、口渴、口臭、胃部ノ灼熱及壓迫感竝ニ胃痛、發疹、尿意。

ドルミオール (Dormiol, Dimethyläthylkarbinolchloral) 0.3-0.5

ドルミオール：胃ノ刺戟、壓迫感、頭痛、眩暈、不安、耳鳴、悪心、嘔吐、下痢。

ノイロナール (Neuronal, Bromdiäthylazetamid) 0.5-1.5

イロナール：嗜睡、嘔氣、嘔吐、下痢、頭痛、歩行蹣跚、昏瞢、速脈、發疹。

アダモン (Adamon, Dibromdihydrozimtsäureborneolester) 0.5

アダモン：發疹。

ブロムラール (Bromural, α -Monobromisovalerianylharnstoff) 0.3-1.0

ブロムラール：嘔吐、膀胱刺戟、醒覺時ノ不愉快感、昏瞢、興奮。

ブロヴァリン (Brovarin) }
カルモチン (Calmotin) } 邦製「ブロムラール」
ヒプノチン (Hypnotin) }

アダリン (Adalin, Bromdiäthylazethylharnstoff) 0.3-1.0

アダリン：嘔心，下痢，胃壓迫感，昏瞢，眩暈，頭痛。

ドルミン (Dormin, 邦製「アダリン」)

スルフォナール (Sulfonalum, Diäthylsulfondimethylmethan) 0.5-1.0

薬效緩慢ニシテ，時ニ蓄積作用ヲ來ス。腎臓ヲ刺戟ス。「ヘマトホルフィン」尿ヲ來スコトアリ。就寢前1時間ニ多量ノ温湯ニテ服用セシムベシ。

スルフォナール：食思減退，嘔吐，腹痛，下痢，耳鳴，昏瞢，頭痛，眩暈，倦怠，歩行蹣跚，不整徐脈，心悸動，興奮，發疹。

トリオナール Trionalum, Diaethylsulfonmethyläthylmethan) 0.5-1.0

トリオナール：倦怠，食思減退，嘔氣，悪心，嘔吐，頭痛，眩暈，下痢，耳鳴，恍惚，幻覺，震顫，言語障碍，眼華閃發，心臓障碍，腎臓刺戟。

パラアルデヒード (Paraldehyd, Polymerisiertes Azetaldehyd) 1.0-4.0

内服及注腸料トシテ用キラル

パラアルデヒード：口渴，悪心，頭痛，眩暈，歩行蹣跚，不整脈，呼吸促進，虚脱，興奮。

■ パラアルラビード 3.0
ゴム漿 20-50.0

右頓服料，就寢直前

抱水アミレン Amylenum hydratum, Dimethyläthylkarbinol) 1.5-3.0

抱水アミレン：嘔吐，發汗，迷蒙，頭痛，眩暈，食思不振。

■ 抱水アミレン 2.0
單舎 10.0
水 50.0

右頓服料，就寢直前

■ 抱水アミレン 3.0-5.0
阿片丁幾 10 滴
水 50.0

右注腸料

ヒブノン (Hypnon, Azetophenon) 0.05-0.1

ヒブノン：頭痛，發汗。

アポナール (Aponal, Amylenhydrokarbonat) 1.0-2.0

アポナール：倦怠。

ウレタン (Urethan, Karbaminsäureäthylester) 1.0-4.0

ウレタン：發汗，食思亡失，悪心，嘔吐，頭痛，昏瞢。

ヂアール (Dial, Diallylbarbitursäure) 0.05-0.15

ヂアール：眩暈，頭部壓迫感，沈鬱，震顫，歩行蹣跚，不安，體温降下，失神。

ヘドナール (Hedonal, Methylpropylkarbinolurethan) 1.0-1.5

ヘドナール：眩暈，蹣跚感，嘔氣，悪心，嘔吐，昏瞢，耳鳴，眼華閃發，頭痛，興奮。

ルミナール (Luminal, Phenyläthylbarbitursäure) 0.1-0.4

ルミナール：昏瞢，眩暈，頭痛，頭壓，倦怠，胃痛，悪心，嘔吐，恍惚，歩行時動搖。

ルミナールナトリウム (Luminalnatrium) 0.2-0.4

内用ノ外皮下注射 (20% 溶液), 注腸及坐薬トシテモ
應用ス。

プロボナール (Proponal, Dipropylma-
lonylharnstoff) 0.1-0.3

プロボナール: 悪心, 嘔吐, 速脈, 興奮, 發疹。

ヴェロナール (Veronal, Diäthylmalonyl-
harnstoff, Diäthylbarbitursäure) 0.3-0.5

ヴェロナール・ナトリウム (メヂナール),
(Veronalnatrium, Medinal) 0.3-0.5

内服ノ外ニ皮下注射, 注腸トシテ使用セラル。

ヴェロナール副作用: 發疹, 眩暈, 歩行蹣跚, 嘔吐。

催眠剤使用ニ際シ, 二劑ヲ合併スル事ハ頗ル有利ナル事ニ
シテ, 最後手段トシテ試ムベキ事ナリトス。

ドルミオール (Dormiol) ハ抱水「クロラール」ト抱水「アミ
レン」トヨリナリ。0.3-0.5 ヲ用フ。

コデオノール (Codeonal) 錠ハ「コデイン」及「ヴェロナー
ルナトリウム」ヨリナリ, 1-2 個ヲ用フ。

ナルコフィン (Narkophin) ハ「モルヒネ」及「ナルコフィ
ン」各等量ヨリナリ。3% 溶液 15-20 滴又ハ 1 錠 (0.03)
皮下注射ヲ行フ。本邦製ニ「ナルコポン」(Narkopon) アリ。

ヴェロナツェチン (Veronazetin) 錠ハ「ヴェロナール」0.3
「フェナセチン」(0.25) ヲヨリナリ, 1-2 錠ヲ與フ。

ヴェロピリン (Veropyrin) ハ「ヂオニン」0.01, 「ヴェロナ
ールナトリウム」0.2, 「カルモピリン」0.5 ヲ含有ス。

ヴィフェラール (Viferral) ハ「クロラール」及「ピリヂン」ノ
合劑ニシテ 0.5-1.5 ヲ用フ。

ゾムニフェン (Somnifen) ノ 1 錠中ニハ Diäthyl (0.1) 及

Dipropenylbarbitursäure (0.1) ヲ含有ス。内服ニハ 30-50 滴,
筋肉注射ニハ 1-2 錠, 静脈内ニハ 2-3 錠ヲ用フ。

ゾムノスパスモン (Somnospasmon) ハ「ゾムナセチン」
(Somnacetin) ト臭素トノ結合體ニシテ, 8% ノ臭素ノ外「ヂ
エチールバルピチール酸」曹達, 「ピラツォロン」, 「コデイ
ン」, 石灰, 「グリツェリン」磷酸等ヲ含有ス。

スパスマルギン (Spasmalgin) 1 錠ハ「パントボン」
(0.01), 「パバヴェリン」(0.02), 「アトリナール」(0.01) ヲ
含有ス。

ヂオゲナール (Diogenal) 「ヴェロナール」ノ臭素含有導
誘體 (Dibrompropyldiäthylbarbitursäure) ニシテ 1.0 ヲ用
フ。

余ハ最後手段トシテハ好ミテ次方ヲ用フ。

① ヴェロナール 0.3-0.5

鹽酸モルヒネ 0.005

右頓服料

② ヴェロナール 0.3

フェナセチン 0.25

磷酸コデイン 0.025

右頓服料

精神興奮甚シキ時ニハ「ブローム」水素酸「スコボラミン」又
ハ「ヒオシチン」ヲ用フ。輕症ニハ頓服モ可ナレド, 連用ノ
效アルニ如カズ。始メ 0.005 ヲ 1 日數回與ヘ, 遂ニ 1 日量
0.003-0.004 ニ至ル。皮下注射療法亦可ナリ。

③ ブローム水素酸スコボラミン 0.01

甘草末及羔 適宜

右爲 50 丸, 臨牀時 2 丸服用

- ① プローム水素酸ヒオシチン 0.01
2% 石炭酸溶液 10.00

右皮下注射用, $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{2}$ -1.0 錠宛

「ヒオシチン」副作用: 口渴, 嚥下困難, 瞳孔散大, 甚シキ時ハ幻覺, 心機能障碍ヲ來ス。

本邦製 ナルコポン・スコポラミン (Narkopon-Scopolamin) モ亦同シ。

硫酸 ツェボイジン (Duboisinum sulfuricum) モ亦コノ目的ニ用キラル (0.0001-0.0002)。

- ② 硫酸ツェボイジン 0.01
蒸留水 20.0

右皮下注射料, $\frac{1}{5}$ - $\frac{2}{5}$ 錠宛

ペロニン (Peronin, Benzoylmorphinum hydrochloricum) ハ内服 1 回量 0.02-0.05 ヲ用フ, 時ニ副作用トシテ眩暈感, 徐脈, 嘔心等來ル事アリ。

興奮, 不安状態 (Erregungs- u. Angstzustände) 綿密ナル診査ヲトゲ, 種々ノ自覺症候ニ對シ何等特殊ノ疾患ナキ事ヲ説破スル事ニヨリテ, 患者大ニ安ヲ得ル事アレドモ, 重キ者ニハ少量ノ阿片劑ヲ缺ク事能ハズ。阿片劑ハ散藥, 滴劑, 丸又ハ坐藥トシテ用フル事ヲ得ベキモ, 丸藥トシテ應用スル事最モ多シ。始メハ 1 回量 0.02 位トシ, 漸次増量シテ 1 回量 0.3 トシ, 1 日 3-4 回服用ニ至ラシムル事アリ。時ニ重篤ナル者ニハ「ヒオシチン」ヲ應用スル事アリ。殊ニ興奮乃至不安ノタメニ不眠ヲ伴フ時ニハ優秀ナル效果ヲ示スモノナリトス。(不眠参照)

頭痛 (Kopfschmerz) 神經衰弱症ニ來ル頭痛ニ 2 種アリト解スルヲ得ベシ。何レノ場合ニモ頭部ノ平流電氣療法一定ノ

效果アリ。腦貧血性頭痛ハ耳鳴, 眩暈ヲ伴フ事多シ, 之ニ向テハ安靜ヲ命ズルト同時ニ, 大脳皮質ノ毛細管擴張劑「カフェイン」, 「アンチピリン」, 鹽規等) ヲ用フベシ。

- ① ミグレニン 0.5

右頓服料

- ② 臭素加里 3.0
ザリチール酸 ナトリウムカフェイン 1.0
單舎 5.0
水 100.0

右 1 日量, 3 回分服

- ③ 枸橼酸カフェイン 0.1
フェナセチン 0.3

右爲 1 包, 1 日 2-3 回, 1 包宛

- ④ フェナセチン 0.25
ミグレニン 0.3

右爲 1 包, 1 日 2-3 回, 1 包宛

- ⑤ 臭剝 3.0
アンチピリン 1.0
安息香酸ナトリウムカフェイン 0.5-1.0
單舎 8.0
水 100.0

右 1 日量, 3 回分服

- ⑥ プローム樟腦 0.5
アスピリン 1.2

右 1 日量, 3 回分服

- ⑦ 鹽規 0.3
亞砒酸 0.003

還元鐵

0.3

右1日量, 3回分服

腦充血性頭痛ニハ新鮮空氣中ニ於ケル適當ナル運動ト便通整調トヲ必要トス。藥劑トシテ臭素劑最モ奏效アリ。其他「プロムラール」, 「ヴェロナール」, 磷劑等ヲ適宜配伍スベシ。時ニ「パントポン」等ノ阿片「アルカロイド」, 及「カルチウム」, 「マグネシウム」鹽類ノ合劑效果アル事アリ。殊ニ興奮ヲ伴フ場合ニ於テ然リトス。

1 臭素加里	3.0
水製大黃丁幾	10.0
單舎	8.0
水	100.0

右1日量, 3回分服

2 臭素加里	3.0
グリツェリン燐酸カルチウム	3.0
單舎	5.0
水	100.0

右1日量, 3回分服

3 プロムラール	1.0
グリツェリン燐酸カルチウム	5.0

右1日量, 3回分服

4 臭素カルチウム	2.0
莨菪越幾斯	0.05
單舎	7.0
水	100.0

右1日量, 3回分服(特ニ痙攣性便秘時ニ效アリ)

磷(Phosphorus)ヲ多量ニ與ヘント欲セバ「レチチン」(Lecithin)劑ヲ用フ。コレニ「レチトール」丸(Pil. Lecitholi 1日

3回1錠宛), 「レチン」(Lecin, 1日1-2錠或ハ1日3回1小兒匙宛), 「ヌクレオーゲン」(Nucleogen)等アリ。

肩緊張感(肩凝り)(Schulterspannung)按摩療法, 電氣療法等ニテ輕快シ, 時ニ莨菪硬膏貼用俾效ヲ奏スル事アリ。甚シキ時ハ次方ヲ試ムルモ, 慣習セザル様注意スベシ。

1 生理的食鹽水 1.0-2.0 珄

右肩部皮下ニ注射ス

2 マスイシン	0.15-0.3
石炭酸	0.3
蒸留水	30.0

右爲皮下注射料, 左右肩部ニ各1.0珄宛

3 2% ベンチール酒精 1-2 珄

右肩部筋肉内注射, 1日數回反覆スルモ可ナリ(生理的食鹽水ニ溶解シテ2%トナス)

4 1% フェニール・エチール・アルコール 1-2 珄

右前 同

心臟神經症(Herzneurose)本症ハ神經性心機亢進症(Nervöses Herzklopfen)トシテ現ル、コト多ク, 時トシテ發作性心臟收縮異常疾速症ノ如キ型ヲ以テ出現スルコトアリ。稀ニ「フレンノカルヂー」(Phrenokardie)トシテ來ル。何レニシテモ心臟神經症ハ比較的頑固ナルモノナリ。一般神經衰弱療法ノ傍ラ, 心臟ニ關スル徵候ノ無危險ナルヲ説得スベシ。炭酸浴, 四肢ノ溫浴, 心臟部ヘ冰囊又ハ溫熱應用, 「マッサージ」, 輕度ノ體操, 電氣療法等效アル事アリ。

藥劑トシテハ臭素劑ニ伍スルニ莨菪越幾斯, 續草劑ヲ以テスル事最モ有效ナリ。

1 臭素加里	3.0
莨菪越幾斯	0.04

單舎 7.0
水 100.0

右 1 日量, 3 回分服

1 臭素加里 3.0
纈草丁幾 1.0
單舎 8.0
水 100.0

右 1 日量, 3 回分服

2 エーテル性纈草丁幾
エーテル精
(又ハ「ロベリア」丁幾) 各等量

右 10-20 滴發作時服用, 又ハ布片ニ滴加シテ嗅込
料トナス

3 エーテル性纈草丁幾
ウァリドール 各等量

右爲滴劑, 10-15 滴ヲ服用又ハ嗅込料トナス

纈草劑トシテ應用セラル、物ニ次ノ種類アリ

ウァリドール (Validol, Valerianasäurer Me- 一回量
thylester) 10-20 滴

ウァリール (Valyl, Valeriansäurediäthylamid) 膠囊入 (0.125) 2-3 個

ウァロフィン (Valofin, Baldrianpräparat) 15-20 滴
ヴォルニヴァール (Vornyval, Baldrianprä- 膠囊入 (0.25) 1-2 個
parat)

新ヴォルニヴァール (Neubornyval, Isovalen- 膠囊入 (0.25) 2-3 個
glykolsäure-Bornylester)

ギノヴァール (Gynoval, Isoborneolester der 8-10 滴
Isovaleriansäure)

ウァリザン (Valisan, Verbindung von Brom 膠囊入 (0.25) 1-2 個
mit Bornyval)

ウァレリアン・ヂアリザート (Valerianadialy- 15-30 滴
sat Golaz)

神經性食思不振 (Dyspepsia nervosa) 電氣療法, 按摩法, 水
治法ヲ施シ, 一般療法ノ外, 苦味劑ヲ處ス。

1 臭素加里 3.0
ゲンチャナ丁幾 1.5
單舎 10.0
水 100.0

右 1 日量, 3 回分服

2 苦味丁幾 10.0
蕃木髓丁幾 10.0
ゲンチャナ丁幾 5.0

右爲滴劑, 每食前, 10-20 滴服用

3 コンヅェランゴ越幾斯
右爲滴劑, 每食前, 20-30 滴服用

4 クレオソート 0.3
右 1 日量, 爲丸, 3 回食前分服

遺精 (Pollution, Samenfluss) 青年者流ニアリテハ時ニ生理
的現象ノ一ト見ラレ得ベキモノナルガ故ニ, 之ニ對スル根
本問題ハ, 性ニ對スル自覺, 精神修養ノ如何ニアリ。サレ
バ藥劑ノミニヨリテ治效ヲ收メントスルハ難事ナリ。手淫,
房事ニ就テ警告シ, 心身ノ過勞ヲ避ケ, 就寢時ノ飲食ヲ廢
シ, 睡眠時ニ温包ヲ避ケ, 水治療法, 暗示療法ヲ試ム。内
服藥トシテハ一般的神經衰弱症治療ノ際ニ用フルモノ以外
ニ出ル事ナシ。

1 臭素加里	10.0
アンチピリン	5.0
水	200.0

右爲合劑，就寢前 1-2 食匙頓用

2 臭素樟腦	0.25-0.3
右就寢前，頓用	

3 アダリン	0.3-0.5
右就寢前頓用	

4 ヴェロナール	0.3-0.5
鹽酸ヘロイン	0.003-0.005
右就寢前頓服	

5 臭素樟腦	0.5
カカオ脂	2.0
右肛門坐藥 1 個料，毎夕 1 個插入	

陰萎 (Impotentia coeundi, Impotenz) 神經衰弱症ニ於テハ寧
ロ精液早漏 (Ejaculatio praecox) ヲ訴フル事多シ。局處ニ
病的變化ナキ限リハ一般的強壯療法及精神療法ノ傍ラ，炭
酸浴，電氣療法等ノ理學的療法ヲ施ス外神經鎮靜劑ヲ用フ。
催淫劑 (Aphrodisiaca) ノ效果モ暗示的奏效以上ニ出ルコト
少ナシ。攝護腺部ニ 0.5% 硝酸銀液ノ塗布ヲ賞用スル人ア
リ。

6 臭素加里	1.0
蕃木鼈丁幾	1.0
單舎	5.0
水	100.0

右 1 日量，3 回分服

1 麝香	0.1
白糖	0.5

右 1 包料，1 日數回，1 包宛

2 硝酸ストリキニー子	0.003-0.005
右 1 日量，爲丸，3 回分服	

3 プローム樟腦	0.6
グリツェリン磷酸カルシウム	1.2
乳糖	1.0

右 1 日量，3 回分服

4 鹽酸ヨヒムピン錠 (0.005)	3 錠
右 1 日 3 回，1 回 1 錠	

5 1% 鹽酸ヨヒムピン溶液	
右 1/4-1/2 兪宛 1 日 1 回皮下注射	

6 4% スペルミン酒精溶液	10-30 滴
右 1 日 3 回，牛乳ニ混ジテ服用	

7 ペール氏スペルミン (Spermin Poehl)	
右 1 日 1 回，1 兪宛臀筋部又ハ背部皮下注射	

8 スペルマチン	1.0-2.0 兪
右毎日，隔日又ハ 1 週 2 回皮下注射	

9 スペルマチン	6-9 個
右 1 日量 3 回分服	

ヨヒムピン：腹痛，食思亡失，尿意頻數，痔出血，發疹，
惡寒，發汗，衰弱感。

1) Moschi	0.1
Sacch. alb.	0.5
M.f. pulv. D. tal. dos. No. X.	
S. Mehrmals tägl. I Pulver.	

1 テトロドトキシソ 1.0 銚
右皮下注射, 隔日1回, 20回ニモ及ビ1回量ヲ1.5
銚トス.

2 生理的食鹽水 30-50 銚
右前尾閥骨部皮下注射

3 カテラン氏脊髄硬膜外注入

生理的食鹽水 30

ヨヒムピン液 10-15 滴

右脊髄硬膜外注入

尿道ニ「ブーザー」ヲ挿入シ, 或ハ後尿道部ニ藥液ヲ注入シ
テ刺戟法ヲ試ムル人アリ.

ヒステリー Hysterie.

諸種ノ症状ヲ呈シ治癒シ難ク且再發シ易シ.

大體ハ神經衰弱症ニ準ジテ治療スベク, 精神療法ヲ主トシ
テ, 各症候ニ對スル患者ノ不安ヲ一掃シ, 注意ヲ轉向セシ
ムベシ. 此意味ヨリシテハ各個症候ニ對シテ特種ノ理學的
療法ヲ施スガ如キ事ハ却テ不利益ナル結果ヲ生ズル場合ナ
キヲ保セズト雖モ, 一般ニハ水治, 電氣, 按摩療法等ヲ施
ス. 其傍ラ鎮靜劑ヲ處シ且各種症状ニ對シテ合理的ノ療法
ヲ行フベシ. 勿論多クノ藥劑ヲ使用スル事ハ, 之ヲ慎ムベ
ク, 或程度迄ハ暗示ニヨリテ藥效ヲ求メ得ベキ事ヲ忘ルベ
カラズ. コレ既ニ神經衰弱ノ項ニ於テ述ベタリ.

4 臭素加里 3.0-5.0

縹草丁幾 1.0

單舍 8.0

水 100-150.0

右1日量, 3-5回分服

1 臭素ナトリウム 3.0

ウァリドール 1.0

單舍 7.0

水 100

右1日量, 3回分服

2 縹草根浸 (4.0) 100.0

臭素ナトリウム 2.0

生薑舍利別 5.0

右1日量, 3回分服

3 臭素加里 3.2

抱水クロラール 1.2

蕃木鼈丁幾 1.0

單舍 8.0

水 120.0

右1日量, 4回分服

4 プロヅァリン 1.0

グリツェリン磷酸カルチウム 3.0

健末 0.3

右1日量, 3回分服

5 臭素加里 3.0

安息香酸ナトリウムカフェイン 1.0

アンチピリン 1.0

苦丁 1.5

單舍 10.0

水 100.0

右1日量, 3回分服(頭痛時)

6 ウァリドール 10.0

右滴瓶ニ入レ5-10滴ヲ砂糖水ニテ服用セシム

ウッリドール：嘔氣，嘔吐等ハ飲用十分前ニ少許ノ重曹ヲ與フル事ニ依リテ緩和セラル。

1 エーテル性纈草丁幾

ウッリドール 各等分

右 5-10 滴服用或ハ手布ニ滴加シテ嗅込料トナス。纈草劑ハ「ヒステリー」ノ際ニ最モ好ミテ使用セラル、所ニシテ種々ノ類アリ。

1 回量

ウッリドール (Validol, Mentholum valerianicum) 5-10-15 滴

ウッレリアン・ヂアリザート (Valerianadi-lysate Golaz) 15-40 滴

ウッロフィン (Valofin) 5-15-20 滴

ウッリール (Valyl, Valeriansäurediäthylamid) 膠囊入 0.125 1-2-3 個

樟腦ウッリドール (Validolum camphoratum) 10-15 滴

ヒステリー 性發作 (Hysterischer Anfall) ニ向テハ特別ナル手當ヲ加フル必要ナシ。時ニ一定ノ皮膚刺戟ヲ加フル事ニヨリテ發作ヲ誘發シ或ハ鎮靜セシメ得ル事アリ。「クロロフォルム」，纈草劑ノ嗅込ハ偉效ヲ奏スル事アリ。

ヒステリー 性麻痺 (Hysterische Lähmung) 暗示療法ヲ主トシテ電氣療法，按摩術ヲ施ス。「ヒステリー」性聲帶麻痺ニ對シテハ喉頭ニ指壓ヲ加ヘツ、發聲スル事ヲ勉メシムレバ突如治癒スル事アリ。

筋痛 (Myalgie) 及**乳房痛** (Mastdynie) ニ向テハ溫浴，電氣療法，按摩術ヲ施シ且塗布劑等ヲ應用スルモ，是等ハ一般療法ノ效果ト共ニ漸次良好トナルヲ普通トス。

1 臭那 2.0

ウッリドール 1.0

莨菪越幾斯 0.04

單舎 8.0

水 100.0

右 1 日量，3 回分服

2 臭素加里 3.0

アンチピリン 1.0

纈草丁幾 1.0

單舎 7.0

水 100.0

右 1 日量，3 回分服

3 クロロフォルム

樟腦油 各等量

右塗布料，1 日 2-3 回

4 ザリット 10

クロロフォルム 5

オリーブ油 10

右局處塗布料

5 莨菪丁幾 5.0

エーテル 5.0

苦扁桃水 20.0

右局處塗布料

6 莨菪硬膏

右局處貼布料

知覺脫失 (Anästhesie) ハ感電氣療法ニヨリテ恢復セシメ得ル事多シ。不眠，心機亢進，生殖機能異常等ニ就テハ神經衰弱症ヲ參照スベシ。

外傷性神経症 (Traumatische Neurose) 「ヒステリー」ニ準ジテ治療スベシ。

職業性神経症 (Beschäftigungsneurose) ノ治療ハ困難ナリトス。業務ヲ休止セシメ、按摩、體操、平流電氣療法等ヲ行フ。後期ニ及ビテハ再ビ徐々ニ練習療法ヲ行フ事ニヨリテ、漸次従前ノ職業ニ就カシム。練習ノ際、例之書痙 (Schreibkrampf) 等ノ際ニハ筆ニ相當ノ重リヲ附スル等多少ノ考察ヲ必要トスル事アルヤ論ナシ。

月經異常 Menstruationsanomalien.

I. 月經困難 (Dysmenorrhoe) 多クハ婦人生殖器疾患ニ因スル事多ク、其原因ヲ明カニシテ、之ヲ除去スル事ヲ第一義トスベク、對照的療法トシテ諸種ノ藥劑ノ内服及注射ニハ偉効ナキ事多シ。尤モ純神經性ノモノニシテ、生殖器疾患ヲ伴ハザルモノニアリテハ腹部ノ温包、坐浴ヲ命ジ、「ザリチール」酸製劑、臭素劑、纈草劑ノ内服ニヨリテ治療ス。時ニ「モルヒ子」劑ノ必要アル事アリ。阿片劑及莨菪劑ノ坐藥ヨク奏効ス。「アトロピン」療法ハ硫酸「アトロピン」0.0005-0.001ヲ坐藥1個トナシ、1日2個ヲ應用ス。或ハ0.00075ヲ皮下注射ニ用フ。一般ニ内生殖器疾患、月經時又ハ月經前後ニ於ケル頭痛ニハ「アトロピン」劑善ク奏効スルコトアリ。「アドレナリン」療法ニ於テハ1000倍溶液ヲ殺菌食鹽水ニテ10倍ニウスメ、其1.0-5.0 珎即 0.0001-0.0005ヲ皮下ニ注射ス。

脊髓硬膜外注射ニハ「ノゾカイン」0.15、「ズブラレニン」0.000325ニ生理的食鹽水ヲ加ヘテ30珎トナシ、殺菌ノ上、其20珎ヲ注入ス。術後2-3時間ハ安靜ナラシムルヲ可トス。「カルチウム」療法、1-2%鹽化「カルチウム」溶液110-

20珎ヲ肩胛部又ハ臀筋肉ニ毎日又ハ隔日ニ注射ス。靜脈内ニハ10%溶液10-20珎ヲ用フ。

腦下垂體製劑効アル事アリ。「ピツイトリン」1.0珎ヲ皮下ニ注射ス。要ニ應ジテ反覆ス。「セダンス」錠ハ毎回1錠、1日2-4回服用シ、液ハ2-4珎ヲ1回量トス。

II. 月經過多 (Menstruatio nimia, Menorrhagie) 婦人科的疾患以外壞血病、出血性紫斑病、血友病、急性傳染病、慢性腎臟炎、心臟病等ニ出現スル事アリ。

サレバ治療ハ其原因ヲ顧慮シテ行ハザルベカラザルモ、對症的ニハ安靜ヲ命ジ、腔冷洗滌ヲ施シ、止血劑ヲ處ス。急救ノ場合ニハ注射ニヨル。

1 麥角浸	(4.0) 100
稀鹽酸	1.0
苦丁	1.0
單舍	7.0
右1日量, 3回分服	
2 エルゴチン	2.0
單舍	10.0
水	100.0
右1日量, 3回分服	
3 セカコルニン	1.5
單舍	8.0
水	100.0
右1日量, 3回分服	
4 麥角越幾斯	1.0
單舍	5.0
水	100.0
右1日量, 3回分服	

- 1 セカコルニン 0.3-1.0
右一回皮下注射料, 要ニ應ジテ反覆ス. 時ニ 0.3-0.5 ヲ靜脈内ニ注入ス
- 2 エルゴチン・ボムベロン 0.2-1.0
右一回皮下注射料
- 3 鹽酸ヒドラスチニン錠 3-4 個
右一日 3-4 回ニ分服
- 4 滅菌麥角越幾斯 0.5-1.0
右一回皮下注射料
- 5 流動ヒドラスチス越幾斯 20-30
右頓服料, 一日 3 回
- 6 ピツイトリン 1.0
右皮下注射料, 或ハ 0.5 兎靜脈内注射
- 7 生理的食鹽水 500-1000
右皮下注射料, 時ニ 1% 鹽化「アドレナリン」0.5-1.0, 又ハ「ピツイトリン」1.0 兎ヲ加フ
- 8 乳酸カルチウム 3.0
ゲラチン 7.0
單舎 8.0
水 150.0
右一日量, 數回ニ分服(用時加温)
- 9 20% ゲラチン 100
右一回注腸料
- 10 鹽酸キニー子 0.5
50% 酒精 1000.0
右腔洗滌料, 3 日目ニ一回施行
- ・正常月經ト認ムベキモ過多ニ苦ムモノニ向テ時ニ卵巢製劑, 甲狀腺製劑, 腦下垂體製劑其他ヲ用フル事アリ. スル

場合ニハ月經前約 1 週間ヨリ始メ月經中服用セシムルヲ例トス.

シストメンジン (Sistomensin „Ciba”)

卵黃體製劑 (Corpus luteum-Opton „Merck”)

甲狀腺錠 (Schilddrüsentablett)

沃度チリン(チレオヨヂジ) (Jodothylin od. Thyreoiodin)

ピツイトリン (Pituitrin)

ピツグランドール (Pituglandol)

グランヅイトリン (Glanduitrin)

ヒポフィジン (Hypophysin)

アドレナリン (Adrenalin)

III. 月經閉止 (Amenorrhoe) 女子生殖器發育異常ニ基ク者ノ外, 一般疾病ニシテ月經閉止ヲ來ス事アルハ, 榮養乃至新陳代謝障礙ノ高度ナル場合ニシテ萎黃病, 貧血病, 脂肪病, 糖尿病, 結核等ニ於テハ往々見ル所ナリトス.

サレバ是等ノ場合ニ於ケル無月經ノ療法ハ局處的ノモノナラズシテ其原因タル疾病ニ向テ行ハザルベカラズ. 例之貧血ニ因スルモノニアリテハ亞砒酸, 鐵劑等ノ補血強壯劑等ノ投與ニヨリテ貧血ノ恢復スルニ隨ヒテ再び通經スルガ如シ. 卵巢機能ガ卵巢除去ノタメ或ハ其他ノ事由ノタメ全ク或ハ甚シク障礙ヲ蒙リタル場合ニ見ル所ノ所謂卵巢機能脱落症狀ニ對シテハ卵巢製劑, 「オヴラーテン」一日 3 錠 (Ovaraden-Triferrin, Knoll), 「アゴメンジン」 (Agomensin, Ciba), 新ボルニヴァール (Neo-Bornyval, Riedl), オヴリイイン 8-12 錠 (Ovariin), ベール氏オヴリイン (Ovarin nach Poehl) 等有效ナル事アリ. 脂肪病ニ因スル無月經ニハ腦下垂體製劑ノ注射效アル事アリトイフ.

精神衰弱症 Psychasthenie.

造構異常ヲ有スル者ニ發スル事多ク、頑固ニシテ治癒スル事難シ。時ニ治療上精神病學者トノ提携ヲ必要トスル事アリ。

本病ノ治療ハ大體ニ於テ神經衰弱症、「ヒステリー」ニ準ジテ行ハル、所ナリト雖モ、特ニ精神的療法、理學的療法、(水治療法、電氣療法等)ヲ注意シテ行フベク、時ニ轉地療法效果アルコトアリ。藥劑トシテハ臭素劑、纈草劑等ノ外問題トナルハ阿片療法ナリトス。

中毒

Vergiftungen.

中毒ノ一般的處置 Allgemeine Behandlung der Vergiftungen.

急性中毒 (Akute Vergiftung) ハ突發スルモノナルガ故ニ常ニ應急ノ處置ヲナシ得ル様ノ準備ヲ要ス。

慢性中毒 (Chronische Vergiftung) ハ豫防ヲ第一義トナス。中毒ノ療法ハ次ノ三方法ヲ主眼トシテ行フ。

I. 排泄的療法 (Evakuirene Therapie) 體內ヨリ毒素ノ除去ニ勉ムル療法ニシテ、種々ノ方法ヲ講ズ。

1. **胃洗滌** (Magenspülung) 經口的攝取ニヨル毒素ニシテ、毒素猶胃中ニ殘遺スト思惟スル時ニハ胃内容ノ排泄ヲ行フベキハ勿論、皮下注射ニヨルガ如キ中毒ノ際ニモ「モルヒチ」、金屬鹽等ノ大部分ハ胃腸ニ分泌セラレ、次テ再ビ吸收セラレ中毒作用ヲ惹起スルモノナルガ故ニ、斯ル場合ニモ機宜ニ應ジテ胃内容ノ排泄ヲ試ムベク、先ヅ胃洗滌ヲ行フ。胃洗滌ノ效ハ多クノ場合吐劑ニ優ル。胃洗滌ノ目的ニハ軟キ胃消息子ヲ用フ。牙關緊急アルモノニハ開口器ヲ用ヒ、或ハ細キ消息子ヲ鼻腔ヲ通ジテ插入ス。洗滌液トシテハ微温水ヲ用フルモ可ナレド、必要ニ應ジテハ之ニ護謨漿或ハ「ザレップ」煎等ノ植物性粘液ヲ加ヘ、或ハ牛乳、蛋白水ヲ加ヘ、或ハ石鹼水、石灰乳、「チトロソ」水、醋水、丹寧酸液、過滿俺酸加里液等ヲ加フ。時ニ胃洗滌後下劑トシテ胃消息子ヲ通

シテ蓖麻子油、硫苦液等ノ相當量ヲ送入スル事アリ。腐蝕性毒物ノ時胃洗滌ヲ行フニハ注意ヲ要ス。場合ニヨリテハ禁忌トス。

2. 吐劑 (Brechmitteln) 胃消息子ノ使用不可能ナル時ニ問題トナルハ吐劑ナリトス。意識アルモノハ大量ノ微温水、微温食鹽水、石鹼ヲ混シタル牛乳、卵白水等ヲ飲用セシメタル後咽頭ヲ刺戟シテ嘔吐ヲ催サシメ得ルモ或ハ吐劑ヲ内服セシム。

1) 吐根末	1.5-2.0
吐酒石	0.1-0.2
水	100.0
右混和, 10-15 分毎ニ 1 茶匙宛 奏效迄服用	
2) 吐根末	0.5-0.8
吐酒石	0.03
乳糖	0.5
右 1 包料, 毎 15 分時 1 包宛	

- 1) Pulv. Rad. Ipecacuanhae 1.5-2.0
Tartari stibiati 0.1-0.2
Aq. 100.0
M.D.S. $\frac{1}{6}$ - $\frac{1}{4}$ stündlich I Teelöffel bis zur Wirkung.
- 2) Pulv. Rad. Ipecac. 0.5-0.8
Tartari stibiati 0.03
Sacchari lact. 0.5
M.f. pulv. No. I. S. $\frac{1}{4}$ stündlich I Pulver.

1) 硫酸銅	1.0
單舎	10.0
水加	100.0
右混和, 10 分毎ニ 1 食匙宛奏效迄服用	
2) 硫酸亞鉛	0.5
水	50.0
右混和, 10 分毎ニ 1 茶匙宛奏效迄服用	
3) 硫酸銅	0.5-1.0
單舎	20
水	40
右 5-10 分毎ニ 1 茶匙宛奏效迄服用	
4) 吐酒石	0.05
吐根末	1.0

右爲 3 包, $\frac{1}{4}$ 時間毎ニ分服, 奏效迄

無意識ノモノニハ鹽酸「アポモルヒ子」ヲ皮下ニ注射スルノ外ナキモ、吐物ノ氣管ニ入ラザル様注意スベシ。本溶液ハ極メテ變化シ易キガ故ニ注意シテ褐色變ニ貯フルヲ要ス。「アポモルヒ子」錠モ亦發賣應用セラル。腐蝕性毒物ノタメ腐蝕作用アル時ニハ「アポモルヒ子」ノ使用ヲサクベシ。

- 1) Cupri sulfurici 1.0
S. s. 10.0
Aq. ad. 100.0
D.S. $\frac{1}{6}$ stündlich I Eßlöffel bis zur Wirkung.
- 2) Zinc. sulfuric. 0.5
Aq. 50.0
D.S. $\frac{1}{6}$ stündlich I Teelöffel bis zur Wirkung.

■ 鹽酸アポモルヒ子	0.1
蒸留水	10.0

右爲皮下注射料, $\frac{1}{3}$ -1.0 兪

3. 下劑 (Abführmitteln) 腸方面ヨリモ可成的排出セシムル意味ニ於テ下劑ヲ投與スルコトアレドモ, 常ニ慎重ナル注意ノモトニ行フベシ. 卽毒物既ニ腸ニ入りタル時ニ始メテ下劑ヲ與フベシ. 寧ロ腸洗劑ヲ行フヲ可トス. 下劑トシテハ, 「カンタリヂン」, 綿馬越幾斯中毒等ノ際ニハ蓖麻子油ヲ用フベカラズ. コレ上記ノモノハ蓖麻子油ニ溶解スルモノナレバナリ.

4. 利尿劑 (Diuretische Mitteln) 腎機能ヲ刺戟シテ毒素ノ急速ナル排泄ヲ企圖スル事ハ合理的ナリ. 殊ニ毒物が主トシテ腎臟ヨリ排泄セラル・モノナル場合ニ於テ然リトス. 炭酸水, 「セルテル」水, 牛乳等ノ飲料ヲ與ヘ, 或ハ時ニ食鹽水注射ヲ行フ事アレドモ, 多クハ既ニ存在スル腎臟障碍ノタメニ目的ヲ達シ能ハザル事多シ.

5. 瀉血 (Aderlass) 血液毒殊ニ「アニリン」, 「ニトロベンツオール」, 酸化炭素中毒等ノ際ニハ瀉血ニヨリテ 150-400 兪ヲ排泄シ, 次テ生理的食鹽水又ハリッゲル氏液ヲ注入ス. 輸血モ亦問題トナリ得ル事アルベシ.

II. 解毒的療法 (Antidotatorische Therapie) 毒素作用ヲ可成的體內ニ於テ無効ニセント勉ムル療法ニシテ, 中毒ノ特殊療法トモ見ラルベク, 解毒劑(拮抗劑) (Antidota, Gegenmittel) ヲ與フ. コレニ二種アリ.

1) Apomorph. hydrochloric.	0.1
Aquae destillatae	10.0
S. Zur subkutanen Injektion; $\frac{1}{3}$ -1.0 ccm.	

1. 化學的解毒劑 (Chemische Gegenmitteln) 其效果ハ目的ニ適フ事少ナキガ故ニ, 同時ニ或ハ直後ニ胃又ハ胃洗滌ヲ行フ事ヲ忘ルベカラズ. 解毒劑トシテ酸中毒ニハ弱「アルカリ」, 「アルカリ」中毒ニハ弱酸ヲ與ヘ, 「アルカロイド」中毒ニハ丹寧酸 (5.0 瓦ヲ 1 立ニトカス) 又ハ過滿俺酸加里溶液 (1.0-2.0 瓦ヲ 1 立ノ水ニ溶解ス) ヲ以テ胃洗滌ヲ行フヲ通則トス.

2. 生理的解毒劑 (Physiologische Gegenmitteln) 是卽特殊拮抗劑 (Eigentliche Gegenmitteln) ト稱シ得ルモノニシテ, 多クハ神經毒ノ作用時ニ用フ. 例之「ストリキニー子」ニ對スル抱水「クロラール」, 「ムスカリン」ニ對スル「アトロピン」, 「モルヒ子」ニ對スル「アトロピン」ノ如シ. 然レドモ其效果ハ亢進セル興奮性ヲ降下セシムル程度ノモノニシテ, 麻痺作用ヲ興奮劑ニヨリテ阻止スルガ如キハ蓋シ難事ニ屬ス.

III. 對症療法 (Symptomatische Therapie) 急性中毒ノ際ニハ對症療法ノ問題トナルコト多ク, 心カヲ維持セシメ, 呼吸障碍ヲ排シ, 以テ毒素ガ體內ヨリ遠サカル機會ヲ長カラシム.

1. 虚脱 (Kollaps) 麻痺劑中毒ニテハ體温下降ノタメニ虚脱ヲ來スガ故ニ, 先ヅ温熱ヲ與フベク, 熱キ茶, 珈琲等ヲ内服セシムル事ハ, 「カフェイン」及芳香性物質ヲ含有スルコトニヨリテ心筋ヲモ刺戟スル事ニ於テ利益アリ. 意識ナキモノニハ「カンフル」, 「エーテル」, 「ストリキニー子」, 「アドレナリン」皮下注射, 「ヂカレーン」, 「ストロファンツス」靜脈内注射等ヲ行フ. 患者ノ温包, 四肢ノ摩擦, 湯「タンボ」, 酒性飲料等モ適宜試ミテ可ナリ.

2. 呼吸障碍 (Atembeschwerde) 胸部摩擦, 横隔膜神経ノ電氣刺戟, 酸素吸入, 人工呼吸ヲ行フ。化學的藥劑トシテ特效アルモノナキモ, 中絶セル呼吸ヲ刺戟スルモノトシテ次法ヲ用フ。

■ 硫酸アトロピン	0.01
蒸留水	10.0

右皮下注射料, 1.0 并或ハ反覆ス

硫酸「アトロピン」注射ハ「モルヒネ」中毒ノ際ノミナラズ, 他ノ麻痺性及麻酔性毒素ノ場合ニモ一度ビハ試ムベキ事ナリトス。時ニ喉頭插管法, 氣管切開術ノ必要アル事アリ。

3. 失神 (Bewußtlosigkeit) 心臓又ハ呼吸障碍, 大脳毒素ノ直接作用等ニ因スルモノニシテ, 強烈ナル皮膚刺戟 (冷水灌注, 摩擦, 芥子泥)ヲ應用スル外, 「カンフル」, 「カフェイン」等ノ注射ヲ行ヒ且醋水, 火酒注腸等ヲ行フ事アリ。

4. 痙攣及興奮状態 (Krämpfe u. Erregungszustände) 腸痙攣, 裏急後重, ニハ「モルヒネ」又ハ「パントボン」注射ヲ行フ。「パントボン」ハ呼吸ニ對シテハ「モルヒネ」ヨリ危険少シトセラル。酩酊狀興奮状態ニハ「アトロピン」ハ禁忌ニシテ「モルヒネ」, 抱水「クロラール」, 「クロロフォルム」等ヲ應用ス。痙攣ニハ「モルヒネ」, 抱水「クロラール」ヲ内服, 注腸トシテ用フ。「クロロフォルム」吸入ハ最後手段トスベシ。

5. 嘔吐 (Erbrechen) 嘔吐ガ胃洗滌後ニモ猶繼續スル時ニハ冰片ヲ嚥下セシメ, 鹽酸「コカイン」ヲ内服セシムルモ, 最後手段ハ「モルヒネ」注射ナリトス。

1) Atropin. sulfuric.	0.01
Aq. destillatae	10.0
S. Zur subkutanen Injektion.	

6. 腐蝕 (Verätzung) 口腔, 咽頭等ノ腐蝕部位ニハ牛乳又ハ卵白水 (2 個ノ卵白及 2 茶匙ノ砂糖ヲ 500 ノ微温水ニ混ズ), 粘液性飲料, 重湯葛湯等ヲ與フ。

急性中毒特殊療法 Spezifische Therapie der akuten Vergiftungen.

I. 無機毒及金屬 (Anorganische Gifte u. Metalle)

1. 酸類 (硫, 硝, 鹽酸) (Säuren):

多量ノ蛋白水—卵白, 牛乳, 白堊, 5-10% 燻性「マグネシウム」牛乳液, 石鹼水, 石灰水 (生石灰 1 分ニ水 10 分ヲ混和ス)。粘液性飲料—「ザレップ」煎 (2.0) 100, 10% 亞拉比亞護膜漿, 葛湯, 糊, 寒天等ヲ與フ。脂肪, 「バタ」, 油類ニモ一定ノ效果アリ。聲門水腫ニハ冰片ノ嚥下, 冰電法ヲ行フ。必要ニ應ジテハ搔破又ハ氣管切開術ヲ行フ。

2. アルカリ類及アルカリ土類 (Alkalien u. Erdalkalien) 飲下後 30 分時位ナラバ胃洗滌ヲ行フモ可ナリ。後期ニハ癒著防止ノタメ胃消息子ヲ用フ。稀醋, 2% 酒石酸, 1-2% 枸橼酸, 林檎汁, 粘液性飲料等ヲ與フ。

3. 昇汞 (Sublimat):

多量ノ牛乳, 卵白ヲ與ヘ又次亞硫酸曹達 (35:500), 稀釋硫化水素水 (1:4), 鐵粉, 硫酸鐵等ヲ與フ。胃洗滌ヲ行フニハ注意ヲ要ス。下劑ヲ處スルモ可ナリ。食鹽ハ使用セズ, コレ水銀劑ノ吸收率ヲ高ムルガ故ナリ。慢性中毒ニハ溫浴, 硫黃浴, 沃度内服ヲ行フ。

4. 硝酸銀 (Argentum nitricum):

食鹽水 (10-20:1000) ニテ胃洗滌ヲ行フ或ハ之ヲ服用セシ

ム。沃度加里又ハ沃度「ナトリウム」(5-10:500), 粘液性飲料ヲ與フ。突嗟ノ場合ニハ牛乳, 卵白等モ亦問題トナル事多シ。之ニ食鹽ヲ加フレバ更ニ妙ナリ。

5. 礬(猫イラズ) (Phosphorverbindung):

吐劑トシテ硫酸銅ヲ與フ

1) 硫酸銅	1.0
單舎	10.0
水	100.0

右混和, 10-15分毎ニ1茶匙宛奏效迄服用

胃洗滌ニハ0.2-0.3% 過滿俺酸加里溶液, 1-3% 過酸化水素水ヲ用フ。或ハ内服セシムルモ可ナリ。内服藥トシテハ多量ノ「アルカリ」水ヲ與フル外次方ヲ用フ。

2) テレピン油	1.0-2.0
----------	---------

右膠囊ニ入レ頓服料, 1日數回服用。「テレピン」油ハ古キ程可ナリ。

2) Ol. Terebinth.	1.0-2.0
D.S. Mehrmals tägl. in Kapseln.	

1) テレピン油	5.0
卵白	2-5個
單舎	30.0
水	200.0

右混和, 始メハ半時間毎ニ, 後ニハ1時間或ハ2時間毎ニ1食匙宛與フ

2) テレピン油	
再餾酒精	各6.0
エーテル	1.0

右1時間毎ニ20-50滴ヲ與フ。

容態ニ應ジ瀉血ヲ行ヒタル後 $\frac{3}{4}$ %食鹽水ヲ皮下, 靜脈或ハ注腸トシテ用フ。

脂肪, 牛乳, 卵黄, 蓖麻子油等ハ用フベカラズ。

6. クローム化合物 (Chromverbindung):

重「クローム」酸, 「クローム」酸中毒ヲ主トス。1-3% 重曹水ニテ胃洗滌ヲ行ナヒ, 水酸化鐵, 含糖石灰, 炭酸「マグネシア」等ヲ1刀尖宛内服セシム, 或ハ2-5% 次亞硫酸曹達ノ内服又ハ注射, 醋酸鉛(1回0.05), 粘液性飲料, 牛乳, 蛋白水ヲ與フ。

1) Ol. Terebinth.	5.0
Eierweiss.	II-V Stücke.
S. s.	30.0
Aq.	200.0
M.D.S. Anfangs $\frac{1}{2}$ stündlich, später 1-2 stündlich I Esslöffel.	
2) Ol. Terebinth	
Spirit. vini rectificat.	āā 6.0
Aetheris	1.0
S. Stündlich 20-50 Tropfen in Hafelschleim.	

7. 鉛化合物 (Bleiverbindung):

急性鉛中毒ハ少ナシ, 時ニ鉛糖 (Bleizucker) ニヨリテ起ル。吐劑(アポモルヒ子)ヲ用ヒ, 胃洗滌ニハ次方ヲ用フ。下劑トシテハ緩下劑ヲ投ズ。

1 硫酸ナトリウム又ハ

硫酸マグネシウム	1 食匙
水	1 立

右胃洗滌料

内服ニハ 10% 硫酸「ナトリウム」又ハ「マグネシウム」溶液, 「カルルス」泉鹽, 硫酸「リモナーテ」ヲ與ヘ, 救急ニハ牛乳, 蛋白水ヲ與フ。吸收セラレタル鉛ノ排泄ニ向テ, 沃度加里(2-4)内服亦行ハル。腸痙攣ニハ下方ヲ用フ。

2 硫酸モルヒ子	0.1
硫酸アトロピン	0.01
蒸留水	10.0

右爲注射料, 1.0 珪皮下注射

慢性鉛中毒ニ向テハ豫防ヲ第一義トス。工場ニアリテハ職工ノ清潔ニ留意スベク, 殊ニ飲食ニ際シテハ手指ノ洗滌ヲ嚴行セシムベシ。一般ニ工場内ニ於テハ飲食, 喫煙ヲ禁ズルヲ可トス。常ニ多量ノ白粉ヲ使用スル職業ニアル者ニハ無鉛白粉ヲ使用セシムベシ。

- 1) Natr. (Magn.) sulfuric. I Eßlöffel
Aq. I Litre
S. Zum Magenspülen.
- 2) Morphin. sulfuric. 0.1
Atropin. sulfuric. 0.01
Aq. destillatae 10.0
S. Zur subkutanen Injektion.

中毒症狀出現セバ有害因子トノ接觸ヲサケシメ, 身體ニ附著スル鉛分ハ硫黃浴 (Schwefelbad) ヲ命ズルカ或ハ硫化「アムモニウム」液 (Schwefelammonium) ヲ塗布シテ無害ナラシム。或ハ此溶液ニテ濕潤セシメタル「ガーセ」ヲオキ, コレニ平流電氣ノ陽極ヲ置キテ通電スレバ硫化「アンモニウム」ハ深部ニ入り, 鉛ト化合シテ之ヲ無毒トナス。

硫黃浴ハ硫化「カリウム」(Kalium sulfuratum) ヲ適當ニ混ジテコレヲ作り, 硫化「アンモニウム」ハ 200 珪ノ「アムモニア」水ニ硫化水素瓦斯ヲ通ジテ飽和セシメ, コレヲ 133 珪ノ「アムモニア」水ヲ以テ稀釋シ, 密栓罐中ニ貯藏スベシ。

内服藥トシテハ沃度劑ヲ用フ。鉛痙攣ニ對シテハ阿片丁幾(1日數回 10-15 滴宛)又ハ「モルヒ子」皮下注射ヲ行フ。後ニハ灌腸ヲ施スカ或ハ次方ヲ推賞スル人アリ。

1 蓖麻子油	40.0
亞拉亞護謨末	12.0
單舎	20.0
水ヲ加ヘテ	100.0

右混和, 2 時間毎ニ 1 食匙

鉛毒性麻痺 (Bleilähmung) ニ對シテハ按摩術, 電氣療法, 水治療法等ヲ施行ス。貧血ニ向ツテハ其療法ヲ行フ。一般ニ後療法トシテハ溫泉療法有效ナリ。

8. 鹽(素)酸里加 (Kalium chloricum):

- 1) Ol. Ricini 40.0
Gummi arab. pulv. 12.0
S. s. 20.0
Aq. ad. 100.0
M.f. emulsio D.S. 2 stündlich I Eßlöffelweise.

吐劑, 胃洗, 下劑, 利尿劑ヲ與フ。時ニ瀉血後 $\frac{3}{4}\%$ 食鹽水ヲ皮下, 靜脈又ハ注腸トシテ用フ。又鹽酸「ピロカルピン」(0.01-0.02)ノ皮下注射ヲ行フ。

9. 砒素 (Arsenverbindung):

先ヅ脂肪, 牛酪, 豚脂等ヲ與ヘ, 胃洗ヲ施行ス。吐劑トシテハ硫酸亞鉛, 吐根 (1.0 瓦ヲ 10 分毎ニ奏效迄), 「アポモルビ子」ヲ與フ。吐酒石ヲ與フベカラズ。

砒素解毒劑トシテハ

■ 硫酸酸化鐵	100
水	250
■ 煨性マグネシア	15
水	250

上記ノ二液ヲ混合シタル液體ヲ毎 15-30 分毎ニ 1 食匙宛内服セシム。

■ 煨性マグネシア	75
水	500

右混和, 15-30 分毎ニ 3-6 食匙宛服用

含糖酸化鐵液モ亦同様ニ用ヒラル。下痢ハ強烈ナラザル限リ放置シテ可ナリ。殊ニ止瀉劑トシテハ阿片ヲ與フルハ不可ナリ。時ニ高位灌腸ヲ行フ。之ニヨリテ排泄促進セラレ且疼痛ニモ奏效ス。

10. 銅化合物 (Kupferverbindung):

1% 黃血鹽 (Ferrocyanium) 溶液ニテ胃洗滌ヲ行ヒ或ハ 1 食匙宛内服セシム。内服ニハ不敢取多量ノ牛乳, 卵白ヲ與フ。或ハ煨性「マグネシア」, 獸炭, 鐵粉ノ 1 刀尖宛ヲ牛乳ニ加フ。

■ 煨性マグネシア	5.0
水	100.0

右頓服料, 反覆ス

■ 煨性マグネシア	4.0
卵白水	20.0
水	80.0

右混和, 5 分毎ニ 2 食匙宛

■ 鐵粉	14.0
硫黃華	8.0
單舍	60.0

右混和, 5 分毎ニ 1 食匙宛

■ 還元鐵	1.0
煨性マグネシア	1.0
單舍	20.0

右混和, 5 分毎ニ 1 食匙宛

脂肪, 油類(蓖麻子油)ノ内服ハサクベシ。

11. 亞鉛化合物 (Zinkverbindung):

丹寧酸又ハ磷酸「ナトリウム」溶液ヲ以テ胃洗滌ヲ行ナヒ, 牛乳, 蛋白ヲ與ヘ, 「グリツェリン」ノ灌腸ヲ行フ。

12. バリウム化合物 (Baryumverbindung):

10% 硫苦水又ハ硫膏水ニテ胃洗滌ヲ行ナヒ且内服セシメ, 人工呼吸ヲ行フ。

■ 硫酸ナトリウム	20-30
水	150-200

右混和, 數回ニ分服

2) Ferri pulverati	14.0
Sulfur. sublimati	8.0
S. s.	60.0
M.D.S. Alle 5 Minuten I Esslöffel.	
4) Natr. sulfur.	20-30
Aq.	100-200
Aq. Auf mehrmals tägl.	

13. 吐酒石 (Brechweinstein, Antimon):

0.5-1.0% 丹寧酸溶液ニテ胃洗滌ヲ行ヒ且 3-4% 丹寧酸溶液ヲ 1 食匙宛内服セシムル外, 粘液性飲料, 牛乳, 蛋白水, 冰片等ヲ與フ. 疼痛ニ「モルヒネ」又ハ「アトロピン」劑ヲ缺ク事能ハズ. 「ストリキニーネ」ノ注射賞用セラル.

① 規那皮煎	20-30
水ヲ加ヘテ	200
右數同ニ分服	

14. 沃度及其鹽類 (Jod u. Jodsalze):

沃度丁幾, 沃度「フォルム」中毒等ニハ穀粉液, 澱粉液, 蛋白水, 曹達水, 醋割水, 次亞硫酸曹達溶液(2-5%), 煨性「マグネシア」ヲ與ヘ, 胃洗ニハ 1-3% 重曹水, 2-5% 次亞硫酸曹達水ヲ用フ. 下劑トシテハ鹽酸下劑ヲ用フルト同時ニ灌腸ス. 最モ胃腸炎アルモノニハ冰片及阿片劑ヲ處ス. 創面ヨリ沃度「フォルム」ヲ除去シ, 煨性「マグネシア」其他ノ撒布劑ヲ撒布スル事モ亦忘ルベカラズ. 沃度吸入中毒者ハ新鮮空氣ノモトニオキ, 水蒸氣又ハ「アンモニア」蒸氣ヲ吸入セシメ, 呼吸困難ニハ麻酔劑ヲ與フ.

慢性中毒症 (Jodismus) ニ向テエーレルヒ氏ハ「スルフェニール」酸 (5% 液) ヲ用フ. 「ホーレル」水, 「キニーネ」等モ亦推賞セラル.

② 次亞硫酸曹達	10-20
水	200
右 10 分間ニ 1 食匙	

15. 臭素及其鹽類 (Brom u. Bromsalze):

吸入中毒ハ沃度ノ場合ニ同シ. 内服中毒ニハ胃洗, 澱粉糊 (澱粉 1 分ニ水或ハ牛乳 10-20 分ヲ混ジテ煮沸ス), 牛乳, 蛋白, 「アルカリ」性飲料ヲ與フ.

16. 鹽素 (Chlor):

吸入中毒ノ場合ニ於テハ沃度, 臭素ノ場合ニ同シ.

内服中毒ノ場合ニハ亞硫酸「ナトリウム」又ハ「マグネシウム」 1 刀尖宛ヲ牛乳ニ混ジテ與フ. 或ハ蛋白水ヲ處シタル後胃洗滌ヲ行フ. 或ハ吐劑ヲ用フ.

17. 硝酸カリウム (Kalium nitricum):

胃洗滌, 下劑ヲ與フ.

18. 炭酸カリウム (Kalium carbonicum):

「アルカリ」中毒ノ場合ニ準ジテ治療ス.

19. 酸化炭素 (Kohlenoxyd):

燈用瓦斯, 炭酸瓦斯, 溝渠瓦斯等ノ中毒者ハ新鮮ナル空氣ノ下ニ置テ, 皮膚ヲ刺戟シ, 頭部冷水灌注, 冰水注腸, 興奮劑ヲ與ヘ, 酸素吸入, 人工呼吸ヲ行フ.

瀉血ヲ行ナヒ 150-400 珪ノ血液ヲ除去シタル後, 3/4% 食鹽水ヲ皮下, 靜脈, 或ハ注腸トシテ用フ. 「ニトログリツェリン」ヲ用フル事ヲ推賞スル人アリ, 即 1% 酒精溶液或ハ油溶液ノ 2-10 滴ヲ糖水ニ混ジテ服用セシメ或ハ鐵劑 1 個 (0.0005) ヲ用フ. 横隔膜神經ニ感電電氣ヲ通ズル人アリ.

20. 亞硝酸及亞硫酸 (Salpetrige u. Schweflige Säure):

新鮮空氣ヲ送り, 注意シツ、「アムモニア」ヲ吸入セシメ, 麻酔藥, 興奮劑ヲ處シ, 人工呼吸ヲ行フ.

II. 有機毒 (Organische Gifte):

1. 石炭酸 (Acidum carbolicum):

「リゾール」, 「クレオリン」, 「トリクレゾール」, 「クレオソート」, 「グワヤコール」等ノ中毒モ亦之ニ屬ス.

胃洗滌ニハ糖液及石灰各等分ノ合劑 1-2 食匙ヲ 1 立ノ水ニ溶解シタルモノヲ用フ. 或ハ本合劑ノ 1 刀尖ヲ水ニ溶解シ

テ内服セシム。3% 硫酸「ナトリウム」ヲ胃洗ニ用フ。内服ニハ大量ヲ處ス。

① 硫酸ナトリウム	15-30
臭素	10 滴
水	100

右内服、數回ニ分服

② 水酸化石灰	5.0
糖	15.0
水	50.0

右混和、5分毎ニ1食匙(糖化石灰水)

其他「マグネシア」乳、石灰水、粘液汁、卵白、蛋白水ヲ與フ。興奮劑トシテ酒性飲料ヲ與フ。下劑トシテハ鹽類下劑ヲ處ス。石炭酸ノ一部腸ニ入レル時ニハ腸洗滌ヲ行フ、即醋酸加里ヲ粘液體ニ混ジテ注腸スル事ハ腎臟刺戟ヲ避ケ且他方利尿ノ效アリ。吸收後ニハ次亞硫酸達ノ皮下注射ヲ行フ人アリ。

創傷面ヨリノ中毒ニハ、脈搏良好ナラバ瀉血後 1/4% 食鹽水ノ注射ヲ行フ事ハ有利ナル事多シ。

2. モルヒネ及阿片 (Morphium u. Opium) 硫酸「アトロピン」(0.001-0.002) ヲ少ナクモ 30 分間ノ間隔ヲ以テ、規則的呼吸ノ出現スル迄、皮下注射ヲ遂行スル事ニハ贊否兩道ノ説アレドモ、先ヅ試ムベキ處置ナリトス。同時ニ興奮

1) Natrii sulfuric.	15-30
Bromi	gtt X
Aq.	100.0
M.D.S. Mehrmals tägl.	
2) Calcii hydroxyd. (Kalk)	5
Sacchar.	15
Aq.	50
M.D.S. Alle 5 Minuten 1 Esslöffel (Calcaria saccharata).	

ヲ與ヘ(咖啡又ハ「カフェイン」劑注射)、皮膚刺戟、人工呼吸ヲ行フ。吐劑トシテ「アポモルヒ子」注射ヲ行フ。硫酸銅、吐酒石ハ用フベカラズ。

胃洗滌ニハ 0.5-1.0% 丹寧酸溶液又ハ 0.1% 過滿俺酸加里溶液、1-3% 過酸化水素水ヲ用フ。胃洗滌ハ皮下性中毒ノ際ニモ試ムベキモノナリトス。

内服ニ丹寧酸液或ハ其代用品、過酸化水素水、動物炭ヲ處スル事アリ。

硝酸「ストリキニー子」注射モ亦行ハル(0.002-0.0025 宛 15 分毎ニ皮下注射)時ニ過滿俺酸「カリウム」ヲ皮下注射トシテ使用スル事アリ。

慢性中毒症 (Morphinismus) ノ治療ハ患者及醫師ニ斷乎タル決心アリテ始メテ行ハルベク且入院ノ上ナラデハ實效ヲ舉ル事難シ。治療ノ眼目ハ「モルヒ子」使用ヲ中絶セシムル事ニ存ス。此際急劇ニ全ク「モルヒ子」ヲ中止セシムルカ或ハ少ナクモ數日間ニ全然中止セシムルカノ方針ニ出ヅベキモノナレドモ、禁忌現象等ノタメニ實行シ得ズシテ、漸次ニ減量シ行カザルベカラザル場合多シ。「モルヒ子」減量ノタメニ初期ニ起ル不快症狀、不眠等ハ暗示、精神誘導、入浴、鎮靜劑ニヨリテ治療スルノ方針ニ出ヅベシ。治療ニ際シテハ心力ニ注意スベシ。「モルヒ子」ヲ全ク除去シ得タル後ニ於テモ久時在院セシメテ監視セザレバ逆行スル事多シ、注意セザルベカラズ。

3. アトロピン (Atropin):

莨菪劑、「スコポラミン」、「ヒオスチアミン」等ノ中毒皆之ニ屬ス。

解毒劑トシテ興奮時ニ「モルヒ子」0.02-0.03 ヲ 1/2-1 時間毎ニ皮下ニ注射ス。

抱水「クロラール」モ亦此方面ニ利用セラル、即注腸トシテ用フ。

吐劑トシテハ「アボモルヒ子」ノ皮下注射ヲ行フ。胃洗滌ニハ0.5-1.0% 丹寧酸溶液又ハ0.1-0.5% 過満俺酸加里液ヲ用フ。同時ニ腸洗滌ヲ行フハ可ナレドモ、下劑ハ用ヒザルヲ可トス。

内服トシテハ丹寧酸(0.01-0.5ヲ1包トシ1日數包)又ハ其代用トシテ茶、咖啡等ヲ與フ。沃度加里ノ内用ヲ推賞スル人アリ。

1 沃度	0.2
沃度加里	2.0
水	300.0

右混和、5分毎ニ1食匙宛

瀉血及食鹽水注射ハ血管系統ノ激烈ナル興奮アル重症ニハ效アリ。「クロロフォルム」吸入亦應用セラル。此外次方モ亦應用セラル。

2 鹽酸ピロカルピン	0.1
蒸餾水	10.0

右爲注射料、1.0 珎宛皮下注射、口腔濕潤スル迄反覆ス。時ニ偉效ヲ奏スル事アリトイフ。

3 ザリチール酸フィゾスチグミン	0.01
蒸餾水	10.0

右爲注射料、 $\frac{1}{2}$ -1.0 珎皮下

2) Pilocarpini hydrochl.	0.1
Aq. dest.	10.0
D. S. Zur subkutanen Injektion; vierstündlich 1 Spritze bis zum Feuchtwerden des Mundes.	
3) Physostig. salicylic.	0.01
Aq. dest.	10.0
D. S. Zur subkutanen Injektion.	

昏睡ニ傾ク時ニハ酒性飲料、樟腦ヲ與ヘ、同時ニ皮膚刺戟、頭部冷水灌注、醋水灌腸等ヲ行フ。

4. 抱水クロラール (Chloralum hydratum):

胃洗滌、人工呼吸法、心臟按摩法、「アンモニア」吸入法、横隔膜神經ノ感電電氣通電法等ヲ行フ外、刺戟興奮劑トシテ、殊ニ「ザリチール」酸「ナトリウムカフ、イン」(0.2)ヲ屢ク皮下ニ注射ス。

心臟衰弱ニハ樟腦、硝酸「ストリキニー子」、(リーブライビ氏ハ0.005 珎用フ)「カフ、イン」劑、「エーテル」等ヲ交互ニ皮下ニ注射ス。然レドモ「ストリキニー子」ハ早期ニ使用セズシテ心臟、呼吸ニ危險逼レル時ニ應用スベシ。硫酸「アトロピン」注射モ亦試ミラル。時ニ瀉血後食鹽水注射ヲ行フ。内服トシテハ1-3% 過酸化水素水、莨菪丁幾ハ(2.0ヲ半時間内ニ與フ)ヲ用フ。下劑トシテハ鹽類下劑ヲ與フ。

5. スルフォナール (Sulfonal)

トリオナール (Trional)

ヴェロナール (Veronal)

アルデヒード (Aldehyd)

抱水アミレン (Amylenum hydratum)

ルミナール (Luminal)

以上藥劑ノ中毒ニ際シテモ其治療ハ抱水「クロラール」ノ場合ニ準ズベシ、即胃洗、注腸、鹽類下劑投與、「アムモニヤ」吸入、興奮劑、利尿劑、「ストリキニー子」、「カフ、イン」劑注射等ヲ行フ。胃洗ニハ微温水ヲ用フルヲ可トス。

6. 青酸 (Blausäure);

青酸加里 (Kalium cyanatum)、苦扁桃水 (Aqua Amygdalarum amararum) 中毒ノ際ニハ0.1-0.5% 過満俺酸加里液又ハ1.3% 過酸化水素水ヲ胃洗滌又ハ内服ニ供ス。5-10% 次亞硫

酸曹達溶液ヲ皮下ニ注射シ或ハ内服セシム、或ハ3% 過酸化水素ヲ1.0 珪宛皮下ニ注射シテ呼氣ニ青酸臭ナキニ至ルベキ事ヲ近時推賞ス。其他「アトロピン」皮下注射、興奮劑ノ投與、瀉血竝ニ食鹽水注入、人工呼吸法等ヲ行フ。吐劑ヲ與フル場合ニハ速效アル「アポモルヒ子」ヲ用フベシ。

7. 蓚酸及蓚酸鹽 (Acidum oxalicum u. Oxalate):

瀉血兼生理的食鹽水注射ヲ行フ。胃洗滌及吐劑ヲ避ケ、白堊(炭酸石灰)、石灰水、蛋白水、冰片、阿片、興奮劑等ノ外好ミテ用ヒラル、ハ次方ナリ。

① 炭酸石灰又ハ

煨性マグネシア	30
水	250

右混和、 $\frac{1}{3}$ 量頓服、約10分毎ニ1食匙宛服用

② 水酸化石灰

蔗糖	15.0
水	50.0

右混和、5分毎ニ1食匙宛服用

鹽化「カルチウム」ノ注射モ亦賞用セラル、皮下ニハ1% 溶液ヲ用ヒ、靜脈内ニハ3-5-10% 溶液ヲ用フ。時ニ卵殼末ヲ用フル事アリ。

8. ニトログリツェリン (Nitroglycerin) 瀉血竝ニ $\frac{3}{4}$ % 食鹽水注入ヲ行フ。胃洗滌、吐劑、鹽類下劑(硫苦)、灌腸ヲ行フ。「カフェイン」、 α -エーテル、 β -カンフル」等ノ興奮劑ノ外、人工呼吸法、酸素吸入ノ要アル事アリ。

9. ニトロベンツォール (Nitrobenzol, Nirbanöl)

ピロガロール (Pyrogallol)

ピクリン酸 (Pikrinsäure)

等ノ中毒ハ「ニトログリツェリン」中毒ニ準ジテ治療ス。

10. クロロフォルム (Chloroform):

新鮮空氣、人工呼吸、「アンモニヤ」吸入、横隔膜神經ニ感電電氣ヲ通ズ。心臟衰弱ニハ強心劑ヲ用フ。既ニ心臟ノ休止セル場合ニハ心臟按摩術ニ加フルニ、硝酸「ストリキニーネ」(0.002-0.003)ヲ注射シテ偉效ヲ奏スル事アリ。内服中毒ニハ胃洗滌、吐劑、灌腸、興奮劑ヲ施シ、人工呼吸ヲ行フ。

11. コカイン (Cocain):

精神興奮及痙攣ニハ「モルヒ子」皮下注射ヲ行フ。臭素劑モ亦試ミテ可ナリ。亞硝酸「アミール」1-5滴ヲ布片ニ滴下シテ吸入セシム。或ハ炭酸「アンモニウム」1刀尖ヲ水ニテ用フ。虚脱ニハ興奮劑(咖啡、「カンフル」)ヲ處シ、心臟部及胃部ニ芥子泥ヲ貼布シ、酸素吸入、人工呼吸ヲ行フ。内服中毒ノ際ニハ先ヅ0.5-1.0% 丹寧酸溶液又ハ其代用品ヲ内服セシメタル後、同液ニテ胃洗滌ヲ行フ。或ハ吐劑ヲ與フ。慢性コカイン中毒 (Cokainismus) ハ慢性「モルヒ子」中毒ニ準ジテ治療ス。此際急ニ全ク中絶セシムルモ危険ナキ事多シトセラル。

12. フォルマリン (Formalin):

多量ノ卵白ヲ與ヘ且胃洗滌ヲ行フ。「アムモニア」吸入又ハ「アムモニア」内服ヲ處ス。時ニ下劑ヲ處シ、多量ノ尿素ヲ與フ。

13. サントニン (Santonin):

吐劑、胃洗滌、下劑、灌腸ヲ施ス。痙攣ニハ抱水「クロラール」注腸又ハ「エーテル」或ハ「クロロフォルム」ノ吸入ヲ行フ。其他興奮劑、人工呼吸ノ要アリ。利尿劑マダ效アリ。

14. ストリキニーネ (Strychnin):

胃洗ニハ0.5-1.0% 丹寧酸溶液又ハ0.1-0.5% 過滿俺酸加

里溶液ヲ用フルモ、胃洗ハ嘔下直後ニノミ行フベク、後期ニハ此爲ニ痙攣ヲ誘發シテ不快ナリ。或ハ吐劑トシテ「アポモルヒ子」ヲ皮下ニ注射ス。内服トシテ 1-2% 丹寧酸液、4% 水酸化石灰溶液、或ハ次方ヲ與フ。

■ 沃度	0.1
沃度加里	0.5
水	200.0

右混和、5分毎ニ1食匙宛服用

痙攣ニ對シテハ抱水「クロラール」1.5-3.0瓦ヲ注腸シ、或ハ50%溶液トシテ、其1-2瓦ヲ皮下ニ注射ス。内服可能ナラバ1.0-3.0瓦ヲ内用セシム。時ニ「クロロフォルム」、「エーテル」麻醉ノ必要アリ。鎮靜劑トシテ臭素劑、「クラール」、「ウレタン」等ハ普通應用セズ。時ニ「モルヒ子」乃至阿片ハ使用セラル、事アリ。

瀉血後ニ食鹽水ヲ注入スル事ヲ推賞スル者アリ。

15. ピロカルピン (Pilocarpin):

丹寧酸又ハ過滿俺酸加里溶液ニテ胃洗滌ヲ行ナヒ、「アトロピン」ノ皮下注射ニ加フルニ興奮劑ヲ以テスベシ。

16. 冰醋酸 (Eisessig):

濃厚醋酸 (Konzentrierte Essigsäure) 中毒モ亦同様ニ治療スベシ。即石鹼水、煨性「マグネシア」ヲ與ヘ且冰片、興奮劑ヲ處ス。

17. アンチフェブリン (Antifebrin):

胃洗滌、吐劑、下劑(硫苦ヲ用ヒ、油劑ヲ禁ズ)。興奮劑ヲ用フ。酒性飲料ハ禁ズベシ。

アニリン (Anilin) 中毒ノ療法モ同様ナリ。但吸入中毒ノ際ニハ新鮮ナル空氣、酸素吸入、人工呼吸、瀉血兼食鹽水注入ヲ行フ。冷水灌腸モ亦效アリ。

18. アンモニア及其化合物 (Ammoniak):

内服中毒ニハ稀醋、酒石酸溶液、枸橼酸溶液ヲ與ヘ且冰片、麻醉劑ヲ處シ、虚脱ニハ興奮劑ヲ用フ。吸入中毒ニハ醋又ハ水蒸氣ヲ吸入セシメ、痙攣ノ爲ノ呼吸困難ニハ酸素吸入、人工呼吸、麻醉劑、時ニ氣管切開術ヲ行フ。

19. エーテル (Aether):

内服中毒ニハ胃消息子ヲ入レテ胃外ニ誘導スルカ或ハ胃洗滌ヲ行フ。吸入中毒ニハ新鮮空氣、皮膚刺戟、人工呼吸、横隔膜神經感電氣通電法ヲ施シ、硝酸「ストリキニー子」ノ皮下注射ヲ行フ。

20. フィゾステグミン (Physostigmin):

0.5-1.0% 丹寧酸又ハ0.1-0.5% 過滿俺酸加里溶液ニテ胃洗滌ヲ行ナヒ、硫酸「アトロピン」ノ皮下注射 (0.0005-0.001)、人工呼吸法、興奮劑ヲ處ス。

21. ヴェラトリン (Veratrin):

丹寧酸又ハ過滿俺酸加里液ニテ胃洗滌ヲ行フ。興奮劑トシテ酒精、「カンフル」、温茶、咖啡ヲ與フ。硫酸「アトロピン」ハ生理的解毒劑ノ效アリ、皮下ニ注射ス。

22. カンタリジン (Cantharidin):

胃洗、下劑ヲ與フ。下劑ハ油劑ヲサケテ甘黍ヲ用フ。「アルカリー」性飲料、温坐浴ヲ命ズ。時ニ次方ヲ試ム。

■ 亞拉比亞護膜漿	150.0
-----------	-------

阿片丁幾	2.0
------	-----

右混和、數回ニ分服

膀胱障碍アルモノニ向テハ洗滌等適當ニ處置スベシ。

23. 硫化水素 (Schwefelwasserstoff):

新鮮空氣、人工呼吸、横隔膜神經ニ感電氣ヲ通ズ。瀉血兼食鹽水注射、興奮劑(「エーテル」、「カンフル」注射)ヲ與フ。

24. 硫化炭素 (Schwefelkohlenstoff):

新鮮空氣，胃洗滌，興奮劑ヲ處ス。慢性中毒ニハ強壯劑トシテ「カフェイン」ヲ用ヒ，視力障礙ニハ「ストリキニー子」注射效アリ。

25. デジタルリス (Digitalis):

胃洗滌ヲ行ナヒ，咖啡，酒性飲料，「エーテル」等ノ興奮劑ヲ處シ，嘔吐ニハ冰片，「コカイン」，阿片ヲ用フ。其他芥子泥貼布，食鹽水注入等ヲ行フ。「ニトログリツェリン」(1% 酒精溶液 2-10 滴)，亞硝酸「アミール」ノ吸入ヲ處ス。

26. ベンチン及ベンツォール (Benzin u. Benzol):

新鮮空氣，興奮劑，人工呼吸ヲ行フ。内服中毒ニハ胃洗滌ヲ追加ス。

27. 麥角 (Secale cornutum, Ergotin):

胃洗滌，吐劑，下劑(甘草 1 日數回 0.1-0.3 宛)ヲ用フ。猶丹寧酸(1 日數回 0.1 宛)，阿片，興奮劑ヲ與フ。「ザロール」，「ペーテナフトール」(0.3-0.25)ヲ推賞スル人アリ。徐脈ニハ「アトロピン」又ハ「スコポラミン」ヲ用フ。

28. アルコホール中毒 (Alcoholismus, Alkoholvergiftung):

急性アルコホール中毒 (Alcoholismus acutus) ニシテ，泥酔失神セル者ニハ冷水灌注又ハ「アムモニア」ヲ嗅ガシメテ意識ヲ喚起セシム。體溫降下セル者ニハ皮膚摩擦，脚湯，手浴等ヲ試ム。心臟衰弱アル者ニハ強心劑特ニ「ストリキニー子」ヲ用ヒ，呼吸麻痺ノ危険アル者ニハ胸部ノ摩擦又ハ輕打ヲ試ミ，時ニ人工呼吸及酸素吸入必要アリ。

酒客譫妄症 (Delirium tremens):

榮養ニ留意シ，不安及不眠ヲ顧慮シ且心力維持ニ勉ムレバ多クハ其豫後良好ナリ。不安及不眠ニ向テハ種々ノ催眠劑

ヲ與フ。就中賞用セラル、ハ「ヴェロナール」ナリトス，1 日量 1.5-2.0 瓦ニモ及ブ。抱水「クロラール」ハ心臟ニ對シテ惡影響アルガ故ニ不可ナリ。10% 「メチラール」溶波 (Methylal) ヲ用ヒ，其 0.1 瓦宛ヲ 2-3 時間毎ニ睡眠ヲ催ス迄皮下注射スル事ヲ推賞スル人アリ。

若シ心力強ナラバ持續浴又ハ溫纏包ヲ用フ。然レドモ心臟衰弱ノ徵出現セバ直チニ中止スベシ。

心臟力ニ注意スル事肝要ニシテ，本症ニハ始メヨリ「デギタリス」劑ヲ處スルヲ可トス。心臟衰弱ノ徵アラバ「カンフル」，「カフェイン」注射，食鹽水注入ヲ行フ。虚脱及急性心臟衰弱ニ酒精ノ使用ハ眞ニ救急ノ場合ノミニ限ルベシ。重篤ナル不安，興奮ニハ「ヒオシチン」ノ應用ヲ避クル能ハザル事アリ。時ニ腰椎穿刺ヲ行フ。本症ノ多クノ場合ニハ腦内壓ノ上昇アルモノニシテ，此際腰椎穿刺ヲ行ヒテ腦脊髄液ヲ排除スレバ，其全経過ヲ短縮シ且緩和セシムトイフ。之内壓降下ト毒物排出ノタメナランカ。

慢性中毒 (Alcoholismus chronicus):

種々ノ形ニ於テ表ハル。慢性中毒性精神病者ハ入院加療ヲ要ス。何レニシテモ酒精ヲ禁ズル事ヲ眼目トスルモ，其實行ハ困難ナル事多シ。強壯ナル者ニハ急ニ酒精ヲ禁ズルモ，身體薄弱ナル者ニアリテハ漸次ニ酒精ヲ禁ズベシ。不安，興奮ニハ臭素劑ヲ用フルモ持續浴最モ宜シ。神經炎アル者ニハ電氣療法，按摩療法ニ加フルニ「ストリキニー子」劑ヲ以テス。

■ 硝酸ストリキニーネ 0.05

甘草末及羔 適宜

右爲 25 丸，朝夕 1-2 丸宛

1 硝酸ストリキニー子	0.04
蒸留水	10.00

右爲皮下注射料、 $\frac{1}{2}$ -1.0 兎宛

メチール酒精 (Methylalkohol).

胃洗、灌腸ヲ施シ、硝酸「ストリキニー子」注射ヲ行フ。

眼症状ニ對シテハ始メノ間ハ鹽酸「ピロカルピン」注射ニ加フルニ沃度加里ノ内服ヲ以テシ、後期ニハ硝酸「ストリキニー子」ヲ内服又ハ皮下注射トシテ與フ。

29. ニコチン、煙草 (Nikotin, Tabak):

胃洗滌ニハ次方ヲ用フ、内服ニハ丹寧酸 (0.1-0.3) 及沃度加里ヲ用フ。

2 沃度丁幾	40 滴
水	1000
3 丹寧酸	0.5-1.0
水	100.0

以上胃洗滌料

4 沃度	0.05-0.08
沃度加里	0.1-0.15
水	250.0

有混和、1 酒盞宛服用

更ニ灌腸ヲ施シ、興奮劑ヲ與フ。頭部冷水灌注、亞硝酸「アミール」ノ吸入、人工呼吸法ヲ行フ。

本邦製紙卷煙草ノ「ニコチン」含有量ニ就テハ附録ヲ参照スベシ。

30. 腸詰及獸肉毒 (Wurst- u. Fleischgift):

胃洗、峻下劑、興奮強心劑、時ニ下熱劑ノ少量ヲ用フ。

31. 甲介類及魚類毒 (Muscheln- u. Fischgift):

吐劑、下劑、興奮強心劑ヲ處ス。河豚中毒ニ際シテハ吐劑

ヲ與ヘ、胃洗滌ヲ施シ、人工呼吸ノ傍ラ硝酸「ストリキニー子」及「カンフル」皮下注射ヲ行フ。腐敗肉中毒ニハ「ピロカルピン」注射ヲ推賞スル人アリ。

32. 菌毒 (Pilzgift):

吐酒石ヲ投ジテ胃内容ヲ一掃ス。胃洗滌ニハ丹寧酸溶液ヲ用フ。下劑トシテ蓖麻子油ヲ應用ス。強心劑、殊ニ硝酸「ストリキニー子」及硫酸「アトロピン」、食鹽水注射問題トナル。「ムスカリン」中毒ノ際ノ呼吸及心臟ノ危險症状ニハ「アトロピン」效アリトイフ。

33. コニイン、毒ニンジン (Coniin, Schierling):

吐劑ヲ與ヘ或ハ丹寧酸溶液、過滿俺酸加里溶液ニテ胃洗滌ヲ行ナヒ、痙攣ニハ抱水「クロラール」ヲ用フ。「アトロピン」、「ストリキニー子」注射、興奮劑、人工呼吸等問題トナル。

34. アコニチン、雙蘭菊 (Aconitin, Eisenhut):

丹寧酸溶液ヲ以テ胃洗滌ヲ行ヒ且内服ニモ用フ。或ハ吐劑ヲ用フ。

硫酸「アトロピン」注射ヲ推賞スル人アリ。其他硝酸「ストリキニー子」注射ヲ行フ。内服ニハ「ヂギタリス」、蕃木鼈丁幾等ヲ用フ。時ニ人工呼吸ノ要アリ。

35. コルヒチン、コルヒクム草 (Colchicin, Herbstzeitlose):

丹寧酸、過滿俺酸加里溶液ヲ以テ胃洗滌ヲ行ナヒ、腹部溫罨法、興奮劑ヲ與フ。時ニ瀉血後食鹽水注入ヲ行フ。

36. 巴豆油 (Krotonöl):

胃洗滌及灌腸ヲ施シ、牛乳、粘液性飲料、冰片、阿片ヲ與ヘ、虚脱ニハ興奮劑ヲ處ス。

37. 蛇毒 (Schlangengift):

咬傷上部ヲ緊縛シ、0.1-0.5% 過滿俺酸加里液ノ洗滌又ハ皮下注入ヲ行フ。局處ハ「アムモニヤ」、苛性加里、硝酸銀、

「アンチフォルミン」等ヲ以テ腐蝕スル外種々ノ處置方法アリ。心臟衰弱ニハ強心劑，特ニ「ストリキニーチ」ノ注射ヲ用フ。抗毒血清モ亦試ムベキモノタルヲ論ナシ。

飯匙蛇ハ日本ニテハ鹿兒島縣下ノ大島及琉球ニ棲息ス。飯匙蛇ノ咬傷ヲ受ケタル時ハ，上記ノ如ク創傷ノ上部ヲ紐又ハ手拭ヲ以テ緊縛シ，創口ヲ少シク切開シテ出血セシメタル後，能ク洗滌シ更ニ「クロール」石灰水(1瓦ヲ60.0珎ノ水ニ溶解ス)又ハ1%鹽化金水ヲ注ギ暫時創口ヲ浸シタル後普通ノ如ク防腐繃帶ヲ施ス。飯匙蛇毒血清モ亦應用セラル。

飯匙蛇毒血清使用心得

1. 傳染病研究所製造ノ飯匙蛇毒血清ハ飯匙蛇毒素ヲ以テ免疫シタル牛又ハ馬ノ血清ニシテ，一罎ノ容量ハ40.0珎トス。
2. 治療ノ目的ニハ成ル可ク早期ニ40.0珎ヲ1回ニ注射スベシ。但症狀劇甚ナルモノニ對シテハ反覆注射スルヲ要ス。
3. 豫防ノ目的ニハ10.0珎ヲ注射スベシ。但其有效期間ハ約週2-3間トス。
4. 注射ノ部位ハ成ル可ク咬傷ヲ受タル局部ノ附近ヲ擇ミテ皮下ニ行フベシ。若シ其部位ノ注射ニ不便ナル時ハ胸部若ハ大腿内側若ハ上臍ノ皮下等適當ナル部位ニ注射スベシ。
5. 注射部ノ皮膚ハ注射前「アルコール」若ハ他ノ消毒藥液ヲ以テ消毒シ，注射針痕部ニ絆創膏ヲ貼付シ若ハ「ヨードフォルム・コロヂウム」ヲ塗布スベシ。
6. 注射器ハ曹達水ニテ煮沸シ消毒シタルモノ又ハ「アルコール」若ハ5%石炭酸水ニテ消毒シタル後更ニ殺菌水

若ハ0.5%石炭酸水ニテ洗滌シタルモノヲ使用スベシ。

7. 血清ハ光線ニ觸レ又ハ高温ノ爲メ效力ヲ減ズル虞アルヲ以テ冷暗處ニ注意シテ保存スベシ。

上ノ方法ニ依リ保存スル時ハ少クトモ1箇年間其效力ヲ維持スルモノトス。

蝮蛇ハ殆ド日本全土ニ存在シ，殊ニ鹿兒島，熊本，廣島，岡山，兵庫，滋賀縣等ニ於テ被害多シ。先ヅ適當ナル處置ヲ咬傷部ニ施スベシ。蛇毒ニ對スル抗毒血清ハ咬症ヲ受ケタル毒蛇ノ種類ト一致セザレバ效ナキモノナリトセラルレドモ，時ニ飯匙蛇毒血清40珎ヲ注射シテ效アル事アルガ故ニ，之ヲ試ムルハ可ナリ。

又鹽化「カルチウム」ヲ推賞スル人アリ。即之ニヨリテ局處ノ疼痛，腫脹ニ好影響アルハ勿論，淋巴腺炎，淋巴管炎，蜂窠織炎等ニ對シテモ一定ノ效果アリ，且脈搏頻數，呼吸困難，視力減弱モ容易ニ恢復ストイフ。

咬症ノ周圍ニ1-2%過滿俺酸加里液，2%「クロール」石灰溶液ヲ注射シテ效アル事アリ。或ハ胃洗滌ヲ行ナヒ，大量ノ酒精飲料ヲ處スル事アリ。

船暈 Morbus nauticus, Seekrankheit.

適當ナル運動乃至遊戲等ニヨリテ精神ノ誘導ニ勉ムルハ最も必要ナリ。食物ハ少量宛數回ニ攝取セシメテ，胃ヲ可成的空虛又ハ充滿セシメザル様心掛クベシ。大船ノ中央部ヲ占居スル事，不快ナル船臭ヲ避クル事モ亦船暈豫防ノ一要素ナリトス。

既ニ發病セル者ニハ安臥ヲ命ジ，四肢ヲ温包セシム。藥劑トシテハ臭素劑，鹽酸「コカイン」等ヲ用フルモ效少ナシ。近

時「アトロピン」ノ效果ヲ力説スルモノアリテ、0.001 瓦ヲ皮下ニ注射スレバ效アリトイフ。酒精飲料ニモ一定ノ效果アル事アリ。臭素剤ハ乗船以前ヨリ用フレバ豫防的ニ效アリ、然ラザルモ症状未ダ著シカラザルニ用フレバ奏效スル事アリ。

① プロムラール 1.0

重曹 1.5

右 1 日量, 3 回分服

② ヴェロナール 0.3-0.5

右頓服料, 乗船前

③ 修酸セリウム 0.1

乳糖 0.3

右頓服料, 1 日 3 回

④ 鹽酸コカイン 0.1

杏仁水 10.0

右爲滴劑, 1 回 10-20 滴宛, 1 日 3- 數回

⑤ アステジン 1.5

右 1 日量, 3 回分服

⑥ メントール 0.1

鹽酸コカイン 0.2

酒精 60.0

單舎 30.0

右混和, 1/2-1 時間毎ニ一茶匙宛

⑦ スパスミン 1.5-3.5

右 1 日量, 3 回分服 (1-4 日間連用スレバ豫防的効果アリト云フ)

汽車ニ酔フモノニ向テモ亦略々同様ノ手當ヲ加フ。吾人ハ屢々次方ノ内服ニヨリテ之ヲ豫防スルヲ得タリ。

① 臭素加里 2.5

重曹 2.0

苦丁 1.0

單舎 5.0

水 100.0

右 1 日量, 3 回分服 (乗車 2-3 日前ヨリ服用セシム)

② プロムラール 又ハ

ヴェロナール 0.3-0.5

右頓服料 (乗車前 30-60 分)

日(熱)射病 Insolatio, Hitzschlag.

冷處ニ移シ、頭上及心囊部ニ冰囊ヲ貼シ、清冷飲料ヲ與フル外ニハ心臟衰弱ヲ防禦スル事ヲ肝要トス。即「カンフル」、
「カフェイン」ノ注射ヲ行フ、時ニ「エーテル」ヲモ併用ス。瀉血後ニ食鹽水ノ注入ヲ行フ事ヲ推賞スル人アリ。或者ハ腰椎穿刺ヲ推賞ス。

凍傷 Congelatio, Erfrierung.

全身凍傷 (Allgemeine Erfrierung) ノ場合ハ勿論、局處凍傷 (Lokale Erfrierung) ノ場合ニ於テモ、總テ急劇ナル加温ヲ避クベシ。全身凍傷ノ場合ニハ、之ヲ先ヅ冷處ニ移シ、凍傷部ハ雪塊又ハ冰片ヲ以テ摩擦シ、次ニ冷水ヲ以テ濕シタル手布ヲ以テ摩擦スベシ。其他全身皮膚ニ向テ刺戟ト摩擦トヲ加フルハ可ナリ。次テ温浴ヲ試マシム。初メハ室温位トシ、漸次ニ浴湯ノ温度ヲ上昇セシメテ 30°C 位ニ至ラシム。或ハ温水ヲ浸シタル手布ヲ以テ摩擦ヲ試ム。他方心力

ニ注意シ、強心劑及興奮劑ヲ與フ。
局處凍傷ニ向テハ、其度ニ應ジテ適當ニ治療スベシ(485頁
参照)。

附 録

I. 食品ノ胃内停滯時間

食品ノ胃内停滯時間ヲ目標トシテ、食品ノ消化率ヲ決定スル事ハ單ニ胃ノ運動機能ノミヲ顧慮セルモノニシテ、眞ノ意味ニ於ケル消化率又ハ利用率ヲ指示スルモノニアラズト。雖モ、便宜上ノ標準トシテハ缺クベカラズ。

次表ハロイペ、ペンツォルト、湯川氏等ノ研究結果ヲ採萃セルモノナリトス。

第1類. 1-2時間ニシテ胃ヲ辭去スル食品。

食品名	調理法	數量	停滯時間 時 分
水		100	1 15
		200	1 30
		300	1 45
		400	2 00
		500	2 30
平野水		200	1 30
煎茶		200	1 30
麥湯		200	1 45
砂糖水		200	1 45
鹽酸リモナーテ		200	1 45
重湯		200	1 45
葛湯		200	2 00
粥		100	1 45

→ 鯛肉スープ	200	1 45
→ 鯉節スープ	200	1 40
7 肉羹汁(牛鷄)	200	2 05
→ 牛乳	100	2 00
	200	2 15
	300	2 30
	400	3 00
→ 米飯	50	1 45
	100	2 15
	150	2 45
	200	3 15
→ 卵	100	半熟 1 30-45
		卵黃湯 2 15
		生卵 2 30-40
		燒 3 00
		湯煮 3 15
→ 麥飯	100	2 00
→ 梨榨汁	200	1 45
→ 密柑榨汁	200	1 45
→ 大根, 蕪菁	100	2 00
→ 冬瓜	100	2 00
→ 茄子	100	2 00
→ 芹	100	2 00
→ 菠薐草	100	2 00
→ ワカメ	100	1 45
→ 林檎	100	1 45
→ 梨	100	2 00
→ 葡萄	100	1 45

→ 密柑	100	1 45
→ 水蜜桃	100	1 45
→ 桃	100	2 00
醬油汁	200	1 30
日本酒	200	2 00
麥酒	100	1 30
	200	1 45
	300	2 00
	400	2 15
第2類. 2-3時間ニシテ胃ヲ去ル食品.		
味噌汁	200	2 30
→ 素麵	100	2 15
→ 蕎麥	100	2 20
→ 溫飽	100	2 45
→ 餅	100	2 30-3 15
→ 粟餅	100	3 15
→ トロロ汁	200	2 30
→ 豆腐	100	2 15
→ 冰豆腐	100	2 45
→ 蕪	100	2 15
→ 赤小豆	100	2 00
→ 豌豆	100	古煮 2 30
		新煮 3 00
		炒 3 45
→ 蠶豆	100	新煮 2 30
		古煮 2 45
		炒 3 30
→ コンデンスミルク	200	2 45

咖啡		200	2 15	
牡蠣	{ 生 }	100	2 15	
		{ 煮 }	100	2 30
鮎	{ 干・煮 }		2 00	
		{ 生・焼 }	100	2 30
		{ 生・煮 }		3 00
鮎	{ 刺身 }		2 15	
		{ 干・煮 }	100	2 30
		{ 生・煮 }		3 00
鯛	{ 刺身 }	100	2 15-40	
		150	3 30	
		200	4 15	
		煮	100	3 00
		鹽焼	100	3 15
		味噌漬	100	3 30
鱈	{ 干刺身 }		2 00	
		100	2 30	
		煮		2 40
鱈	{ 鹽焼 }		3 00	
		100	2 40	
		100	3 15	
鯖	{ 煮刺身 }		3 35	
		100	2 40	
		100	3 00	
鯖	{ 鹽焼 }		3 00	
		100	3 00	
		100	3 15	
海鰻	焼	100	3 10	
鯉		100	2 40	

牛肉	スキヤキ	50	2 40
	スキヤキ	100	3 45
	スキヤキ	150	5 40
	スキヤキ	250	6 45
	タ、キ肉	100	2 40
	スキヤキ		
	ビーフステーキ	100	4 15
	煮	250	3 00
	煮・焼	100	3 00
	煮	100	2 30
甘藷			
馬鈴薯			
里芋			
大根			
胡蘿蔔			
牛蒡			
百合			
コンニャク			
ワライ			
キウリ			
南瓜			
西瓜			
マクワウリ			
葱			
玉葱			
筍			
松茸			
昆布			
杏, 李			

> 枇 杷		100	2 30
> 御所柿		200	2 30
> 葡萄酒(赤)		200	2 15
フ 白 酒		200	2 45
➤ カステイラ		100	2 45
➤ ビスケット		100	3 00
➤ 煎 餅		100	2 15
フ 羊 羹		100	2 30
フ 水 飴		100	2 15
フ 朝鮮飴		100	2 30
		50	2 00
		100	2 45
➤ 白麵麩		150	3 30
		200	4 00

第3類. 3-4時間以上停滞スル食品.

> 卵 酒		100	3 30
フ 兎 肉	スキヤキ	100	3 45
➤ 豚 肉	{ スキヤキ	100	4 15
	{ 味噌汁	100	4 30
フ 鶏 肉	{ スキヤキ(幼)	100	3 00
	{ スキヤキ	100	4 00
	{ (成育鳥)	100	4 15
フ 家 鴨	スキヤキ	100	3 30
フ 鴨	焼	100	3 15
フ ッグミ	焼	100	3 15
フ 鱈	煮	100	3 30-45

> 鮑	{ 刺 身	100	3 15
	{ 煮	100	3 45
フ 蛤	煮	100	3 45
> 鰓	{ 焼	100	3 30
	{ 煮	100	3 45
	{ 天ブラ	100	4 00
> 鳩	{ 煮	220-260	
	{ 焙	195	

第4類. 4-5時間ニテ辭去スル食品.

> 鮪	煮	100	3 45-4 15
フ 鰻	煮	100	4 15
フ ビーフステーキ		250	
フ 牛ヒレ肉		210	
フ 牛 舌	燻	210	
フ 燻 肉	薄 片	100	
フ 野 兔	炙	250	
> 豌 豆	粥 状	200	
フ 匾 豆	粥 状	150	
> 鳩	焙	210	
> 鶯	焙	250	
> 鴨	焙	280	

II. ヴィタミン分佈

「ヴィタミン」ノ化學的本態ハ尙未ダ不明ニシテ、其性質ノ知ラレタルモノモ亦少ナク、唯僅カニ生理的關係、熱ニ對スル抵抗及2-3藥品ニ對スル關係稍明瞭トナレルニ過ギズ。目下「ヴィタミン」ニA, B, C, D, E等ヲ區別スレドモ、研究稍々進ミタルハA, B, Cノ三者ナリトス。

ビタミン A (Vitamin A).

脂油ニハ溶解スレドモ、水ニハ溶解セズ。熱ニ對スル抵抗ハ相當ニ強キモ、數時間 100 度ニ保テバ其效力ヲ失フ。殊ニ此際酸素ノ供給盛ナレバ其效力ノ消失スル事迅速ナリ。脂油ニ溶解セザルモノヲ空氣中ニ放置スレバ自ラ酸素ヲ吸收シテ效力ヲ失フ。又耐酸性ハ可ナリ強ケレドモ、「アルカリ」ニ對シテハ弱シ。「ビタミン」A ハ動物ノ發育ニ必須ナリトセラル。其他脂肪同化、「カルチウム」代謝ニ一定ノ關係アリ。

ビタミン B (Vitamin B).

水ニ可溶性ナリ。「エーテル」、「アツェトン」ニハ不溶ナレドモ、「アルコール」ニハ特ニ酸性ノ場合ニ善ク溶解ス。抵抗力最モ強ク、熱ニ對シテハ 100 度以內ニ於テハ容易ニ破壊セラレズ。120 度ニ長時加熱スレバ效ヲ失フ。酸ニ對シテハ比較的安定ナレドモ、「アルカリ」ニ對シテハ容易ニ分解シテ其效ヲ失フ。「ビタミン」B ハ脚氣トノ關係ニ於テ近時喧シク論議セラル、所ノモノナリトス。

ビタミン C (Vitamin C).

水及「アルコール」ニ溶解ス。熱ニ對シテハ最モ弱ク、50 度ニ於テ徐々ニ分解ヲ始メ、80 度ニ到レバ全ク破壊セラル。「アルカリ」ノタメニハ冷時ニ於テモ容易ニ破壊セラル、故ニ「ビタミン」中最モ不安定ノモノナリトス。「ビタミン」C ハ壞血病ノ豫防乃至治療ニ有效ナルガ故ニ抗壞血病性「ビタミン」トモ稱セラル。

ビタミン D (Vitamin D).

久シク「ビタミン」B ト混同セラレタルモノナレドモ、其後ノ研究ニヨリ、コレト異ナルモノナル事知ラレ、「ヴィタ

ミン」B ヨリ分離セラル。之ハ酵母ノ發育ヲ旺ナラシムルモ、高等動物ニ對スル影響ハ未知數ナリ。

ビタミン E (Vitamin E).

「ビタミン」D ガ「ビタミン」B ヨリ分離セラレタル様ニ、「ビタミン」E ハ「ビタミン」A ヨリ分離セラレ、「ビタミン」A ノ作用ノ一部ハ此「ビタミン」E ノ作用ニ歸スベキモノナリト説明セラルレドモ、其研究ハ未ダ徹底的ナラザルモノノ如シ。

各種ノ食物ニ於ケル「ビタミン」ノ分佈ニ關スル研究ハ未ダ廣汎ナラズ。次表中 I ハ英國醫學調査委員會ノ報告ニヨリテ作製セラレ、II ハ英米ニ於ケル調査材料ヲ考査シテ編纂セラレタルモノナリトス。以テ生物界ニ於ケル分佈状態ニ關スル一般ヲ知ルヲ得ベシ。サレバ食品材料ノ選擇ニ意ヲ用ヒ、且調理ニ際シテ熱、酸及「アルカリ」ニ對スル性状ヲ參酌セバ、營養上大過ナキヲ期シウベシ。

各種食品中ノ「ビタミン」含有量。

食品ノ種類	脂肪溶性 A型 ビタミン	水溶性 B 型 ビタミン	水溶性 C 型 ビタミン
A. 脂肪及油類 Fats and oils:			
I. バタ Butter	+++	0	
クリーム Cream	++	0	
肝油 Cod-liver oil.....	+++	0	
羊脂及牛脂 Mutton and beef fat or suet.....	++		
豚脂 Lard	0		
オリーブ油 Olive oil	0		
綿實油 Cotton seed oil	0		
椰子油 Coconut oil.....	0		

椰子バター Cocoa-butter.....	0		
亞麻仁油 Linseed oil	0		
魚油, 鯨油, 鱈油等 Fish oil, whale oil, herring oil, etc. ...	++		
動植物性硬化油 Hardened fats (Hydrogenated) of animal or vegetable origin.....	0		
人工バター (動物性脂肪ヨリ製シ タルモノ) Margarine from ani- mal fat	0	使用セル 動物脂肪 ニ比例ス	
人工バター (植物性油或ハ豚脂ヨ リ製シタルモノ) Margarine from vegetable fat or lard	0		
木ノ實バター (胡桃仁, 落花生仁 ノ類) Nut butters.....	+		
II. 扁桃油 Almond oil	0	0	
牛脂 Beef fat.....	+	0	0
バター Butter	卍	0	0
椰子油 Coconut oil.....	0	0	0
肝油 Cod liver oil	卍	0	0
玉黍蜀油 Corn oil	0	0	0
綿實油 Cotton seed oil	0?	0	0
卵黄脂 Egg yolk fat	卍	0	0
魚油 Fish oils	++	0	0
豚脂 Lard	0?	0	0
動物性油 Oleo, animal.....	+	0	0
植物性油 Oleo, vegetable	0	0	0
オリーブ油 Olive oil	0	0	0
豚肉脂 Pork fat	0?	0	
動物硬脂類 Tallow	0	0	0
植物油 Vegetable oil	0?	0	0

B. 野菜及果實類 Vegetables and fruits:

I. キャベツ (新鮮ニシテ生ノモノ) Cabbage, fresh, raw	++	+	卍
キャベツ (新ラシキ物ヲ煮タル モノ) Cabbage, fresh, cooked		+	+
キャベツ (乾シタルモノ) Cab- bage, dried.....	+	+	極微
キャベツ (罐詰) Cabbage, canned			極微
スエデン蕪ヲ生ノマ、絞リタル 液汁 Swede's raw expressed juice			卍
チンヤ (植物) Lettuce	++	+	
菠稜草 (乾) Spinach, dried	++	+	
胡蘿蔔 (新鮮ナル生ノモノ) Carrots, fresh, raw	+	+	+
胡蘿蔔 (乾) Carrots, dried	極微		+以下
甜菜根ヲ生ノマ、絞リタル液汁 Beetroot, raw expressed juice	+	+	
馬鈴薯 (生) Potatoes, raw			+
馬鈴薯 (煮タルモノ) Potatoes, co- oked			++
生ノ赤色十六ササギ Beans, fr- esh scarlet runners raw			
レモン汁 (新鮮) Lemoa juice, fresh			卍
レモン汁 (貯藏シタルモノ) Lemon juice, preserved.....			
ライム汁 (新鮮ナル橘ノ種類) Lime juice, fresh			++
ライム汁 (貯藏セルモノ) Lime juice, preserved			極微
オレンジ汁 (新鮮) Orange juice, fresh			卍
ラズベリー Raspberries			++

林 檎 Apples			+
バナナ Bananas	+	+	極微
トマト(罐詰) Tomatoes, canned			+
木ノ實(胡桃, 落花生仁ノ類) Nuts	+	+	
II. 蕎菜根 Beet root	+	+	+
蕎菜根汁 Beet root juice	?	僅少	+
乾燥キャベツ Cabbage, dried ..	+	+	+
新鮮キャベツ Cabbage, fresh ..	+	+	+
胡蘿蔔 Carrots	+	+	+
花キャベツ Cauliflower	+	+	+
セレリー Celery	?		?
チャード Chard	+	+	?
ダッシューンス Dasheens	+	+	?
チシヤ(植物) Lettuce	+	+	+
マンゲル Mangels	+	+	?
洋 葱 Onions	?	+	+
オランダ防風 Parsnips	+	+	
新鮮豌豆(エンドウ) Peas (fresh)	+	+	+
馬鈴薯 Potatoes	0	+	+
甘 藷 Potatoes (sweet)	+	+	?
蕪蕒(アブラナ) Rutabaga		+	
菠薐草(ハウレンサウ) Spinach.	+	+	+
林 檎 Apples		+	+
バナナ Bananas	?	+	+
橙ノ類「グレープフルーツ」 Grapefruit		+	+
葡萄汁 Grape juice		+	+
葡 萄 Grapes	0	+	+
レモン Lemons		+	+

ライム(橘ノ類) Limes	+	+	
オレンジ Oranges	+	+	
梨 Pears	+	+	
乾葡萄 Raisins	+	+	
トマト Tomatoes	+	+	+
扁桃 Almonds	+	+	
ブラジルナット Brazil nut		+	
栗 Chestnut		+	
椰子 Coconut	+	+	
英國産胡桃 English walnuts ..		+	
榛(ハシバミ)ノ實 Filbert		+	
ヒッコリア(胡桃ノ類) Hickory	+	+	+
松 實 Pine	+	+	+
C. 穀物, 豆類等 Cereals, pulses, etc.:			
I. 小麥, 玉蜀黍, 米(全穀) Wheat, maize, rice (whole germ)	+	+	0
小麥, 玉蜀黍, 米ノ幼芽 Wheat, maize, rice germ	+	+	0
小麥, 玉蜀黍, 米ノ糠 Wheat, maize, rice bran	0	+	0
白キ小麥粉, 純良ノ玉蜀黍粉, 精白米等 White wheat flour, pure corn flour, polished rice, etc.	0	0	0
穀類ヨリ作りタル「カスタード」 粉, 卵代用品 Custard powders, egg substitutes, prepared from cereal products	0	0	0
亞麻仁, 黍 Linseed, millet	+	+	0
乾豌豆, 扁豆 Dried peas, lentils, etc.		+	0
豌豆粉(炙リタルモノ) Pea-flour, kilned		0	0

大豆, 隠元豆 Soy beans, haricot beans	+	++	0
發芽セシメタル豆類及穀類 Germinated pulses or cereals..	+	++	++
II. 大麥 Barley	+	卅	?
白パン Bread (white)		+	?
パン(全部ヒキワリ) Bread (whole meal)	+	卅	?
玉蜀黍(タウモロコシ) Maize..	{ + (黄色) 0 (白色) ニハ)	卅	?
燕麥(カラスムギ) Oats	+	卅	0
白米 Rice polished	0	0	0
米(全穀) Rice (whole grain)..	+	卅	0
ライ麥 Rye	+	卅	0
玉蜀黍粒ノ胚芽 Corn embryo..		卅	
玉蜀黍(カッフイル) Corn (kaffir)		卅	
玉蜀黍粒(玉蜀黍ヲ見ヨ) Corn (see maize).....			
玉蜀黍花粉 Corn pollen		++	
麥芽越幾斯 Malt extract.....	0	0	0
小麥ノ「フスマ」 Wheat bran..	0	+	0
小麥ノ胚芽 Wheat embryo....	++	卅	0
小麥ノ肉乳 Wheat endosperm..	0	0	0
小麥ノ核 Wheat kernel	+	卅	0
隠元豆(インゲン豆) Beans, kidney		卅	
菽(チーヴィー) Beans, navy..		卅	0
菽(大豆) Beans, soy.....	+	卅	0
綿ノ實 Cotton seed	++	卅	
亞麻仁 Flax seed.....	++	卅	
大麻ノ實 Hemp seed	++	卅	
稷(ウルキビ)ノ實 Millet seed	++	卅	

落花生(南京豆) Peanuts.....	+	++	
乾燥豌豆 Peas (dry).....	+?	++	0
日廻草ノ種 Sun flower seeds ..	+		
D. 獸肉魚類等 Meat, fish, etc.:			
I. 脂肪ニ乏シキ肉(牛, 羊等) Lean meat (beef, mutton, etc.).....			
肝 臟 Liver	++	++	+
腎 臟 Kidneys	++	+	
心 臟 Heart	++	+	
腦 髓 Brain.....	+	++	
胸 腺 Sweetbreads	+	++	
魚(白キ肉ノ部分) Fish, white	0		存在スルトシテモ 極微
脂肪多キ魚(鮭, 鮭等) Fish fat (salmon, herring, etc.)	++		存在スルトシテモ 微極
魚ノ「ハララゴ」 Fish roe	+	++	
罐詰ノ獸肉 Tinned meats	?	微	0
II. 牛ノ心臓 Beef heart			
腦 髓 Brains	++	卅	+
鱈 Codfish	+	+	?
鱈ノ「テステース」 Codtestes ..	+		
魚ノ「ハララゴ」 Fish roe	+	++	?
鯡 Herring	++	++	?
馬 肉 Horse meat	+	+	
腎 臟 Kidney	++	++	
脂肪ニ乏シキ肉 Lean muscle....	0	0	+?
肝 臟 Liver.....	+	+	+?
膵 臟 Pancreas	0	卅	
豚ノ心臓 Pig heart	+	+	?
胎 盤 Placenta		+	
胸 腺 Thymus (sweetbrepsds)	0	0	0

E. ミルク、チーズ類 Milk, chees, etc.:

I. 生牛乳 Milk, cow's whole raw	++	+	+
脱脂乳 Milk, cow's skin	0	+	+
乾燥全乳 Milk, cow's dried whole	++以下	+	+以下
煮沸全乳 Milk, cow's boiled whole	?	+	+以下
コンデンスミルク(砂糖入) Milk, cow's condensed sweetened	+	+	
チーズ(全乳ヨリ) Cheese whole milk	+		+以下
チーズ(脱脂乳ヨリ) Cheese, skim milk	0		
新鮮鶏卵 Eggs, fresh	++	##	0?
乾燥鶏卵 Eggs, dried	++	##	0?
II. バタ Butter	##	0	0
チーズ Cheese	++	+	?
コンデンスミルク Condensed milk	++	+	0
クリーム Cream	##	+	?
卵 Eggs	##	++	0
脱脂乳粉 Milk powder (skim)	+	##	+?
全乳粉 Milk powder (whole)..	##	##	+?
全乳 Milk whole	##	##	++
乳清 Whey	+	##	+

F. 雑 Miscellaneous:

I. 乾燥酵母 Yeast dried	?	##	
酵母「エキス」ト其自家分解シタルモノ Yeast extract and autolysed	?	##	0
肉エキス Meat extract	0	0	0
麦芽エキス Malt extract		+	(モノニヨリテ)

ビール Beer		0	0
蜂蜜 Honey		+	
II. アルファルファ Alfalfa	##	##	?
血液 Blood	動物ニヨリテ不同		
苜蓿 Clover	##	##	?
蜂蜜 Honey		++	0
麦芽越幾斯 Malt extract	0	0	0
子クター Nectar	0	0	0
チモシー(飼草ノ一種) Timothy	++	##	
醸母(麥酒ノ) Yeast, brewers..	0	##	0
壓搾醸母 Yeast, cakes	0	++	0
醸母越幾斯 Yeast extract	0	##	0

「+」ハ「ビタミン」含有ノ記號ニシテ、其數多キモノ程含有量大ナル事ヲ示スモノナリトス。0 ハナキ事ヲ示シ、何等記載ナキハ無検査ヲ示ス。

III. 主要食品及嗜好品ノ蛋白、食鹽、プリン體含有量

次表ハ主トシテストラウス氏著腎炎中ノ所掲ニ依ル。其含有量ハ%ヲ以テ示ス。熱量ハ百瓦ニ對スルモノナリ。

第一類. 穀類, 莢豆類, 澱粉性食品.

食品名	蛋白質	食鹽	プリン體	熱量
米	6.73	0.04	0.004	357
米粉	6.91	0.02	—	359
玉蜀黍	9.45	0.02	0.004	363
同粉	9.65	0.02	0.004	360
小麥	12.04	0.01	—	348
同粉	12.15	—	0	369

裸麥	10.81	0.01	—	349
同粉	11.57	0.014	—	352
大麥	9.66	0.04	—	332
同粉	7.25	—	0	353
燕麥	10.66	0.05	—	329
同粉	—	0.01	—	—
豌豆	23.15	0.06	0.018	328
同粉	25.20	—	0.016	—
扁豆	25.94	0.13-0.19	0.054	341
同粉	25.46	—	—	356
隱元豆	25.31	0.09	0.017	318
同粉	23.19	—	—	358
ネスル小兒粉	8.4	0.29-0.36	—	371
麵麩(小麥粗粉)	6.15	0.15-0.48	—	239
同(小麥細粉)	7.06	0.18-0.70	0.008	265
黑麵麩(粗)	6.11	0.75	—	231
同(細)	8.50	0.66	0.014	262
<small>スーデルン</small> 西洋素麵	3.2	0.064	—	190
マカロニー	11.58	0.067	—	361

第二類. 蔬菜.

馬鈴薯(生)	2.08	0.016-0.078	0.001	96
胡瓜	1.18	0.06-0.08	—	15
大根	1.23	0.075	0.005	22
赤蕪菁	1.1	0.058-0.18	—	34
胡蘿蔔	1.23	0.06	—	45
<small>ブルーメンコール</small> 花野菜	2.48	0.05-0.15	0.008	32
隱元豆(幼)	2.72	0.089	痕跡	39
豌豆	6.35	0.058	0.027	80

豌豆罐詰	2.6	0.67	—	42
アスパラガス	1.79	0.04-0.06	0.019	26
同罐詰	1.1	0.83	—	13
菠薐草	3.49	0.17-0.21	0.024	38
<small>トマト</small> 赤茄子	0.7	0.094-0.114	—	18
南瓜	—	0.05	—	—
菘	—	0.04	—	—
洋葱	—	0.016-0.09	—	—
セロリー(莖)	—	0.25-0.49	—	—
同(根)	—	0.083	—	—
甘藷	—	0.16	—	—
<small>スタインビルフ</small> 石茸(乾燥)	36.12	0.031	0.018	317
推茸	—	0.04-0.06	—	—
松露	—	0.014	—	—

第三類. 果實.

林檎	0.36	0	0	51
梨子	0.36	0	0	50
梅實	0.78	0.0046	—	52
同(乾燥)	2.25	0.008	—	269
櫻實	0.67	0.013	0	52
桃實	0.65	0	—	50
杏實	0.49	0.0057-0.055	0	26
スモモ	—	0.0046	0	—
葡萄(生)	0.59	0.024	—	69
同(乾)	2.42	0.16	—	270
<small>エルトヘーレン</small> 莓	0.54	0.01-0.02	—	34
栗	10.76	0.0045-0.01	—	18
パイナップル	—	0.071	—	—

レモン		0.0045		
無花菓		0.021		
橄欖		0.068-0.21		
ワッサーノロン 舌甘瓜(汁)		0.011		
胡桃(乾)		0.019		

第四類. 魚類.

川鰻	12.83	0.02	—	319
川鱈	18.53	0.10	—	82
鯨	19.18	0.12	0.056	98
ダツ	18.71	0.09	0.048	81
鯉	21.86	0.09	0.054	100
鮭	21.60	0.06	0.024	207
同(燻製)	25.7	7.5-10.87	0.017	156
鱒	18.0	0.30	0.041	131
鱈	16.93	0.39	0.039	72
同(鹽漬)	79.1	3.56	—	388
同(乾藏)	79.1	0.19	—	388
比目魚	19.35	0.21	0.032	96
舌鰈	14.2	0.41	0.052	73
鯖	18.4	0.28	—	164
牡蛎	5.95	0.52	0.029	50
サルヂネン 鱈(罐詰)	27.5	0.12	0.15	201
同(油漬)	25.1	1.34	0.118	218
鱈(鹽漬)	18.3	13.4-14.7	0.078	112
イワシ(乾・ キール産)	22.7	0.31	0.082	245
サルヂレン 鱈魚(鹽漬)	22.3	20.59	0.078	112

第五類. 肉類.

牛肉(瘦肉)	21.90	0.11	0.059	98
犢肉()	19.00	0.13	0.038	85
羊肉()	19.18	0.17	0.026	105
豚肉()	19.98	0.10	0.041	125
兔肉	23.34	0.16	0.088	107
鹿肉	21.19	0.11	0.039	105
蛙脚	—	—	0.05	—
鷄肉	19.36	0.14	0.029	106
鳩	22.90	0.15	0.058	103
鶯	15.91	0.20	0.033	489
鴨	20.8	0.14	—	141
七面鳥	24.1	0.17	0.050	191
豚(燻肉)	22.5	4.15-5.86	0.024	238
同(煮)	23.6	1.85-5.35	0.025	266
骨髓(牛)	2.8	0.11	—	791
腦(牛)	8.8	0.29	0.028	119
腎臟(牛)	16.4	0.32	0.080	119
肝臟(牛)	17.7	0.15	0.093	130
胸腺(牛)	15.2	0.2	0.330	93
リーヒッヒ氏肉 越幾斯	60.2	2.0-3.35	0.648	311
ワーレンダイ ン氏肉汁	14.1	0.08	22.7	132
コーンビーフ (米國製)	—	11.52	—	—
同(オーストラ リア製)	—	0.25-4.4	—	—

第六類. 卵及牛乳並ニ其製劑.

鶏卵	12.55	0.21	—	166
卵白	12.87	0.31	—	58
卵黄	16.12	0.39	—	360
1卵(45瓦)	5.65	0.10	—	75
1卵黄(16瓦)	2.58	0.008	—	58
鶯卵	12.2	0.14	—	194
鴨卵	—	0.13	—	—
魚卵漬(露國製)	28.5	3.0	0.04	266
同(獨逸製)	28.5	6.18	—	266
牛乳	3.0	0.16	0.0004	65
コンデンスミルク	—	0.40	—	—
乳酪	3.76	0.13	—	243
牛酪(無加鹽)	0.74	0.02-0.21	—	790
同(加鹽)	—	1.0-2.0-3.0	—	—
人工バター	0.5	1.6-2.15	—	790
乾酪(瑞西)	23.72	2.0	0	420
同(英國)	2.84	0.7-1.15	—	606

第七類. 嗜好品及滋養劑.

砂糖(善良)	—	0.049	—	416
蔗糖	—	0.11	—	—
褐色砂糖(キッ ンデー用)	—	0.28	—	—
チョコレート	6.18	0.073	0.62	498
カカオ	21.50	0.05-0.095	1.9	482
茶	24.1	0.15	—	—
咖啡	14.1	0.045	—	—
マッギィ・スー プ香料	20.6	18.60	—	100

醬油	0.3	15.0	—	23
味噌	12.6	9.0	—	159
プラスモン	74.5	0.21	—	328
サナトーゲン	78.4	0.42	—	399
ソマトーゼ	—	0.66	—	—
肝油	—	0.17	—	—

IV. 食品ノ三要成分及熱量

食品名	%			熱量(100瓦)
	蛋白質	脂肪	含水炭素	
ア. アヒル (家鴨)	22.7	3.1	2.3	122
アサギ 鱈	21.0	0.8	—	94
アナゴ	16.7	0.6	—	74
アカエイ	21.5	0.3	—	91
アハヒ 鮑	24.6	0.4	—	105
赤魚	17.1	0.4	—	73
赤貝	15.8	0.5	—	69
アサギ 鰈	16.3	3.3	—	98
鮎	17.7	1.9	—	90
同(鱈)	49.3	8.6	—	282
アサギ 鯛	13.2	0.8	—	62
アサギ 鱈	13.1	0.1	—	54
小豆	22.0	0.4	55.4	321
粟	7.4	3.9	74.2	371
油揚	22.0	18.7	0.5	266
アズ(杏)	1.2	—	11.0	50

652 (ア・イ・ウ)

アスパラガス	2.0	0.1	2.4	19
アマ酒	3.5	—	32.4	147
飴(晒)	21.8	0.4	63.3	353
飴	0.6	—	81.9	338
同(水)	0.8	—	80.2	332
同(葡萄)	1.0	—	75.2	312
イ. イサキ(鮫)	19.6	0.8	—	88
イワシ(鰯)	21.4	6.7	—	150
同(鹽漬)	22.5	5.7	—	145
烏賊	19.1	0.6	—	84
イナダ 鰵	20.9	1.1	—	103
隠元豆(乾)	20.4	1.2	53.2	312
同(英共)	3.7	0.2	3.8	33
芋ガラ(乾)	4.1	2.1	41.0	204
イチゴ(苺)	0.6	0.5	6.2	33
無花果	1.3	—	15.6	69
同(乾)	3.6	1.3	56.7	259
ウ. 兎肉	22.1	2.1	—	110
同(罐詰)	34.4	0.5	—	146
鰻	18.1	11.5	—	181
ウニ(雲丹)	29.2	8.7	—	201
饅頭粉	10.7	1.1	74.7	360
饅頭(乾)	11.9	0.6	63.9	316
同(煮)	4.9	0.1	25.9	127
ウド 活	1.1	0.1	2.5	16
ウヅラ豆	18.9	1.2	57.8	326
梅(鹽漬)	0.1	0.2	8.9	39
梅干	0.9	1.2	7.5	46

(エ・オ・カ) 653

エ. 鰹	21.5	0.4	—	92
イセエビ 同	19.0	1.0	—	87
シイエビ 豌豆(乾)	23.4	1.9	52.7	330
同(青, 罐詰)	5.4	0.5	10.0	68
同 (未熟, 英共)	6.6	0.5	12.4	83
オ. オコ 虎魚	18.4	0.2	—	22
大麥	11.2	2.1	65.5	334
同(挽割)	9.6	0.3	73.2	342
大麥粉	12.3	2.4	68.5	354
オシムギ 壓搾麥	9.8	1.3	72.3	349
オートミ ル(燕麥粉)	13.9	9.2	67.0	389
カ. 鷺肉(多脂)	14.2	44.3	—	470
鴨肉	22.7	3.1	2.3	131
鯉	25.0	1.2	—	114
鯉節	75.6	5.1	0	357
鰈	21.9	0.7	—	96
カマス 梭魚	18.0	2.1	—	93
數子	20.6	1.3	—	97
牡蛎	8.5	0.9	5.0	64
貝柱	18.1	0.2	—	76
蟹	15.8	0.8	2.0	80
蒲鉾	20.9	0.1	6.2	112
肝油	—	99.7	—	927
燕麥	14.2	3.6	56.7	324
甘藷(赤)	1.9	0.4	28.0	126
同(白)	1.5	1.1	31.8	147

654 (カ・キ)

甘 藍	0.9	—	4.1	20
同(乾)	1.7	0.8	82.6	353
柿(樽)	0.6	—	12.6	54
同(乾)	1.5	0.1	65.2	274
同(キザガキ)	0.6	—	13.6	58
寒 天	2.5	—	73.6	312
乾 瓢	8.2	1.5	54.3	270
蕪 菁	1.6	0.1	2.8	19
南 瓜	0.7	0.1	6.1	29
冬 瓜	0.3	0.02	1.7	8
酪乾(多脂)	26.0	30.0	3.4	400
同(少脂)	36.0	12.0	4.2	176
カスティラ	11.4	8.2	50.6	330
寒天	2.5	—	73.6	
キ. 牛肉(牡)	20.6	5.5	0.7	136
同(牝)	20.2	4.7	0.4	127
同(犢)	19.4	4.1	—	118
同(罐詰)	28.5	3.4	—	148
同(大和煮)	18.5	9.6	—	165
コーンビーフ	21.7	4.9	—	135
ボイルドビーフ	28.1	3.2	—	145
牛 舌	17.4	18.0	—	239
牛肉汁	2.8	0.3	—	14
牛乳(全)	3.5	3.8	4.9	70
同(脱脂)	3.9	1.0	4.2	43
ヨーグルト	5.8	3.6	7.5	88
牛 脂	0.4	98.2	—	915

(キ・ク・ケ・コ) 655

キス(鰯魚)	18.1	0.6	—	80
黍(キビ)	10.4	3.6	69.7	362
同(粉)	8.2	4.3	70.4	362
菊 芋	1.9	0.2	16.4	77
衣被芋	1.3	0.2	20.3	90
胡 瓜	0.9	0.1	2.0	13
銀 杏	3.9	2.2	41.7	207
キャベツ	2.9	0.2	8.2	47
キナ粉	15.7	17.3	22.9	319
ク. 鯨(赤肉)	21.0	7.6	—	157
同(皮肉)	9.1	75.3	—	738
鰯魚	22.1	1.7	—	106
乳 酪	6.7	7.2	9.6	134
葛	—	0.1	80.0	329
慈 姑	4.0	0.2	22.2	109
栗(生)	2.9	0.4	36.5	165
同(乾)	10.8	7.2	69.3	395
胡 桃(生)	2.9	0.4	36.5	165
同(乾)	28.5	59.2	3.2	680
ケ. 鶏 肉	21.3	4.6	0.8	133
鶏内臓	18.0	2.0-19.0	3.0	105-263
コ. 鯉	18.0	9.7	—	164
田 作	69.3	21.8	—	487
海鼠腸	8.8	2.7	—	61
鯨	20.4	4.8	—	128
牛尾魚	19.7	0.3	—	84
米 玄米(水田)	8.6	2.0	72.0	353
玄米(陸田)	9.6	2.2	71.4	353

656 (コ・サ)

白米	7.7	0.8	76.8	354	
(無砂燻)					
白米	8.4	0.5	75.7	349	
(混砂燻)					
白米(平均)	6.8	0.3	72.0	326	
外國米(平均)	7.2	0.4	71.9	328	
糯米(平均)	6.7	1.7	75.1	349	
冰餅	7.8	0.1	75.8	344	
米粉	7.4	0.7	79.0	360	
米飯	3.2	0.05	32.3	146	
米麥飯(7:3)	3.3	0.7	29.2	134	
粟飯	5.0	2.7	32.0	177	
麥飯	3.8	0.2	18.7	94	
小麥(本邦)	13.0	1.5	66.4	339	
小麥粉(本邦)	13.2	1.2	69.4	350	
同(英國製)	10.5	0.8	74.3	355	
冰菊蕪	3.8	0	60.0	262	
凍豆腐	50.8	19.4	11.5	436	
菊蕪	1.0	0	6.4	30	
牛蒡	2.4	0.1	22.3	102	
昆布(乾)	6.6	0.9	43.7	215	
胡麻(白)	20.5	51.6	12.6	616	
同(黑)	19.7	44.2	19.4	571	
コンデンス			11.6	乳糖	337
ミルク(日)	9.4	9.2	40.4	乳糖	
同(外)	9.0	8.3	11.4	乳糖	329
咖啡豆	12.6	11.8	41.0	乳糖	
同(焦)	14.1	13.9	28.9		280
ココア	17.0	51.0	42.3		361
サ. 鯖	21.1	4.9	10.9		587
同(鹽漬)	16.1	2.9	—		132
			—		93

(サ・シ) 657

鮭	18.8	12.3	—	192
同(鹽漬)	26.1	3.1	—	136
鮫	24.8	0.5	—	106
針魚	39.2	1.6	—	176
秋刀魚(鹽藏)	28.7	6.6	—	179
鯖	19.2	1.7	—	99
里芋	1.4	0.1	11.7	55
茨隠元	3.7	0.2	3.8	33
茨豌豆	6.6	0.5	12.4	83
櫻實	1.3	—	11.2	51
晒飴	21.8	0.4	63.3	353
サナトゲー	92.7	0.3	—	383
シ. 七面鳥	20.6	22.9	—	297
鹿肉	19.8	1.9	1.4	99
同(罐詰)	24.2	8.9	—	182
シラ魚	18.7	0.3	—	79
シラシボン	49.6	2.1	—	223
蜆	18.4	0.8	—	83
人乳(日)	1.5	3.0	7.6	65
同(外)	2.3	3.8	6.2	70
白瓜	1.2	0.5	4.1	26
同(粕漬)	2.7	—	18.8	88
春菊	1.7	0.2	2.4	19
野山芋(山長芋)	2.8	0.1	18.0	86
椎茸(乾)	11.6	1.7	67.7	341
松露	9.3	0.5	15.8	108
生姜(乾)	7.0	4.0	60.0	312

658 (シ・ス)

生姜(鹽漬)	0.8	0.3	13.6	62
醬油(平均)	7.8	—	5.0	52
酒精飲料				
清酒	—	酒精	14.1 1.7	106
麥酒(麒麟)	0.6	„	4.5 4.6	53
同(朝日)	0.6	„	4.2 4.6	41
同(札幌)	0.7	„	3.8 3.6	44
同(獨)	0.4	„	4.3 4.0	48
同(英)	0.5	„	4.9 2.5	47
葡萄酒(日)	—	„	8.5 —	60
同(佛國)	—	„	10.0 —	70
ウイスキー	—	„	40.0 —	280
コンニャク	—	„	38.0 —	266
ブランデー	—	„	32.4 7.9	259
ラム酒	—	„	35.2 1.1	250
セリー酒	—	„	17.4 2.1	138
焼酎	—	„	45.0 —	315
白酒	—	„	5.0 40.0	200
味淋	—	„	17.2 30.5	245
泡盛	—	„	40.0 —	280
保命酒	—	„	13.3 —	93
三鞭酒	—	„	10.0 13.0	123
桑酒	—	„	16.6 34.6	258
ライン白葡萄酒	—	„	10.2 0.13	82
ス. 鱈	18.6	2.6	—	100
ス. 鰻	69.5	3.2	—	315
ス. 泥鰌	19.4	0.6	—	85

(ス・セ・ソ・タ) 659

西瓜	0.2	—	4.8	21
スモモ 杏	1.0	—	14.7	64
ズイキ	4.1	2.1	41.0	204
セ. 芹	2.0	0.1	3.2	15
センマイ(乾)	20.3	0.5	42.0	260
煎餅	8.0	7.0	80.0	426
ソ. 素麵	8.5	0.8	65.8	312
同(煮)	2.5	0.1	17.1	81
蕎麥	9.0	1.5	58.7	262
蕎麥粉	13.1	2.7	68.7	360
蕎麥切	13.0	—	21.1	140
蠶豆	28.9	1.3	48.7	334
ソツプ(牛肉)	2.8	0.3	—	14
同(鶏肉)	2.3	—	—	9
同(鰻)	2.8	0.1	—	13
同(花野菜)	1.1	4.4	3.2	59
ソマトーゼ	81.4	—	—	334
タ. 鯛(中脂)	18.9	1.9	—	96
鱈(鹽漬)	18.6	0.2	—	78
鮪	16.4	0.3	—	70
同(乾)	73.1	1.3	—	312
タナゴ 鱈魚	18.6	1.2	—	87
タニシ 田螺	19.1	0.5	—	83
大豆	34.7	18.0	27.7	423
玉葱	1.7	0.1	8.0	41
筍(孟宗)	3.3	0.1	4.5	33
同(眞竹)	2.6	0.1	3.3	25
大根	0.7	—	3.7	18

660 (タ・チ・ツ・ト)

大根(切乾)	10.9	2.9	39.6	234
同(味噌漬)	6.1	0.2	16.5	95
同(澤庵漬)	1.4	0.1	6.0	31
茸類(生)	3.5	0.5	7.7	50
同(乾)	19.9	2.6	43.9	286
卵				
鶏卵(日本)	13.2	10.7	1.8	161
同(支那)	13.0	11.2	2.2	166
同(外國)	12.6	12.1	0.6	167
卵白(全卵ノ55%)	12.9	0.3	0.8	59
卵黄(全卵ノ35%)	16.1	31.4	0.5	360
卵焼	7.3	15.8	26.4	285
炒卵	9.8	16.7	0.5	197
家鴨卵	12.2	15.5	—	194
チ. チョコレート	6.3	22.2	67.0	507
ツ. ツグミ	22.2	1.8	1.4	113
佛掌薯	2.9	0.1	16.6	80
ト. トビ魚	56.8	6.6	—	178
豚肉	14.0	28.1	—	319
同(肥肉)	14.5	37.3	—	406
同(瘦肉)	20.3	6.8	—	146
豚脂	0.3	99.0	—	922
玉蜀黍	9.5	3.5	66.7	345
同(粉)	9.6	3.1	71.7	362
豆腐	6.6	3.0	1.1	59
豆腐糟(卵花)	3.7	0.8	6.4	49

(ト・ナ) 661

豆乳	4.2	1.6	3.2	45
冬瓜	0.3	—	1.7	8
石花菜	11.7	—	62.1	303
トマト(赤茄子)	1.1	0.2	4.0	22
ナ. 鱈	18.4	1.4	—	88
刀豆	20.1	1.6	43.0	274
同(莢共)	2.4	0.1	5.3	33
茄子	1.0	0.1	3.1	18
菜				
芥菜	2.5	0.1	6.1	29
京菜(水菜)	2.1	0.2	0.2	11
小松菜	2.5	0.5	1.2	20
苜蓿	1.4	0.3	2.2	18
撮菜	0.4	0.1	2.6	13
唐菜	1.7	0.2	0.9	12
菠薐草	2.3	0.3	1.7	19
三河島菜	2.4	0.6	0.8	19
同(漬物)	2.2	0.3	3.5	26
三ツ葉	0.9	0.1	2.5	15
嬰菜	3.3	0.4	5.5	40
艾	4.5	0.6	7.1	53
冬葱	0.9	0.2	5.0	26
キヤベツ	2.9	0.2	8.2	47
白菜	1.3	0.1	0.1	7
梨	0.4	—	9.1	39
生揚	10.3	8.2	2.0	127
納豆	19.3	8.2	6.1	180

ニ. 鯡(生)	19.4	8.2	6.1	180
同(乾)	68.4	13.9	—	410
人參	1.3	0.4	7.4	39
菘	2.7	0.2	7.4	43
ヌ. 糠	12.2	13.8	14.7	239
ネ. 葱	1.6	0.2	4.4	26
根芋	1.1	0.1	2.5	16
ノ. 海苔(淺草)	30.0	1.3	39.5	297
同(青)	19.4	1.7	46.2	285
ハ. 馬肉	24.5	0.7	—	107
鳩肉	22.1	1.0	—	100
ハム	24.5	22.0	—	305
海鰻	17.1	1.8	—	87
沙魚	18.4	0.5	—	80
蛤	13.2	0.8	—	62
馬鹿貝	11.1	0.6	—	51
ハンペン	6.6	0.3	13.8	86
蜂蜜	1.42	—	43.7	185
バター	0.8	83.7	0.5	784
人工バター (マルガリン)	1.0	88.0	—	823
裸麥	10.3	2.3	69.4	348
鳩麥	13.7	5.4	64.9	372
麵麩(白 小麥製)	7.0	0.1	53.5	249
同(黑裡麥製)	7.2	1.3	46.4	232
馬鈴薯	1.5	0.1	19.2	86
同(澱粉)	0.9	0.1	80.7	335

初茸	3.8	0.8	12.8	75
花キヤベツ	2.5	0.3	4.6	32
バナナ	1.4	0.4	21.6	98
パイナップル	—	—	10.2	42
ヒ. 羊肉	14.5	23.8	—	281
比目魚	19.2	0.5	—	83
羊栖菜	11.4	0.5	54.8	276
枇杷	—	—	6.4	26
稗	9.0	1.0	73.0	345
ヒギヤマ	21.0	13.0	58.0	445
フ. 鰯	22.0	1.5	—	104
鮓	17.9	1.5	—	87
鉄(生)	13.3	0.2	14.4	115
同(切)	27.6	0.5	32.2	250
同(金魚)	57.4	1.0	25.7	350
同(貫錢)	25.9	1.5	58.5	360
フタ	0.4	0.04	2.7	13
鵲豆(莢共)	2.3	0.2	2.4	21
葡萄	1.0	—	14.4	63
同(乾)	2.5	0.6	70.0	303
ホ. 鱈魚	22.0	4.3	—	130
竹麥魚	18.1	3.3	—	105
ホシイ 繡(道明寺)	5.1	0.4	80.8	356
マ. 鮪(少脂)	17.1	4.5	—	112
同(多脂)	15.8	10.6	—	163
鱒	17.9	8.7	0.7	154
同(鹽)	34.1	4.0	—	177
同(罐)	67.2	2.3	—	297

松茸	2.9	0.6	10.9	62
甜瓜	1.2	0.5	4.1	16
マカロニー	10.9	0.6	75.5	360
ミ. 味噌(平均)	12.3	3.6	18.0	158
同(白)	10.2	5.1	14.6	149
同(赤鹹)	15.4	5.9	11.4	165
同(赤淡鹹)	10.7	6.0	19.2	178
蜜柑	1.1	—	5.6	27
ム. 鮭	18.0	6.2	—	131
麥魚粉	7.4	3.3	68.5	342
メ. 目刺 (シコメザシ)	29.2	6.2	—	177
モ. 桃	0.9	—	9.3	42
ヤ. 山羊乳	5.6	6.5	4.6	103
八頭	2.8	0.3	25.7	120
ユ. 豆腐皮	51.6	15.6	6.7	384
百合	3.3	0.1	24.2	114
ヨ. 羊羹(平均)	4.0	0.2	60.0	264
ラ. 落花生	27.5	44.5	15.7	591
蕪(酢漬)	0.9	0.1	7.9	37
リ. 林檎	0.3	—	8.9	38
レ. 蓮根	1.7	0.1	10.9	53
ワ. 前魚	20.0	0.9	—	90
蕨	2.8	0.1	1.4	18
裙帶菜	11.6	0.3	37.8	205

V. 日本製紙巻煙草ノ「ニコチン」
含有量 (Nikotingehalt der
japanischen Zigaretten)

本邦製紙巻煙草ヲ其「ニコチン」含有量ノ順ニ隨テ掲グレバ
次ノ如シ.

順位	品名	一本ノ重量 (瓦)	ニコチン量(延)	
			1本中	1瓦中
1.	スター	0.999	9.5	9.510
2.	ホマレ	0.786	8.0	9.033
3.	敷島	0.726	5.5	7.576
4.	ヤヨビ	0.334	2.5	7.485
5.	カメリヤ	0.886	6.0	6.772
6.	國華	0.608	4.0	6.579
7.	エアージュッ	0.995	6.5	6.533
8.	バット	0.973	7.0	6.166
9.	不二	0.686	3.5	5.102
10.	大和	0.651	3.0	4.608
11.	カホリ	0.680	3.0	4.412
12.	朝日	0.635	2.7	4.252
13.	タツタ	0.658	1.5	2.280

日本製煙草有限公司
 (Nippon Tobacco Co., Ltd.)
 Japanese Cigarettes

東京市本郷區龍岡町三十二番地
 電話小石川七六八七番

大正十三年十二月十四日第一版印刷
 大正十三年十二月十七日第一版發行

不許複製

內科ノ治療ト處方

正價金五圓

著者 福島東

發行者 田中恒

印刷者 柴山則常

印刷所 杏林舎

電話小石川 { 七七九番
 四七二五番

東京市本郷區龍岡町三十二番地 [振替東京四一八番]
 電話小石川七六八七番

發行所 吐鳳堂書店

大正十三年十二月十四日第一版印刷

大正十三年十二月十七日第一版發行

不許複製

內科ノ治療ト處方

正價金五圓

著者 福島東

東京市本郷區龍岡町三十二番地

發行者 田中恒

東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷者 柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷所 杏林舎

電話小石川 { 七七九番
 四七二五番

東京市本郷區龍岡町三十二番地 [振替東京四一八番]
 電話小石川七六八七番

發行所 吐鳳堂書店

53
219

終